一般国道９号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書１０

高原遺跡（3 区）・中尾 H 遺跡（4 区）・門遺跡（2 区）

2017．6

国土交通省松江国道事務所
島 根 県 教 育 委 員 会

一般国道９号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書１０

高原遺跡（3 区）・中尾 H 遺跡（4 区）・門遺跡（2 区）

2017．6

国土交通省松江国道事務所
島 根 県 教 育 委 員 会

高原遺跡（3 区）上空から西側を望む

巻頭図版 2

中尾 H 遺跡（4 区）上空から東側を望む

序

現在、一般国道９号の大田市朝山町～久手町間については、緊急時の代替路線の確保、医療・観光・物流活動の支援を目的として、中国地方整備局松江国道事務所では山陰自動車道の一部である朝山・大田道路を平成１９年度に事業化し、整備を進めています。

道路整備にあたり、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、道路建設地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

この報告書は平成２６年度に実施した大田市波根町上川内に所在する高原遺跡（３区)、同市久手町刺鹿に所在する中尾Ｈ遺跡（４区）と門遺跡（２区）の発掘調査成果をとりまとめたものです。今回の調査では中世の石塔や縄文時代から古代の川跡などを検出し、当時の生活の様子を考える上で貴重な資料を得ることができました。本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の道路整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査および調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

平成29年6月

国土交通省中国地方整備局

松江国道事務所長　鈴木　祥弘

序

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて実施した一般国道9号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の内、平成２６年度に実施した高原遺跡（３区）、中尾H 遺跡（４区）、門遺跡（２区）の発掘調査成果をとりまとめたものです。

高原遺跡（3区）は、大田市波根町に所在する中近世の遺跡で、建物跡や石塔の基壇などを検出しました。また、同市久手町の中尾H遺跡（4区）では、縄文時代から古代にかけて流れていた川跡や、石器、土器などの遺物を、門遺跡（2区）では弥生時代から古代までの土器類を確認しました。今回の調査により、大田市東部地域における縄文時代から、古代、中近世にかけての社会や、人々の生活の様子を知る上で貴重な資料を得ることができました。本書が地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたりご協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、大田市教育委員会、地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年6月

島根県教育委員会

教育長　　鴨　木　　朗

例　言

1．本書は、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成 26 年度に実施した一般国道 9 号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。

2．本書で報告する遺跡は次のとおりである。

高原遺跡（3 区）（大田市波根町上川内 371 ほか）、中尾 H 遺跡（4 区）（大田市久手町刺鹿 232-22）、門遺跡（2 区）（大田市久手町刺鹿 1465-2）

3．調査組織は次の通りである。

調査主体　島根県教育委員会

平成 26 年度　現地調査

［事　務　局］　廣江耕史（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）
池淵俊一（管理課長）

［調査担当者］　林　健亮（調査第二課長）、是田　敦（企画員）、内田律雄（嘱託）、飯塚由起（臨時職員）

平成 28 年度　報告書作成

［事　務　局］　萩　雅人（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）
池淵俊一（管理課長）

［調査担当者］　林　健亮（調査第三課長）、是田　敦（調査第四係長）、秦愛子（臨時職員）、
小川一樹（臨時職員）

4．現地調査および整理作業において、以下の方々からご指導いただいた。

今岡　稔（島根県文化財愛護協会役員）、中村唯史（島根県立三瓶自然館サヒメル）

5．発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、掘削、測量等）については、島根県教育委員会から株式会社堀工務店に委託した。

6．出土した木製品の樹種鑑定は公益財団法人大阪市博物館協会に委託した。

7．挿図中の北は、測量法による第Ⅲ平面直角座標系 X 軸方向を指し、座標系の XY 座標は世界測地系による。また、レベル高は海抜高を示す。

8．本書第 3 図は、国土地理院発行の 1/25,000 地図を使用して作成したものである。

9．本書に掲載した写真は、空中撮影写真を除き是田が撮影した。

10. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

目　次

第１章　調査に至る経緯と経過 ……1
第２章　遺跡の位置と歴史的環境 ……3
第３章　高原遺跡（3 区）……8
　第１節　調査の経過と概要 ……8
　第２節　調査の方法 ……10
　第３節　基本層序 ……10
　第４節　３区北側の調査 ……12
　第５節　３区南側の調査 ……19
　第６節　小結 ……20
第４章　中尾Ｈ遺跡（4 区）……22
　第１節　調査の経過と概要 ……22
　第２節　調査の方法 ……22
　第３節　基本層序 ……24
　第４節　遺物包含層と出土遺物 ……24
　第５節　小結 ……24
第５章　門遺跡（2 区）……30
　第１節　調査の経過と概要 ……30
　第２節　調査の方法 ……30
　第３節　基本層序 ……33
　第４節　遺構と遺物 ……34
　第５節　小結 ……35
第６章　総括 ……38

挿図目次

第 1 図　本書所収遺跡の位置 ……3
第 2 図　高原遺跡・中尾Ｈ遺跡・門遺跡の位置と周辺の河川 ……4
第 3 図　高原遺跡・中尾Ｈ遺跡・門遺跡と周辺の遺跡 ……5
第 4 図　高原遺跡調査区配置図 ……9
第 5 図　高原遺跡（3 区北側）グリッド配置図 ……11
第 6 図　高原遺跡（3 区北側）平面図 ……13
第 7 図　高原遺跡（3 区北側）東側セクション ……14
第 8 図　高原遺跡（3 区北側）西側セクション ……14
第 9 図　高原遺跡（3 区北側）SB01 実測図 ……15
第 10 図　高原遺跡（3 区北側）SB02 実測図 ……15
第 11 図　高原遺跡（3 区北側）SB03 実測図 ……16
第 12 図　高原遺跡（3 区北側）SB04 実測図 ……16
第 13 図　高原遺跡（3 区北側）SD01 実測図 ……16
第 14 図　高原遺跡（3 区北側）出土遺物実測図① ……17
第 15 図　高原遺跡（3 区北側）出土遺物実測図② ……18
第 16 図　高原遺跡（3 区南側）石塔基壇実測図 ……20
第 17 図　高原遺跡（3 区南側）・旭山遺跡採集石塔実測図 ……21
第 18 図　中尾 H 遺跡調査区配置図 ……23
第 19 図　中尾 H 遺跡（4 区）地形測量図 ……25
第 20 図　中尾 H 遺跡（4 区）土層断面図 ……25
第 21 図　中尾 H 遺跡（4 区）出土遺物実測図① ……26
第 22 図　中尾 H 遺跡（4 区）出土遺物実測図② ……27
第 23 図　中尾 H 遺跡（4 区）出土遺物実測図③ ……28
第 24 図　中尾 H 遺跡（4 区）出土遺物実測図④ ……29
第 25 図　門遺跡調査区配置図 ……31
第 26 図　門遺跡（2 区）平面図 ……32
第 27 図　門遺跡（2 区）土層断面図 ……33
第 28 図　門遺跡（2 区）SD01・SD02・SD03 実測図 ……34
第 29 図　門遺跡（2 区）出土遺物実測図① ……36
第 30 図　門遺跡（2 区）出土遺物実測図② ……37

表目次

第１表　一般国道９号（朝山大田道路）改築工事に伴う本発掘調査一覧表 ……2
第２表　高原遺跡（３区北側）出土土器一覧表 ……39
第３表　高原遺跡（３区北側）出土石器一覧表 ……40
第４表　高原遺跡（３区北側）出土古銭一覧表 ……40
第５表　高原遺跡（３区南側）出土石塔部材一覧表 ……40
第６表　中尾Ｈ遺跡（４区）出土土器一覧表 ……41
第７表　中尾Ｈ遺跡（４区）出土石器一覧表 ……42
第８表　中尾Ｈ遺跡（４区）出土木器一覧表 ……42
第９表　門遺跡（２区）出土土器一覧表 ……43
第 10 表　門遺跡（２区）出土石器一覧表 ……44
第 11 表　門遺跡（２区）出土木器一覧表 ……44

写真図版目次

巻頭図版１　高原遺跡（３区）上空から西側を望む
巻頭図版２　中尾Ｈ遺跡（４区）上空から東側を望む
図版１　高原遺跡（３区）上空から東側を望む
高原遺跡（３区）調査前状況
図版２　高原遺跡（３区北側）SB01 完掘状況
高原遺跡（３区北側）SB02・SB03・SD01 完掘状況
図版３　高原遺跡（３区北側）東側セクション（北側）
高原遺跡（３区北側）東側セクション（南側）
図版４　高原遺跡（３区北側）西側セクション（南側）
高原遺跡（３区北側）西側セクション（北側）
図版５　高原遺跡（３区南側）調査前状況（遠景）
高原遺跡（３区南側）調査前状況（北側から撮影）
図版６　高原遺跡（３区南側）調査前状況（東側から撮影）
高原遺跡（３区南側）調査前状況（西側から撮影）
高原遺跡（３区南側）石塔基壇セクション
図版７　高原遺跡（３区南側）調査完了状況（北側から撮影）
高原遺跡（３区南側）調査完了状況（南側から撮影）
図版８　高原遺跡（３区南側）調査完了状況（東側から撮影）
高原遺跡（３区南側）調査完了状況（西側から撮影）
図版９　高原遺跡（３区北側）調査完了状況（真上から撮影）
高原遺跡（３区）調査完了状況（西側から撮影）
図版 10　高原遺跡（３区北側）出土土師器
高原遺跡（３区北側）出土須恵器

図版 11　高原遺跡（3 区北側）出土擂鉢
高原遺跡（3 区北側）出土陶器①
図版 12　高原遺跡（3 区北側）出土陶器②
高原遺跡（3 区北側）出土磁器・染付
高原遺跡（3 区北側）出土石鏃（第 15 図 14）
高原遺跡（3 区北側）出土銭貨（第 15 図 20）
図版 13　高原遺跡（3 区北側）出土打製石斧（第 15 図 15）
高原遺跡（3 区北側）出土磨製石斧（第 15 図 16）
高原遺跡（3 区北側）出土砥石・石硯
図版 14　高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 1）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 2）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 3）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 4）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 5）
図版 15　高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 6）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 7）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 8）
旭山遺跡採集石塔部材（第 17 図 9）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 10）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 11）
図版 16　高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 12）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 13）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 14）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 15）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 16）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 17）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 18）
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 19）
図版 17　中尾 H 遺跡（4 区）上空から西側を望む
中尾 H 遺跡（4 区）調査前状況（西側から撮影）
図版 18　中尾 H 遺跡（4 区）南西壁セクション
中尾 H 遺跡（4 区）南東壁セクション
図版 19　中尾 H 遺跡（4 区）礫検出状況（北東側から撮影）
中尾 H 遺跡（4 区）礫検出状況（近景）
図版 20　中尾 H 遺跡（4 区）調査完了状況（北東側から撮影）
中尾 H 遺跡（4 区）調査完了状況（真上から撮影）
図版 21　中尾 H 遺跡（4 区）出土縄文土器①
中尾 H 遺跡（4 区）出土縄文土器②

図版 22　中尾 H 遺跡（4 区）出土縄文土器③
中尾 H 遺跡（4 区）出土弥生土器①
図版 23　中尾 H 遺跡（4 区）出土弥生土器（第 22 図 10）
中尾 H 遺跡（4 区）出土須恵器
図版 24　中尾 H 遺跡（4 区）出土尖頭器（第 23 図 1）
中尾 H 遺跡（4 区）出土石器①
図版 25　中尾 H 遺跡（4 区）出土石器②
中尾 H 遺跡（4 区）出土打製石斧・磨製石斧
図版 26　中尾 H 遺跡（4 区）出土凹石（第 24 図 1）
中尾 H 遺跡（4 区）出土磨石（第 24 図 2）
中尾 H 遺跡（4 区）出土木製品
中尾 H 遺跡（4 区）出土漆器椀（第 24 図 6）
図版 27　中尾 H 遺跡（4 区）出土木簡（第 24 図 8：表面）
中尾 H 遺跡（4 区）出土木簡（第 24 図 8：裏面）
中尾 H 遺跡（4 区）木簡赤外線写真（第 24 図 8：表面）
中尾 H 遺跡（4 区）木簡赤外線写真（第 24 図 8：裏面）
図版 28　門遺跡（2 区）上空から北東を望む
門遺跡（2 区）調査前状況（南側から撮影）
図版 29　門遺跡（2 区）北西壁セクション（南西側）
門遺跡（2 区）北西壁セクション（北東側）
門遺跡（2 区）南西壁セクション
門遺跡（2 区）南東壁セクション
図版 30　門遺跡（2 区）SD01・SD02・SD03 完掘状況
門遺跡（2 区）SD01・SD03 セクション
門遺跡（2 区）SD02 セクション
図版 31　門遺跡（2 区）完掘状況（真上から撮影）
門遺跡（2 区）完掘状況（北東側から撮影）
図版 32　門遺跡（2 区）出土縄文土器・弥生土器
門遺跡（2 区）出土土師器
図版 33　門遺跡（2 区）出土弥生土器（第 29 図 5）
門遺跡（2 区）出土土師器坏（第 29 図 16）
門遺跡（2 区）出土須恵器
図版 34　門遺跡（2 区）出土石皿（第 30 図 16）
門遺跡（2 区）出土木製品（第 30 図 17）
門遺跡（2 区）出土木製品赤外線写真（左：表面・右：裏面）

第１章　調査に至る経緯と経過

国道９号は、京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約 750km で、山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。しかし近年は、都市部を中心にしばしば交通渋滞が発生し、このため都市間の円滑な連携や生活環境の確保が困難な状況となってきており、その様相は島根県下出雲市及び大田市周辺においても例外ではなくなっていた。特に出雲市と大田市の境である仙山峠付近は急カーブが連続するため交通事故が多発するなど交通の難所とされ、平成 18（2006）年７月には地滑り災害により全面通行止めとなるなど主要幹線道路としての機能に支障をきたしている。このような課題を解決するため、交通混雑を緩和して円滑な交通を確保し、地域社会の発展に資するため、また、今日的な課題となっている災害時緊急連絡としての機能を発揮させるために国土交通省により朝山大田道路（延長 6.3km、大田市朝山町朝倉～大田市久手町刺鹿）の整備・建設が計画されて事業化が図られ、平成 18（2006）年３月に都市計画決定された。

この計画・事業化に当たり、国土交通省から島根県教育委員会に対して、平成 19（2007）年度に朝山大田道路建設予定地内の遺跡の有無について照会があった。これを受けて島根県教育委員会では大田市教育委員会の協力の下、平成 19（2007）年度以降、数次にわたり予定地内における遺跡の分布調査を実施した。その結果、要注意箇所の９か所を含めて全部で 22 か所の調査対象地を確認し、国土交通省に回答した。

以後、この結果を受けて、国土交通省と島根県教育委員会の間で適時協議が行われ、予定地内の埋蔵文化財調査について、具体的に検討が行われた。協議の経過の中で、平成 22（2010）年３月 12 日付け国中整松一官第 272 号で文化財保護法第 94 条第１項の規定による通知が文化庁長官あてに提出された。それに対し、平成 22 年３月 12 日付け島教文財第２号の 74 で、島根県教育委員会教育長から 13 遺跡の記録保存のための発掘調査の実施が勧告された。

その後の協議を経て、島根県教育委員会では平成 22（2010）年度から予定地内の発掘調査を開始することとなり、予定地内の西側に位置する中尾Ｈ遺跡（１区・２区）の発掘調査に着手した。翌平成 23（2011）年度には市井深田遺跡、門遺跡（１区）、高原遺跡（１区）の、平成 24（2012）年度には荒槇遺跡、鈴見Ｂ遺跡（１区）、高原遺跡（２区）の発掘調査を行うとともに、門遺跡（１区）・高原遺跡（１区）・中尾Ｈ遺跡（１区・２区）について、発掘調査報告書を刊行した。平成 25（2013）年度には中尾Ｈ遺跡（３区）、鈴見Ｂ遺跡（２区）、旭山遺跡の発掘調査を行うとともに、市井深田遺跡・荒槇遺跡・鈴見Ｂ遺跡（１区）の報告書作成を行った。平成 26（2014）年度には、高原遺跡（３区）、城ヶ谷遺跡（１区）、大西大師山遺跡、神谷遺跡、涼見Ｅ遺跡、中尾Ｈ遺跡（４区）、門遺跡（２区）の発掘調査を行う傍らで、高原遺跡（２区）及び鈴見Ｂ遺跡（２区）の発掘調査報告書の作成を行った。平成 27（2015）年度には大西大師山遺跡の発掘調査を行う傍らで、旭山遺跡・中尾Ｈ遺跡（３区）・城ヶ谷遺跡（１区）・神谷遺跡・涼見Ｅ遺跡・大西大師山遺跡の発掘調査報告書の作成を行った。平成 28（2016）年度には鈴見Ｂ遺跡（３区）、城ヶ谷遺跡（２区）、大西大師山遺跡の発掘調査を行う傍らで、本書及び大西大師山遺跡、鈴見Ｂ遺跡（３区）、城ヶ谷遺跡（２区）の発掘調査報告書の作成を行った。

第１表　一般国道９号（朝山大田道路）改築工事に伴う本発掘調査一覧表

調査年度	遺跡名	概要
平成 22（2010）年度	中尾 H 遺跡（1 区・2 区）	旧河道を検出。縄文時代後期を中心とする遺物が多数出土。他に荷札木簡が出土。
平成 23（2011）年度	高原遺跡（1 区）	旧河道を検出。古墳時代前期を中心とする遺物が出土。他に木簡が出土。
	門遺跡（1 区）	旧河道を検出。古代を中心とする遺物が出土。他に墨書土器が出土。
	市井深田遺跡	6 世紀から 9 世紀前半にかけての集落を検出。
平成 24（2012）年度	高原遺跡（2 区）	旧河道を検出。古墳時代を中心とする遺物が出土。
	荒槇遺跡	中世の木棺墓を検出。漆付着の土器が出土。
	鈴見 B 遺跡（1 区）	旧河道を検出。弥生時代前期から近世までの遺物が出土。
平成 25（2013）年度	中尾 H 遺跡（3 区）	旧河道を検出。古墳時代後期から古代の遺物が出土。
	旭山遺跡	中世末の集落を検出。寺院跡の可能性もあり。
	鈴見 B 遺跡（2 区）	古墳時代後期の集落を検出。鍛冶関連遺物が出土。
平成 26（2014）年度	高原遺跡（3 区）	本書所収。16 世紀前半の石塔を検出。
	中尾 H 遺跡（4 区）	本書所収。旧河道を検出。縄文時代後期を中心とする遺物が出土。
	門遺跡（2 区）	本書所収。古墳時代や古代の溝状遺構を検出。木簡が出土。
	城ヶ谷遺跡（1 区）	明治期の連房式登窯跡 2 基と、7 世紀後半の集落を検出。
	神谷遺跡	7 世紀後半から 8 世紀前半の横口付炭窯 4 基を検出。
	大西大師山遺跡（西側）	6 世紀後半から 7 世紀前半の横穴墓 10 基を検出。
	涼見 E 遺跡	古墳時代中期の古墳を 2 基検出。
平成 27（2015）年度	大西大師山遺跡（東側）	6 世紀後半から 7 世紀前半の横穴墓を 7 基検出。
平成 28（2016）年度	鈴見 B 遺跡（3 区）	古墳時代後期を中心とした遺構・遺物を検出。
	城ヶ谷遺跡（2 区）	7 世紀代の竪穴建物跡 2 棟を検出。
	大西大師山遺跡（西側）	横穴墓を 2 基検出。

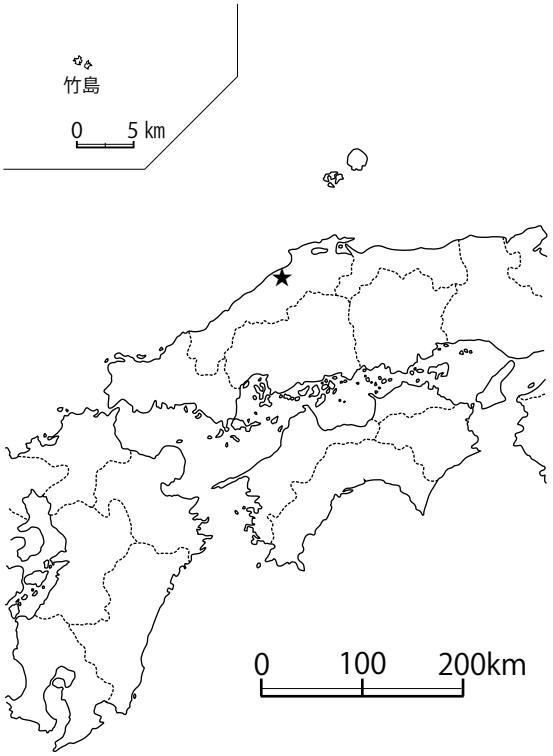
第２章　遺跡の位置と歴史的環境

大田市の海岸部は、中国山地縁辺部の小丘陵を縫うように流れる小河川により形成された谷地形が連続しているが、久手町から波根町の間に広がる旧波根湖は、昭和 26 年に干陸化されてからは広々とした水田地帯となっている。旧波根湖は、元々は湾入しており、中世以前は潟湖だったことが判っている。徐々に砂州が発達し、近世頃には完全に日本海と切り離され、淡水湖になったと考えられる。湾入していた中世以前には港湾があったようで、1592 年頃に明で成立したと言われる『日本風土記』(註 1) には「番祢（波根か）」「山子介（刺鹿か）」など港湾と考えられる地名が見えるほか、現在でも「大津」など港湾を思わせる字が残っている。

旧石器・縄文時代　大田市域では旧石器時代の遺跡は知られていないが、本書所収の中尾 H 遺跡（4 区）（2）では、尖頭器が出土しており、縄文時代早期から草創期にさかのぼる可能性がある。大田市域では三瓶山の厚い火山灰層に覆われ、旧石器時代の遺構の検出が困難だと思われてきたが、今後の資料の増加が期待される。その三瓶山北麓では三瓶小豆原埋没林が発見されており、炭化木片について 4310 ± 80BP の年代が測定され、この頃に三瓶山の大規模な噴火があったことが推定される。

大田市東部では、縄文時代の遺跡は、三瓶川中流域の夏焼遺跡（大田市大田町野城）など、わずかしか知られていなかったが、近年になって縄文時代の遺跡の発見が急増している。波根川遺跡(5) (註 2) では昭和 59（1984）年に行われた河川改修工事中に擦消縄文土器が採集されている他、高原遺跡 (1) や門遺跡 (3) でも縄文土器が出土している。中尾 H 遺跡の出土遺物は縄文後期を中心に、縄文前期・中期に遡る土器も含んでおり、年代幅の広い遺物群が確認されている。また、出土遺物には、石に線刻によって絵を描いたと見られるものや、大型石棒なども含まれており、当時の精神世界を伺う可能性もある資料として注目されている。こうした資料の急増から、三瓶山北麓の丘陵地帯から海岸部にかけては、広範囲にわたり縄文時代の人々が活動した様子が想像され、今後も縄文時代の遺跡の発見が増加する可能性が高い。

弥生時代　旧波根湖周辺では弥生時代の遺跡として確認された例は多くはないが、三瓶川や静間川下流域の平野部には、土江遺跡（大田市長久町土江）・八日市遺跡（同静間町八日市）など弥生時代に集落が営まれていたと考えられる遺跡が存在する。また、大田市鳥井町の丘陵部に展開する鳥井南遺跡では、弥生中期から古墳後期にかけての大規模な集落跡が発見された。弥生時代の遺構には、焼失住居が含まれているほか、備後北部で見られる塩町式土器が多数出土し、備後北部との交流が推定される。弥生後期の竪穴建物跡からは鉄製鋤先が出土し、大量に出土した土器とともに重



第 1 図　本書所収遺跡の位置

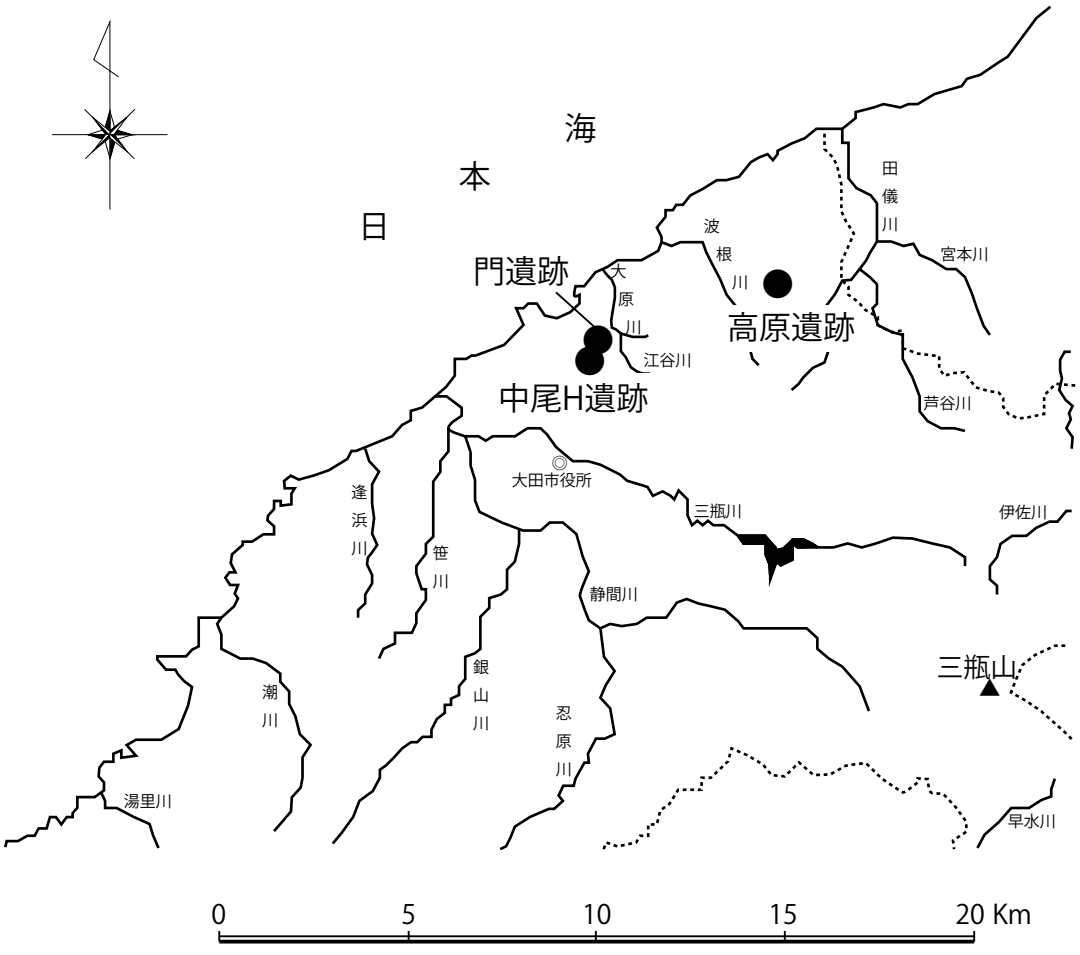
要な資料となっている。

朝山大田道路の発掘調査では中尾 H 遺跡（1･2 区）(2)、門遺跡（3）[註 3]、荒槇遺跡（60）[註 4]、高原遺跡（1）から弥生土器が出土しており、特に江谷川に面した荒槇遺跡では弥生時代を通じた遺物が見られ、波根湖南岸に弥生集落が継続して営まれていたことがうかがわれる。

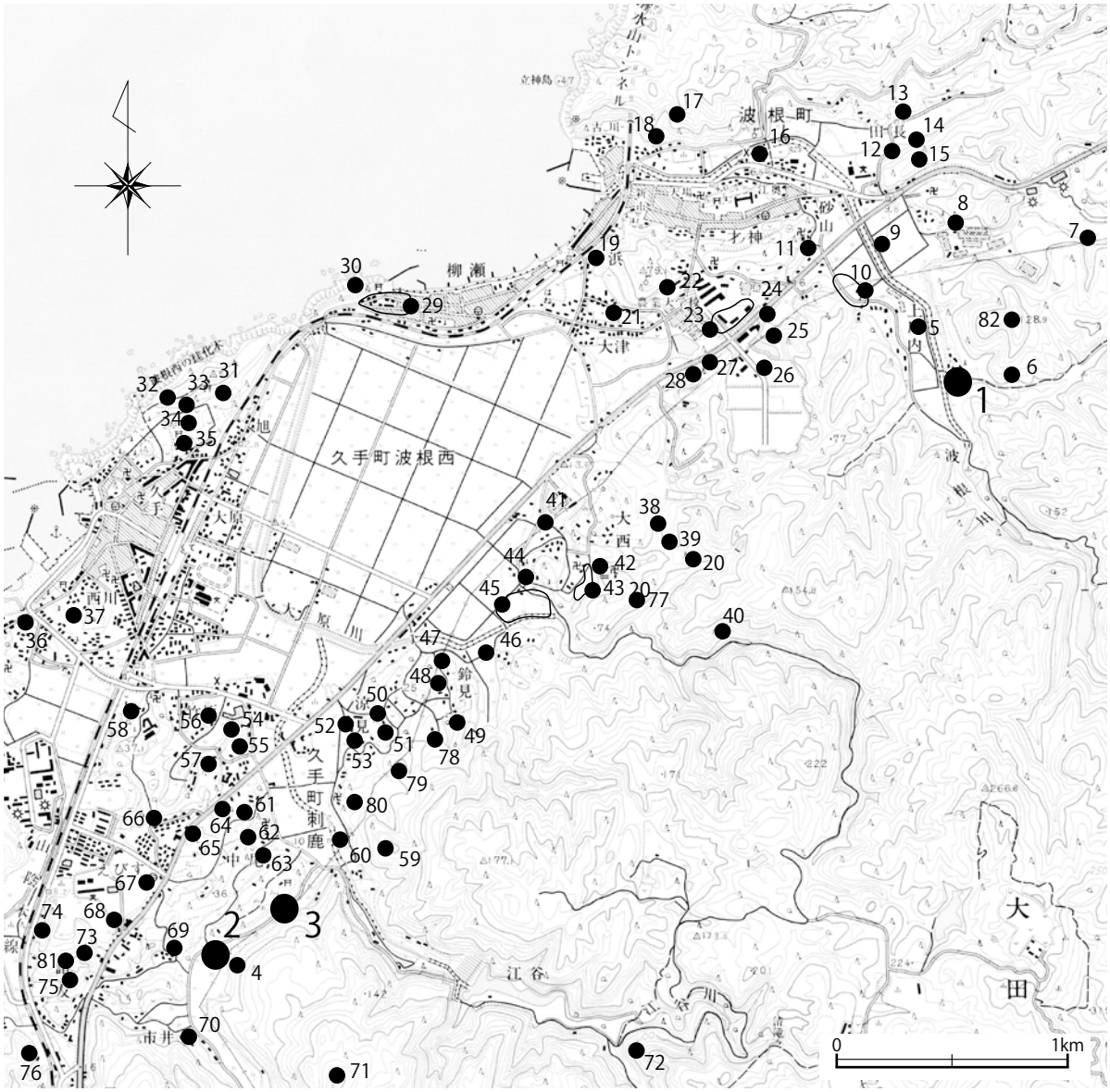
古墳時代　旧波根湖の西岸には、この地域で唯一の前半期古墳とも推定される竹原古墳（54）がある。直径 40m、高さ 3m 以上の円墳と思われ [註 5]、大田市域では最大級の規模を持つ。旧波根湖沿岸地域で竹原古墳 の以外に墳丘を持つ古墳の存在は知られていなかったが、平成 26（2014）年度には涼見 E 遺跡（79）の発掘調査で、土師器小型丸底壺を伴う小規模な古墳が発見されている。

旧波根湖の南岸に続く丘陵部から西側にかけては、石見地方でも有数の横穴墓の密集地帯として知られている。現在、島根県立農林大学校の敷地になっている松田谷横穴群（23）は、少なくとも 4 支群 15 穴が確認されており、耳環や玉類が出土している。諸友大師山横穴群（67）でも 3 支群 15 穴が確認され、多量の土器類とともに、大刀などの鉄器類や玉類、石製紡錘車など豊富な副葬品が確認された。西迫横穴（26）は、大田市域では少ない四注式切妻整正家形を呈し、整った 2 基の屍床を備えた大型の横穴墓である。大西大師山横穴群（42）に続く丘陵部に位置する大西大師山遺跡（77）では、平成 26（2014）年度から平成 28（2016）年度に 19 基の横穴墓を調査し、石製紡錘車を始め耳環や大刀などが出土した。

集落跡については、古くから上川内遺跡（高原地区）（10）[註 6] を始め、柳瀬西遺跡（29）、大西 C 遺跡（45）などで古墳時代の遺物の出土が知られていたが、朝山大田道路関係の発掘調査に



第 2 図　高原遺跡・中尾 H 遺跡・門遺跡の位置と周辺の河川



1　高原遺跡　2　中尾Ｈ遺跡　3　門遺跡　4　市井深田遺跡　5　波根川遺跡　6　旭山遺跡
7　大暮遺跡　8　田長横穴群　9　田長遺跡　10　上川内遺跡　11　砂口遺跡　12　前谷Ａ遺跡
13　前谷Ｂ遺跡　14　前谷Ｃ遺跡　15　幸迫谷横穴群　16　江奥遺跡　17　金比羅山横穴群
18　東灘遺跡　19　中浜遺跡　20　近谷遺跡　21　大津遺跡　22　砂山遺跡　23　松田谷横穴群
24　天王平廃寺　25　高砂遺跡　26　西迫横穴　27　中山曽根横穴　28　熊屋谷横穴群
29　柳瀬西遺跡　30　鰐走城跡　31　旭遺跡　32　刈田神社裏山Ａ遺跡　33　刈田神社裏山Ｂ遺跡
34　刈田神社裏山遺跡　35　刈田神社横遺跡　36　新田Ａ遺跡　37　新田Ｂ遺跡　38　銭神山横穴
群 39　暮石横穴群　40　六曽根遺跡　41　大西Ｄ遺跡　42　大西大師山横穴群　43　大西Ａ遺跡
44　大西Ｂ遺跡　45　大西Ｃ遺跡　46　鈴見Ｂ遺跡　47　鈴見Ａ遺跡　48　鈴見上ヶＡ遺跡
49　涼見上ヶＢ遺跡　50　涼見Ｄ遺跡　51　涼見Ｂ遺跡　52　涼見Ａ遺跡　53　涼見Ｃ遺跡
54　竹原古墳　55　竹原Ｂ遺跡　56　竹原Ａ遺跡　57　竹原Ｃ遺跡　58　市庭遺跡　59　岩山城跡
60　荒槇遺跡　61　中尾Ｃ遺跡　62　中尾Ｄ遺跡　63　中尾Ｅ遺跡　64　森ノ上遺跡
65　辻遺跡　66　中尾Ｂ遺跡　67　諸友大師山横穴群　68　二中横穴群　69　中尾横穴
70　市井遺跡　71　段山城跡　72　江谷横穴　73　山田庫夫宅裏横穴群　74　鳥越Ａ遺跡
75　諸友西横穴群　76　栗林Ｂ遺跡　77　大西大師山遺跡　78　神谷遺跡　79　涼見Ｅ遺跡
80　城ヶ谷遺跡　81　鳥越城跡　82　上川内砦跡

第 3 図　高原遺跡・中尾Ｈ遺跡・門遺跡と周辺の遺跡

よって遺跡が急増している。古墳時代後期～古代の集落遺跡である市井深田遺跡（4）[註7]や平成26（2014）年に発掘調査を行った城ヶ谷遺跡（80）[註8]では、造り付け竈を持つ加工段が発見されており、移動式竈や土製支脚と同時に造り付け竈を使用していた可能性がある。一方、平成25（2013）年度に実施した鈴見B遺跡（2区）（46）の発掘調査では造り付け竈が見られず、近接する同時期の集落であってもその様相が一様ではないことが注意される。このほか、波根町上川内の高原遺跡（1）や久手町刺鹿の中尾H遺跡（2）・門遺跡（3）・荒槇遺跡（60）などで古墳時代の遺物が大量に出土しており、入海の南岸部が当時の人々の生活に適した環境だったことがうかがわれる。

古代　大田市東部は『和名類従抄』に安濃郡波禰郷・刺鹿郷と見える。旧波根湖は、古代には入海だったと考えられることから、この付近は水上交通を含め、交通の要衝であったことが考えられる。この旧波根湖を見下ろす位置に天王平廃寺（24）があり、塔を含む2基の乱石積み基壇が発見されている。出土遺物には瓦類のほか、銅製の水煙があり、大型の塔が建っていたことが判る。出土遺物には「大」をヘラ描きした瓦などが含まれている。

古代の遺物では、中尾H遺跡（1・2区）（2）で出土した木簡が注意される。「二斗一升二合」「石□（花カ）」と読める031形式の木簡が出土しており、「石花」が、石華＝カメノテと考えられることから、海産物のカメノテを貢納する際の荷札木簡[註9]と推定されている。こうした木簡が出土したことから、近隣に波禰駅や末端官衙などが存在した可能性がある。

平成26（2014）年度に発掘調査が行われた神谷遺跡（78）では、4基の横口付炭窯[註10]が発見され、出土した遺物などから奈良時代頃に操業していたと考えられる。通称ヤツメウナギとも言われる横口付炭窯は、出雲部では4遺跡が知られているが、石見部では初の発見である。横口付炭窯は、製鉄との関係が指摘されており、旧波根湖周辺での製鉄遺跡の発見が期待される。

中世・近世　現在までに大田市東部で中世前半の遺跡は多くは知られていない。三瓶ダム建設工事に伴って調査された円城寺前遺跡（大田市野城町）では僧坊跡などが発見され、鍛冶炉や橋脚、青磁・白磁などの貿易陶磁も出土している。古墳時代の横穴墓で知られる諸友大師山横穴群（67）からは、一字一石経を埋納した経塚が発見されているほか、高砂遺跡（25）では、瓦経が出土している。

16世紀になって石見銀山の開発が本格化すると、銀山の支配を巡って大内氏・毛利氏と尼子氏等が争うことになる。このため大田市東部でも、旭山遺跡（6）の背後にそびえる上川内砦跡（旭山城跡）（82）をはじめ、鰐走城跡（30）、岩山城跡（59）など多くの山城が造られる。上川内砦跡の直下に位置する旭山遺跡（6）では、瓦質土器香炉や輸入陶磁器などが出土し、上川内砦跡に関わる中世末の寺院の可能性[註11]も推定されている。また、本書所収の高原遺跡（3区）（1）では、16世紀代と考えられる福光石製の石塔類が発見されている。

石見と出雲の境である仙山峠東側の出雲市側では、田儀桜井家が鳥取県西部から購入した浜砂鉄を主原料に島根半島や隠岐から運んだ木炭を使用して銑鉄を生産した越堂たたら跡[註12]（出雲市多伎町口田儀）が知られているが、石見地方でも同様に、水運を利用し砂鉄・木炭を購入して海岸部でたたらを操業する例が知られており、大田市東部でも同様の遺跡が発見される可能性がある。

〈註〉

（1） 候　継高　享和 2（1802）年 『日本風土記』

（2） 渡辺　聡・糸川寿幸　2012 年 「波根川遺跡出土の縄文土器」『島根考古学会誌』第 29 集　島根考古学会

（3） 島根県教育委員会　2013 年 『門遺跡・高原遺跡 I 区・中尾 H 遺跡』

（4） 島根県教育委員会　2014 年 『市井深田遺跡・荒槇遺跡・鈴見 B 遺跡』

（5） 島根県教育委員会　1970 年 『島根県埋蔵文化財調査報告』第 2 集

（6） 大田市教育委員会　1981 年 『大田市埋蔵文化財調査報告 1　上川内遺跡－田長・高原地区－』

（7） 註 4 に同じ

（8） 島根県教育委員会　2016 年 『城ヶ谷遺跡（1 区）・神谷遺跡・涼見 E 遺跡』

（9） 註 3 に同じ

（10） 註 8 に同じ

（11） 島根県教育委員会　2016 年 『旭山遺跡・中尾 H 遺跡（3 区）』

（12） 出雲市教育委員会　2008 年 『田儀櫻井家たたら製鉄遺跡発掘調査報告書　－平成 16~18 年度の調査－』

〈参考文献〉

大田市教育委員会　1984 年 『三瓶川流域遺跡他詳細分布調査Ⅱ』

角川書店　1991 年 『角川日本地名大辞典 32　島根県』

島根県教育委員会　1984 年 『島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅱ　石見部製鉄遺跡』

島根県教育委員会　1997 年 『島根県中近世城館分布調査報告書〈第 1 集〉石見の城館』

島根県教育委員会　2002 年 『増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）』

島根県教育委員会　2015 年 『鈴見 B 遺跡（2 区）』

島根県教育委員会　2015 年 『高原遺跡（2 区）』

島根県教育委員会　2016 年 『旭山遺跡・中尾 H 遺跡（3 区）』

島根県教育委員会　2016 年 『大西大師山遺跡』

島根県教育委員会　2017 年 『鈴見 B 遺跡（3 区）』

平凡社　1995 年 『日本歴史地名体系第 33 巻　島根県の地名』

第３章　高原遺跡（３区）

第１節　調査の経過と概要

高原遺跡は波根川とその支流が形成した谷部に位置する。平成 19（2007）年度に実施した分布調査で遺跡の範囲とした広がりは東西 400 mを越える広大な範囲で、その総面積は約 19,500㎡にも及んだ。この範囲に含まれている遺跡の最初の発掘調査は昭和 52（1977）年に大田市教育委員会がほ場整備事業に伴って実施した上川内遺跡（高原地区）の調査である。この調査では、波根川左岸側の河川敷内にあった石積みについて発掘調査を行い、古墳時代を中心とした多量の土器類を採集した。土器類は、石積みの基部や内部から出土したものであるが、時期が逆転するなど、石積みと遺物の時期との関係が一様ではなく、後世に積まれたものと考えられ、古墳時代の遺構を確認することはできなかった。

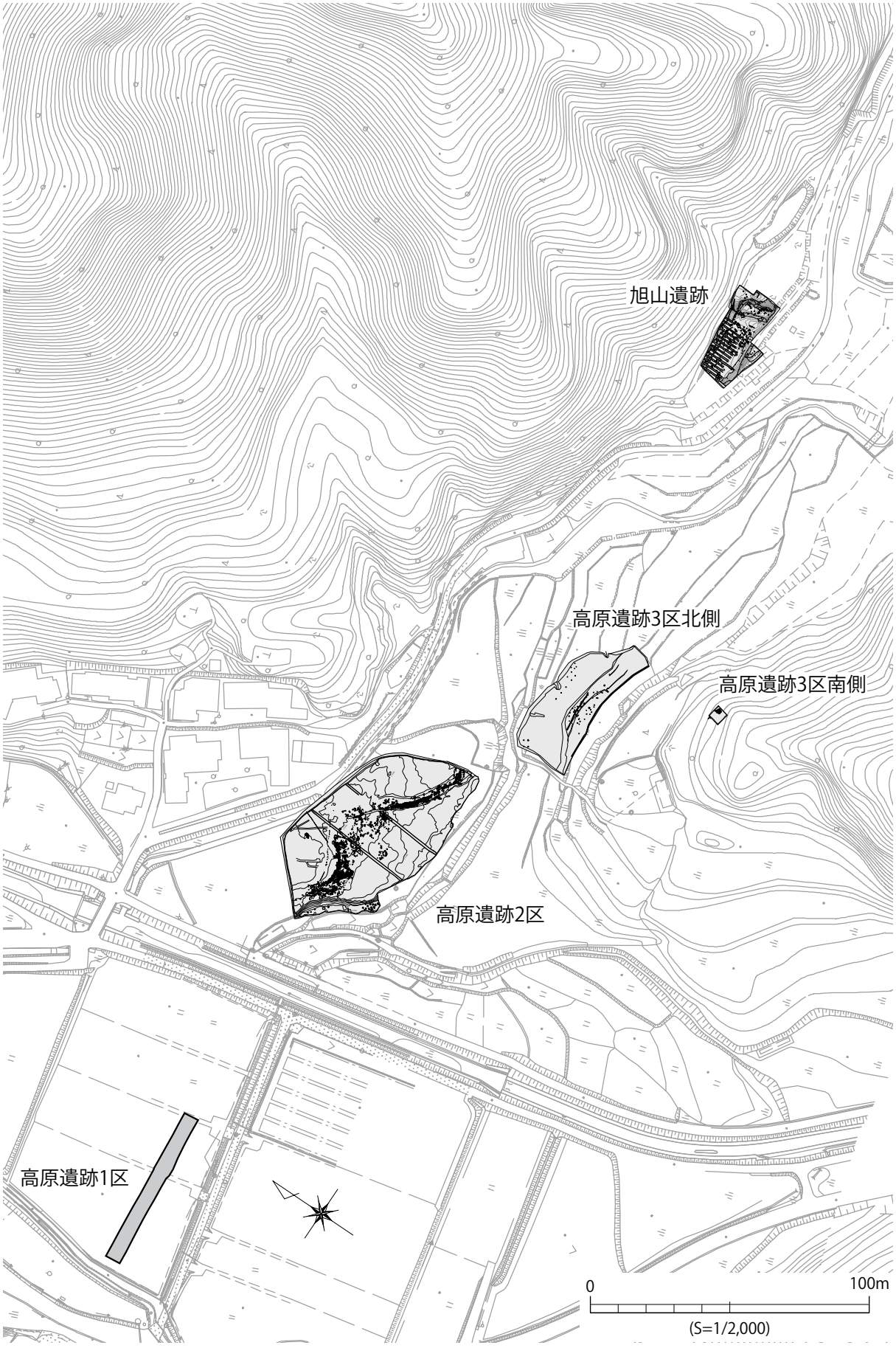
平成 22（2010）年度からは、一般国道 9 号（朝山大田道路）改築工事に影響する部分について、国土交通省による伐採等の事前準備を終えた場所から試掘確認・本発掘調査を実施している。この内、高原遺跡については平成 22（2010）年度に農道の付け替え範囲に含まれる波根川左岸の約 420㎡について 10 箇所のトレンチを設定して試掘調査を行い、420㎡を 1 区として本調査対象地とした。

平成 23（2011）年度には高原遺跡 1 区の本調査を行った。弥生時代から江戸時代の土器・石器・木製品が多数出土した。土器類には、古墳時代前期のものが多く出土し、木製品の中には古代の木簡と考えられるものが 1 点含まれていた。1 区の調査成果は平成 24（2012）年度に発掘調査報告書を刊行している。また平成 23（2011）年度には、波根川右岸側について 23 箇所のトレンチを設定して試掘調査を行い、調査対象地のうち北側を 2 区、南側を 3 区として、試掘調査の追加と本調査の実施が必要となった。

平成 24（2012）年度には高原遺跡 2 区の試掘調査と本調査を行った。2 区東側の約 2,400㎡については試掘調査で明確な遺構が見られなかったため、本調査対象地とはしなかった。西側の 2,700㎡では本調査を行い、古墳時代を中心に、縄文時代から近世まで各時代の遺物が出土した。特に古墳時代の土器類は、完形近くまで復元可能なものが複数含まれ、すぐ近くで使用され、造成によって移動してきたと考えられる。2 区の調査成果は平成 26（2014）年度に発掘調査報告書を刊行している。

平成 25（2013）年度に高原遺跡 3 区東半と 4 区（3 区より東側）について 12 箇所のトレンチを設定して試掘調査を行ったが、遺構を検出できなかったため、本調査対象地とはしなかった。

平成 26 年（2014）度には 3 区の西半分の発掘調査を行った。当初は北側の平坦地 1,055㎡のみの調査予定であったが、南側に石塔部材が散乱している場所を確認したことから、この場所も調査対象として発掘調査を実施した。この調査成果については本書で報告する。



第 4 図　高原遺跡調査区配置図（S=1/2,000）

第２節　調査の方法

調査区の設定　調査地は平坦地と、平坦地から約 28m 南側に位置する傾斜地の 2 箇所に分かれる。平坦地は標高 20m ～ 22m の緩斜面を造成した田圃であったが、調査前は植林地となっていた。面積は 1,055㎡あり、石垣で上下 2 段に区分されていた。上段は 1 枚の田圃で、下段は東西に 2 枚の田圃に区画されていた。傾斜地は標高約 35m ～ 36m の斜面で、面積は 25㎡である。調査前は林地で、地表に石塔の部材が散乱していた。本書では平坦地を 3 区北側、傾斜地を 3 区南側とする。3 区北側は調査にあたり、X=-84,720、Y=34,560 を基準にして 10m 四方のグリッドを設定した。各グリッドの名称は調査区南西隅を起点に南北方向を 1 ～ 4 に、東西方向を A ～ F に割り振って、A1、A2・・・F3 と呼んだ（第 5 図）。

表土掘削　3 区北側については、耕作土と石垣の除去はバケットに平爪を装着したバックフォーを使用した。3 区南側についてはスコップを用いて人力で掘削した。

遺物包含層掘削・遺構の精査　遺物包含層については、主としてスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中する箇所は草削り・移植ゴテで掘り下げた。

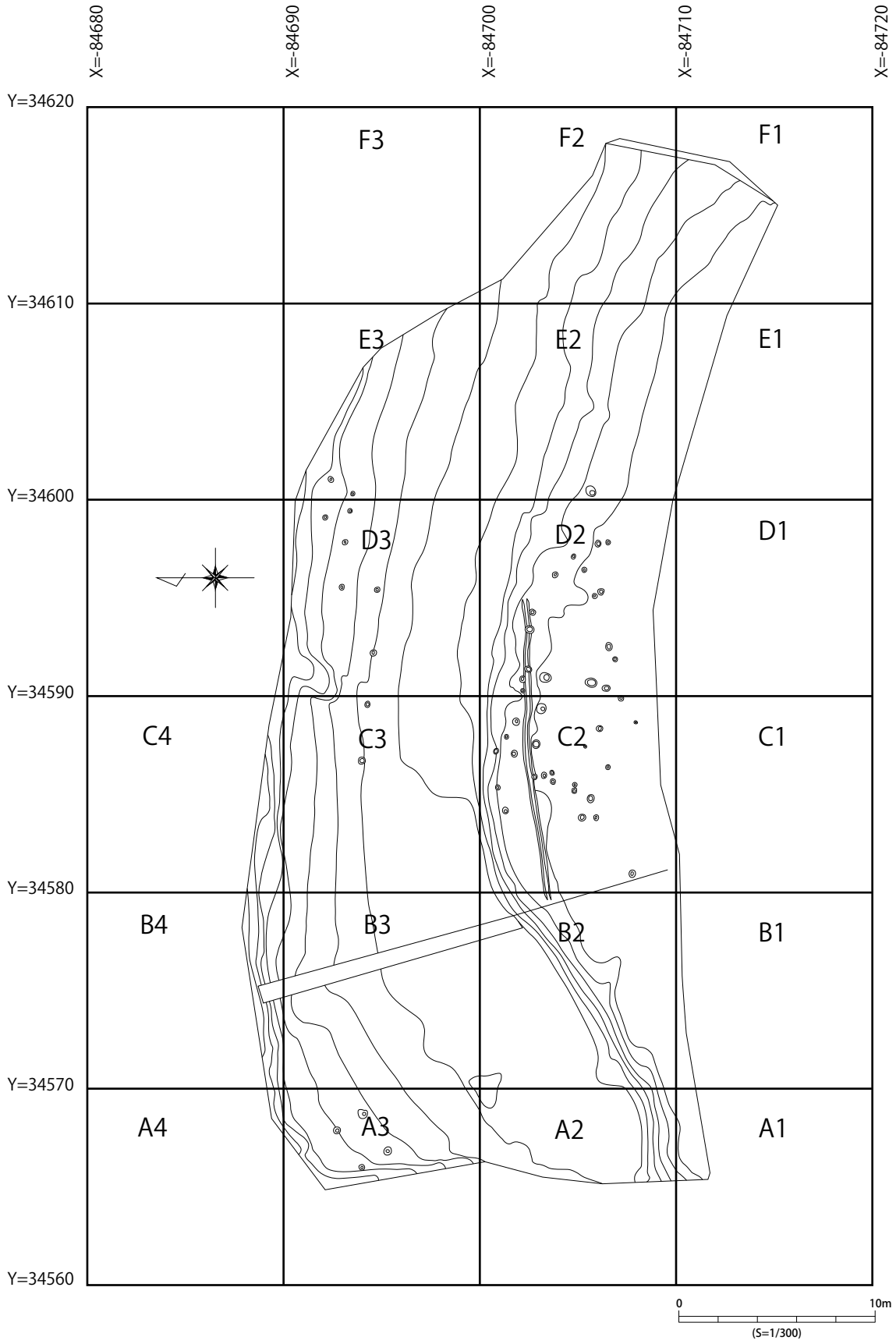
記録の作成　遺跡の平面図は、遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。その他報告書掲載が見込まれる遺物は基本的に遺跡調査システムで出土位置を記録した。遺構の写真は原則として 35mm デジタルカメラ及び 6 × 7 判カメラによる撮影を行った。

整理作業・報告書作成　報告書作成は DTP 方式で行った。遺物図面は実測図を、遺構図面は平面図・断面図等をレイアウトした下図をデジタルトレースした。デジタルトレースや図の加工は Adobe 社製 Illustrator CS5、Adobe 社製 Photoshop CS5 を用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、Adobe 社製 Photoshop CS5 を用いてコントラスト調整し EPS データ化した。最終的な原稿執筆、編集作業は Adobe 社製 In Design CS5 を用いて行った。

第３節　基本層序

3 区北側の基本層序は、表層から①暗灰黄色粘質土層（第 7 図 1 層）、②黄褐色粘質土層（第 7 図 2 層）③明黄褐色粘質土層（第 7 図 15 層、第 8 図 9 層）の順で堆積する。①層は田圃の耕作土、②層は田圃の床土、③層は地山である。田圃の段の際では、表層から①暗灰黄色粘質土層（第 7 図 7 層）、②にぶい黄褐色粘質土層（第 7 図 9 層、第 8 図 2 層）、③明黄褐色土層（第 8 図 3 層）、④にぶい黄褐色粘質土層（第 8 図 4 層）、⑤明黄褐色粘質土層（第 7 図 15 層、第 8 図 9 層）の順で堆積する。①層は田圃の耕作土、②層・③層・④層は田圃を造成する際に⑤層を削って盛土した土層、⑤層は地山である。以上の堆積状況から、調査地は傾斜地を広く削平し、端部に盛土をして平坦地を造成したことがわかった。また遺構は、大半が削平されており、田圃の段の際にかろうじて残っている状況であった。

3 区南側の基本層序は表層から①腐植土層（第 16 図 1 層）、②地山（第 16 図 2 層・3 層・4 層）の順で堆積する。基壇に伴う盛土は確認できなかった。



第 5 図　高原遺跡（3 区北側）グリット配置図（S=1/300）

第 4 節　3 区北側の調査

検出遺構

3 区北側は上下二段に分かれている。南側約 1/3 が上段で、北側約 2/3 が下段となる。遺構は下段で掘立柱建物跡 2 棟、上段で掘立柱建物 2 棟、溝状遺構 1 条を検出した。

SB01（第 9 図） 調査区の北西隅に位置する。1 間× 1 間で、東西 2.2m、南北 1.56 mを測る。Pit.1 からは方形に加工された柱根が出土した。北側に低く傾斜している。造成等により床面が削られ傾斜したのか、傾斜地に高床建物を建築したのかは不明である。遺構に伴う遺物は出土していない。遺構の時期は不明である。

SB02（第 10 図） 調査区上段の中央北側に位置する。東西 2 間の掘立柱建物跡と考えられる。東西 3.4m あり、Pit.1 と Pit.2 の間は 1.6m、Pit.2 と Pit.3 の間は 1.8m ある。北側が削平されているため南北の規模は不明である。また柱穴は浅いもので 20㎝程度であることから、遺構の掘り込み面は削平されている可能性が高い。遺構に伴う遺物は出土していない。遺構の時期は不明である。

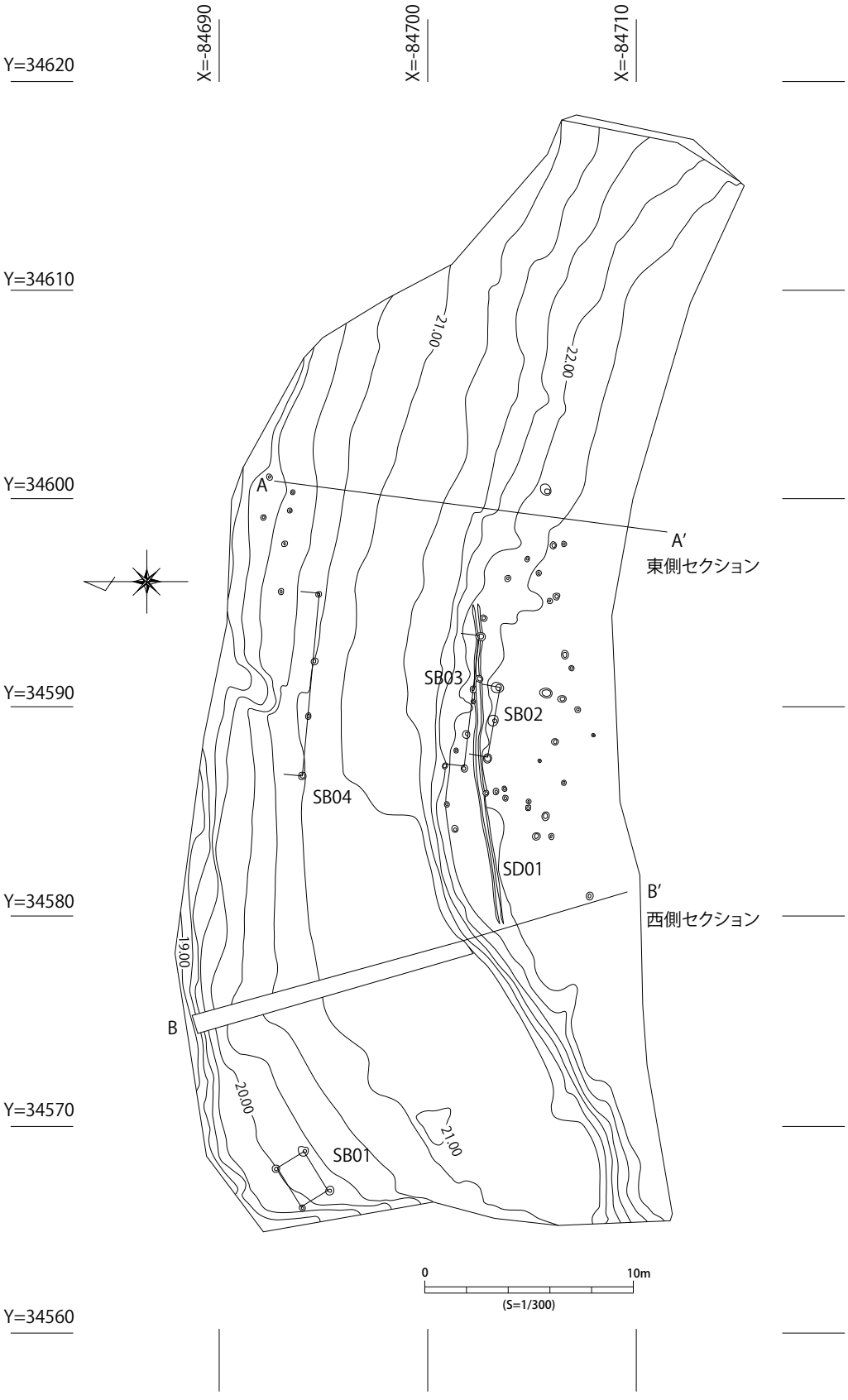
SB03（第 11 図） 調査区上段の中央北端に位置する。SB02 が南側に隣接する。東西 3 間の掘立柱建物跡と考えられる。東西 6.3m あり、Pit.1 と Pit.2 の間は 1.6m、Pit.2 と Pit.3 の間は 2.2m、Pit.3 と Pit.4 の間は 2.5m ある。北側が削平されているため南北の規模は不明である。また柱穴は浅いもので 20㎝程度であることから、遺構の掘り込み面は削平されていると可能性が高い。遺構に伴う遺物は出土していない。遺構の時期は不明である。

SB04（第 12 図） 調査区下段の中央の北端に位置する。東西 3 間の掘立柱建物跡と考えられる。東西 8.8m あり、Pit.1 と Pit.2 の間は 3.2m、Pit.2 と Pit.3 の間は 2.7m、Pit.3 と Pit.4 の間は 2.9m ある。北側が削平されているため南北の規模は不明である。また柱穴は浅いもので 20㎝程度であることから、遺構の掘り込み面は削平されていると可能性が高い。遺構に伴う遺物は出土していない。遺構の時期は不明である。

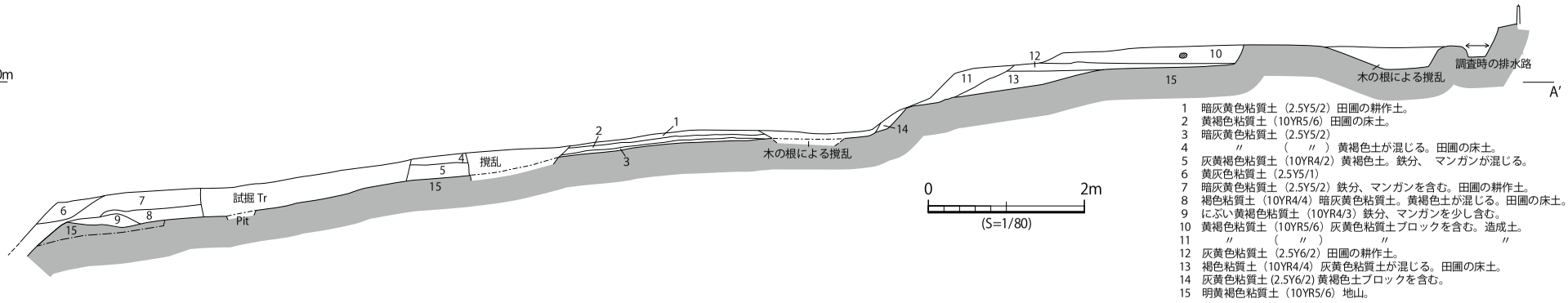
SD01（第 13 図） 調査区上段の中央北側に位置する東西に延びる溝である。幅 30㎝前後で、深さは 15㎝前後、長さは 15m ある。SB03 の Pit.3 と Pit.4 を切っている。時期は不明である。

出土遺物

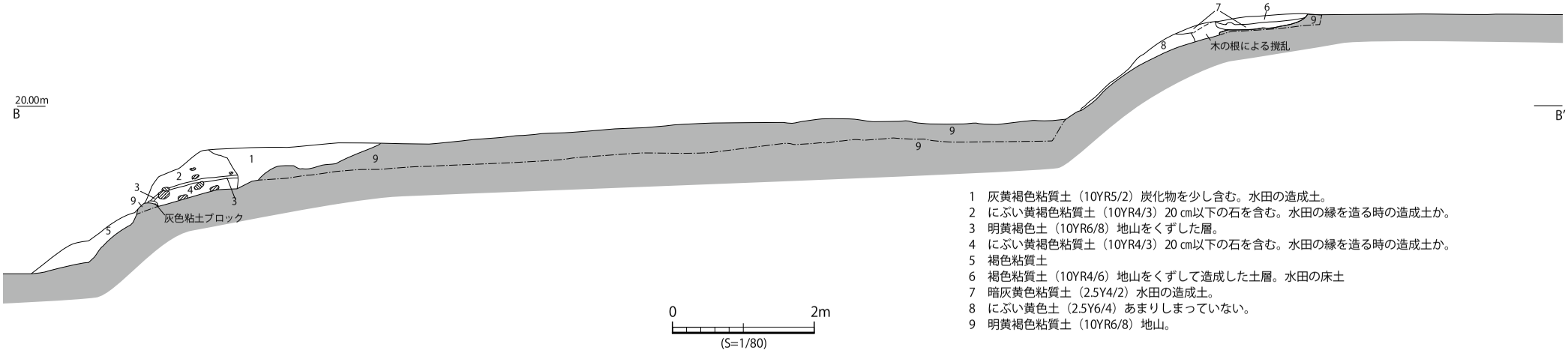
遺物の大半は褐色粘質土層より縄文時代から近世までの遺物が混在し出土した。出土地点は C3、D3、E3 が多く、その他のグリットでの出土数は少なかった。C3、D3、E3 の北側は削平が少なく、褐色粘質土層が多く残存していたためと考えられる。最も多く出土した遺物は土師器（第 14 図 1・2・6 ～ 10）と須恵器（第 14 図 3 ～ 5）であるが大半が細片であった。他には陶器（第 14 図 11 ～ 26）、磁器（第 15 図 1 ～ 13）が出土している。陶器には擂鉢（第 14 図 11 ～ 15）が多く、磁器は青磁の碗（第 15 図 1 ～ 8）が多い。石器・石製品では、石鏃（第 15 図 14）打製石斧（第 15 図 15）、磨製石斧（第 15 図 16）など縄文時代の石器のほか、中近世の遺物と考えられる石硯（第 15 図 18 ～ 19）が出土している。その他に寛永通宝が 1 点（第 15 図 20）出土している。



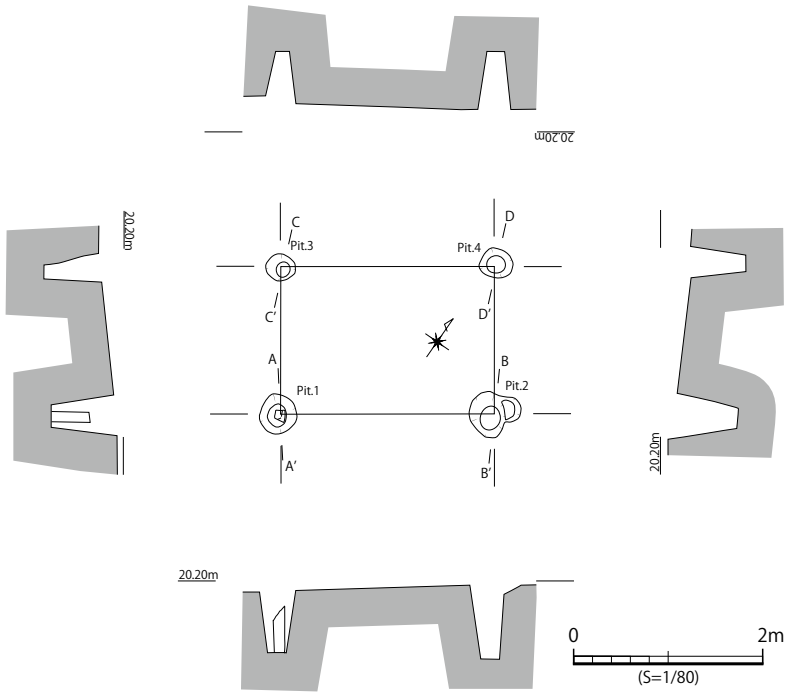
第 6 図　高原遺跡（3 区北側）平面図（S=1/300）



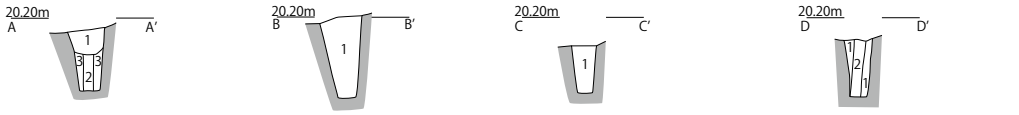
第 7 図　高原遺跡（3 区北側）東側セクション（S=1/80）



第 8 図　高原遺跡（3 区北側）西側セクション（S=1/80）



Pit.1　Pit.2　Pit.3　Pit.4



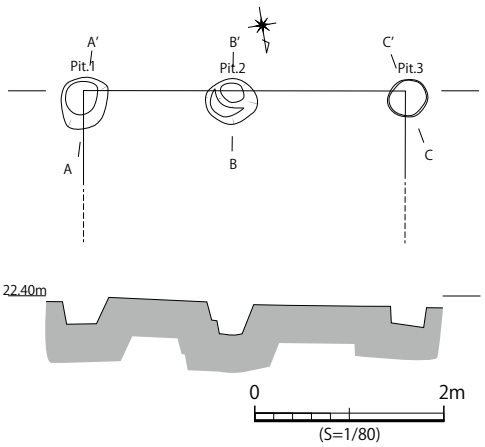
1　暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
　　黄褐色ブロックを含む
2　柱根　柱痕の芯と木質片　水
3　灰黄色粘質土（2.5Y7　/2）
　　黄褐色ブロックを含む

1　暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
　　黄褐色土ブロックを含む

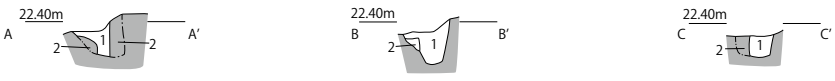
1　暗灰黄色粘質土（7.5Y5/2）
　　黄褐色土ブロックを含む

1　暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
　　黄褐色土ブロックを含む
2　〃　（　〃　）
　　黄褐色土ブロックを含む、マンガンを多く含む

第 9 図　高原遺跡（3 区北側）SB01 実測図（S=1/80）



Pit.1　Pit.2　Pit.3

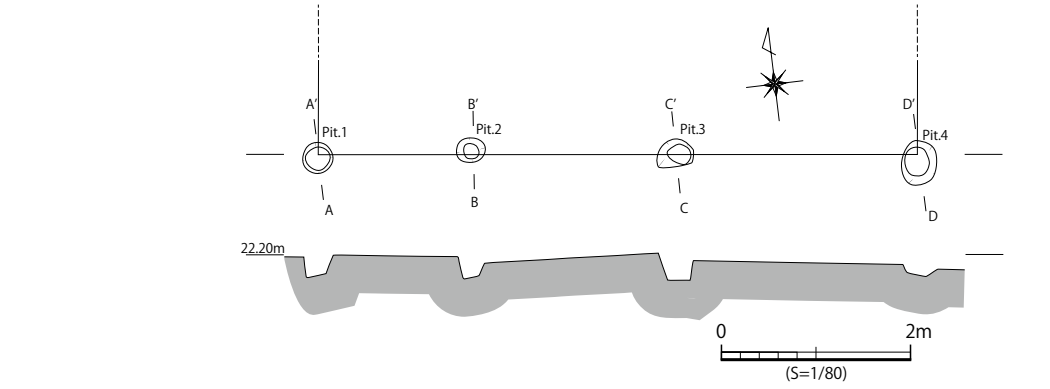


1　にぶい黄褐色粘質土（10YR5/3）
　　炭化物を少し、マンガンを多く含む
2　黄褐色粘質土（10YR5/6）
　　地山

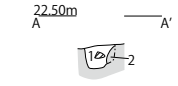
1　にぶい黄褐色粘質土（10YR5/3）
　　炭化物を少し含む
2　にぶい黄褐色粘質土（10YR5/3）
　　黄褐色土ブロックを多く含む

1　にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3）
　　炭化物を少し含む。黒褐色ブロック（10YR3/2）を含む
2　黄褐色土（10YR5/8）
　　黒褐色ブロック（10YR3/2）を含む。地山

第 10 図　高原遺跡（3 区北側）SB02 実測図（S=1/80）

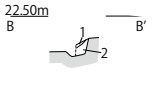


Pit.1



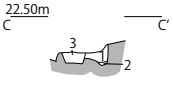
1 灰黄褐色粘質土（10YR5/2）
黄褐色ブロック（10YR5/6）を含む
2 黄褐色粘質土（10YR5/6）
地山

Pit.2



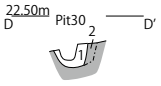
1 灰黄褐色粘質土
（10YR5/2）
炭化物と礫を含む
2 にぶい黄橙色粘質土
（10YR7/2）

Pit.3



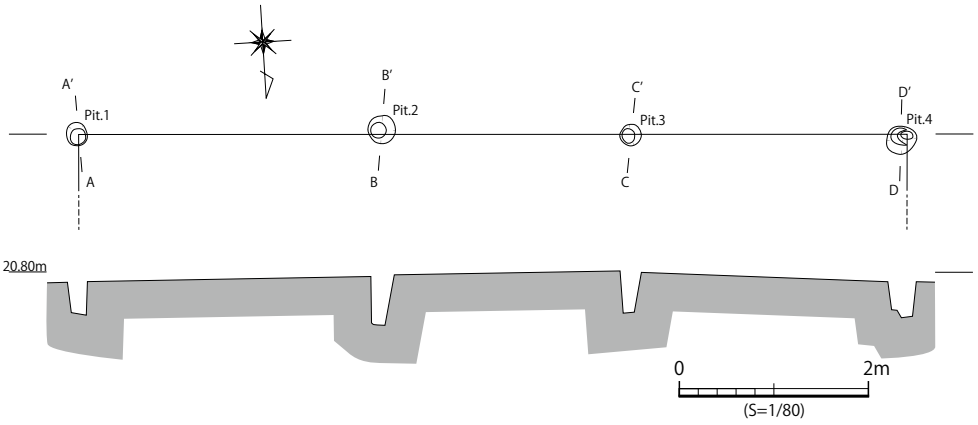
1 にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）
マンガンを少し含む
2 灰黄褐色粘質土（10YR4/2）
3 褐灰色粘質土（10YR4/1）
黄褐色ブロックを含む

Pit.4

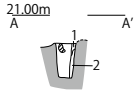


1 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
白色ブロックと炭化物を含む
2 黄褐色粘質土（10YR5/6）
地山

第 11 図　高原遺跡（3 区北側）SB03 実測図（S=1/80）

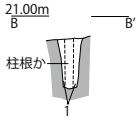


Pit.1



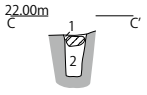
1 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
2 にぶい黄褐色土（10YR5/4）

Pit.2



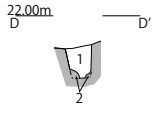
1 にぶい黄褐色土
（10YR5/4）

Pit.3



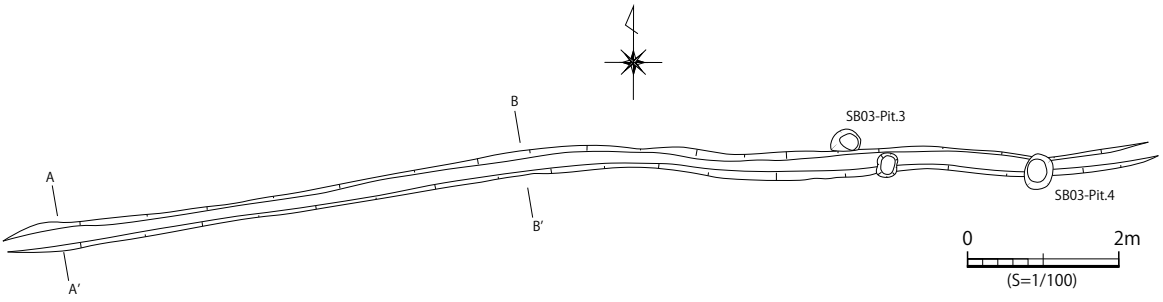
1 にぶい黄褐色粘質土（10YR6/4）
黄褐色ブロック、白色ブロックを含む
2 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
黄褐色粘質土ブロックが混じる

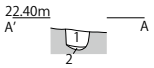
Pit.4



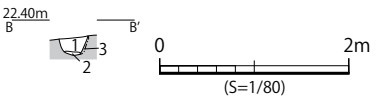
1 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
白色ブロックと炭化物を少し含む
2 明黄褐色粘質土（10YR6/6）
地山

第 12 図　高原遺跡（3 区北側）SB04 実測図（S=1/80）



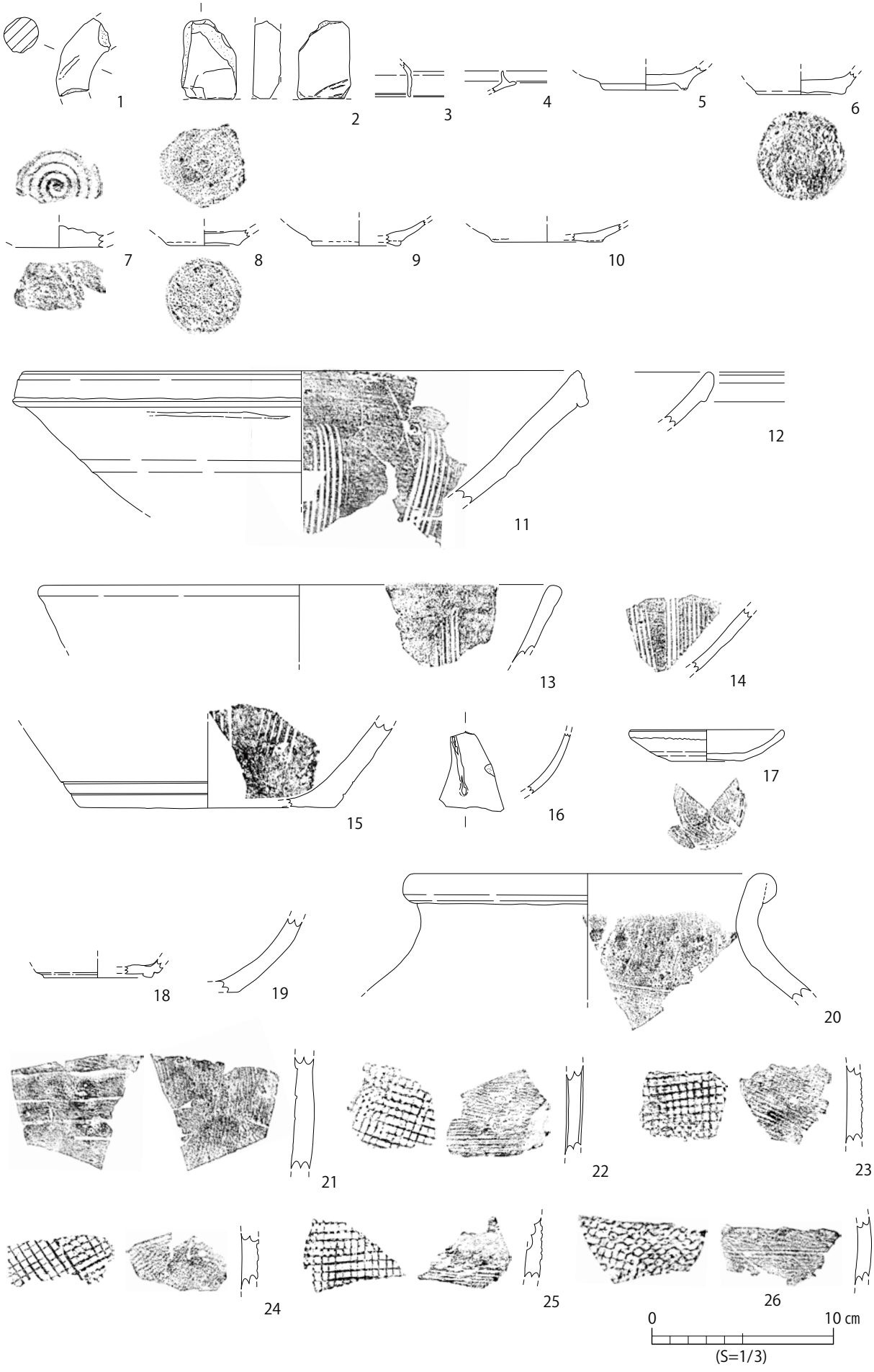


1 にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）マンガンを少し含む
2 灰黄褐色粘質土（10YR4/2）

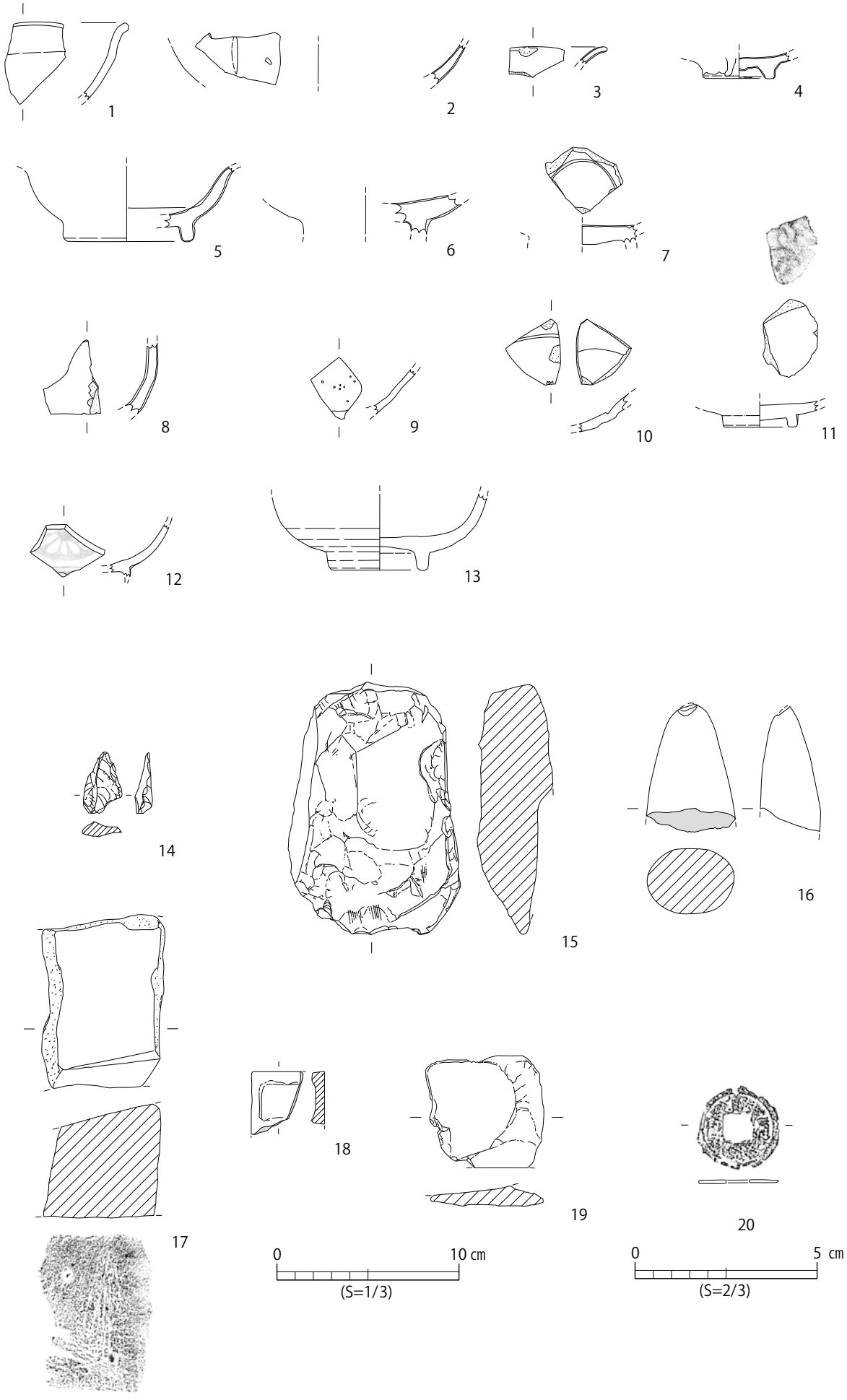


1 にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）マンガンを少し含む
2 灰黄褐色粘質土（10YR4/2）
3 にぶい黄色土(2.5Y6/4)地山

第 13 図　高原遺跡（3 区北側）SD01 実測図（平面図は S=1/100、断面図は S=1/80）



第 14 図　高原遺跡（3 区北側）出土遺物実測図①（S=1/3）



第 15 図　高原遺跡（3 区北側）出土遺物実測図②（1~19 は S=1/3、20 は S=2/3）

第 5 節　3 区南側の調査

3 区南側は北側に面する標高約 35m ～ 36m の傾斜地に立地する。東西 6m、南北 3.5m の範囲に石塔の部材や、基壇の部材と考えられる直径が 20㎝～ 50㎝程度の礫が散乱していた。比較的原位置を保っていると考えられる 5m × 5m の範囲を発掘調査した。基壇の形状は、比較的礫が残存している北東隅の状況から、方形か円形と考えられる。中央部で土層を観察したところ、盛土が見当たらず、礫が地山に直接設置されていることから、基壇の一部は地山を削って整形されたと考えられる。基壇内に土坑やピットを検出できないことから、墓ではなく供養塔の基壇と考えられる。時期は採集した石塔から 16 世紀前半と考えられる。

出土遺物

組合せ式五輪塔と組合せ式宝篋印塔の部材を合計 19 点採集した。内訳は、組合せ式宝篋印塔の部材が相輪 3 点、屋根（笠）4 点、塔身 1 点、組合せ式五輪塔の部材が空風輪 1 点、火輪 3 点、水輪 2 点、地輪 2 点、五輪塔か宝篋印塔のいずれに伴うか不明な基壇が 2 点である。その他に付近の旭山遺跡で宝篋印塔の塔身と考えられる部材を 1 点採集した。石材は「火山礫凝灰岩」、「凝灰岩」、「火山礫凝灰岩もしくは凝灰角礫岩」の 3 種類が使用されている。このうち「火山礫凝灰岩」は白色の石粒と黒色の石粒の両方を含んだ福光石と、白色の石粒のみを含んだ福光石以外の石材とに分かれる。高原遺跡付近でも凝灰岩が産出し石切場跡もあるが、付近で採取される凝灰岩は粒度が粗く採集した石塔の石材とは異なる凝灰岩と考えられる（註 1）。石材の内訳は福光石と考えられる火山礫凝灰岩が 8 点、福光石でない火山礫凝灰岩 5 点、凝灰岩 5 点、火山礫凝灰岩もしくは凝灰角礫岩 1 点である。

組合せ式宝篋印塔の部材は、いずれも幅 30cm に満たない小型塔の部材である。第 17 図 1 ～ 3 は相輪である。このうち第 17 図 1・2 は九輪を浅い線刻で区画する。また第 17 図 1 は九輪下の請花部が突帯状を呈する。第 17 図 3 は九輪を深い線刻で区画し、上部の 2 段は立体的に加工している。また請花部は突帯状を呈する。第 17 図 4 ～ 7 は屋根である。このうち第 17 図 5 ～ 7 は破損している。第 17 図 4 は軒上 4 段、下 2 段の段級をもつ。各段の高さは軒上 1 段目のみ高く、他は同じ高さである。軒は非常に厚い。隅飾突起の高さは軒上 3 段目まであり、軒口より外に出る。側面は四面とも無地である。第 17 図 8 は塔身で側面は四面とも梵字などはない。第 17 図 9 は隣接する旭山遺跡の採集品で、宝篋印塔の塔身の可能性が考えられる。梵字等は刻まれていない。

組合せ式五輪塔の部材も、いずれも幅 30cm に満たない小型五輪塔の部材である。第 17 図 10 は空風輪である。第 17 図 11 ～ 13 は火輪部で、軒口が上端のみ反り、下端は水平である。厚さは均一でなく中央に比べて端部が厚い。第 17 図 14・15 は水輪で、最大径は中ほどにあり、そろばん玉形をしている。第 17 図 16・17 は地輪で、第 17 図 16 は台形で、第 17 図 17 はいびつな形状をしている。

第 17 図 18・19 は薄い板状を呈する部材で、基礎下に置く基壇と考えられる。

採集品を近隣で石造物調査が行われている石見銀山遺跡の資料と比較すると、組合せ式宝篋印塔は相輪の九輪を線刻で表現し、屋根軒下の段級を二段造りだし、縦連子を表現しないという特徴を有する。こうした特徴は石見銀山遺跡に多数存在する福光石製の組合せ式宝篋印塔にはみられないことから、採集品の宝篋印塔は石見銀山遺跡で最も古い組合わせ式宝篋印塔とされ 16 世紀中ごろ

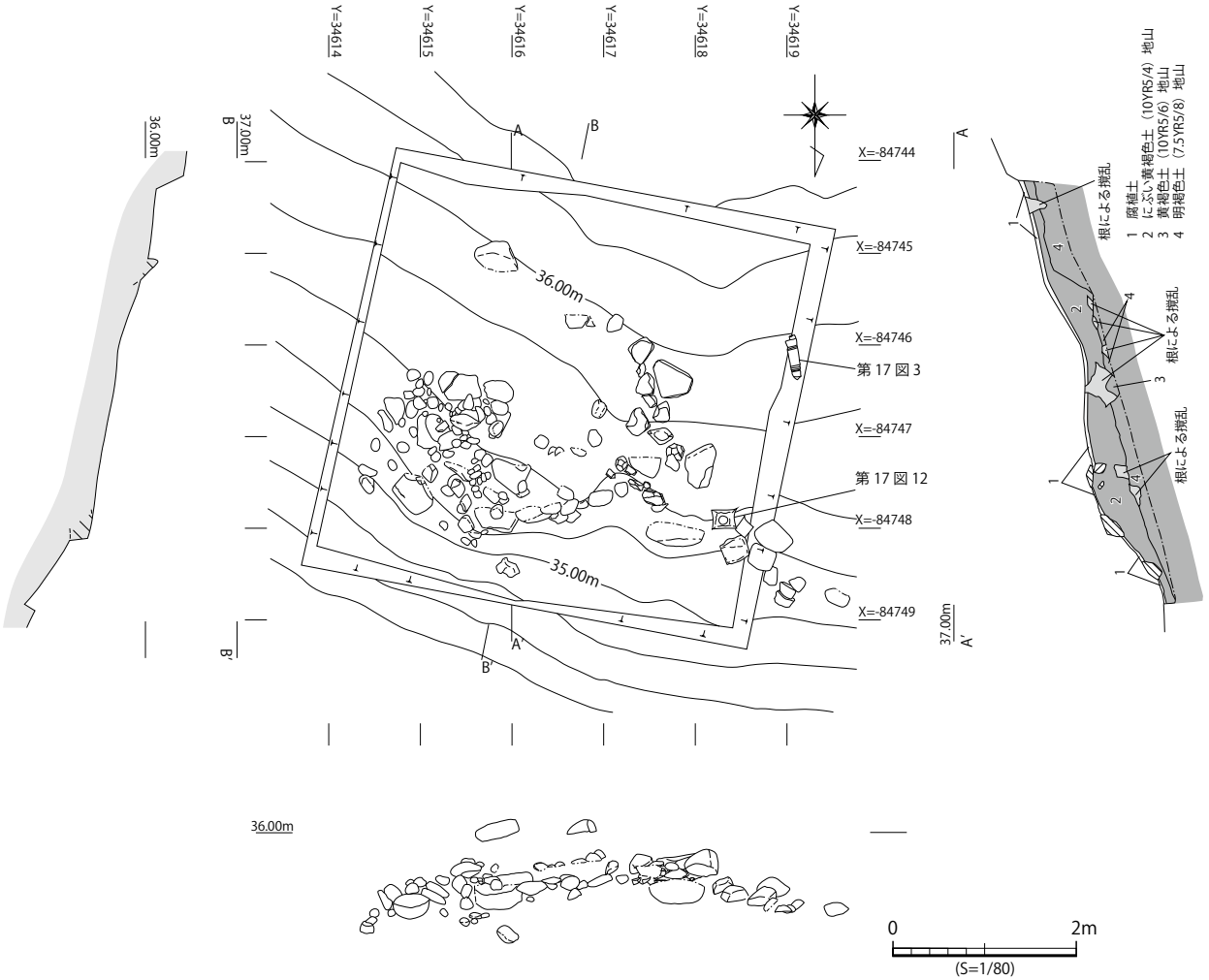
の年代が与えられている大森両塔の組合わせ式宝篋印塔 (註 2) よりも古相を呈しており、16 世紀前半代と考えられる。

〈註〉

（1） 石材の分類については中村唯史氏にご指導いただいた。

（2） 鳥谷芳雄　2002 「大森地区の－石五輪塔・組合せ宝篋印塔の一例」『石見銀山遺跡調査ノート 1 』島根県教育委員会、大田市教育委員会、温泉津町教育委員会、仁摩町教育委員会

※　石塔については今岡稔氏にご指導いただいた。

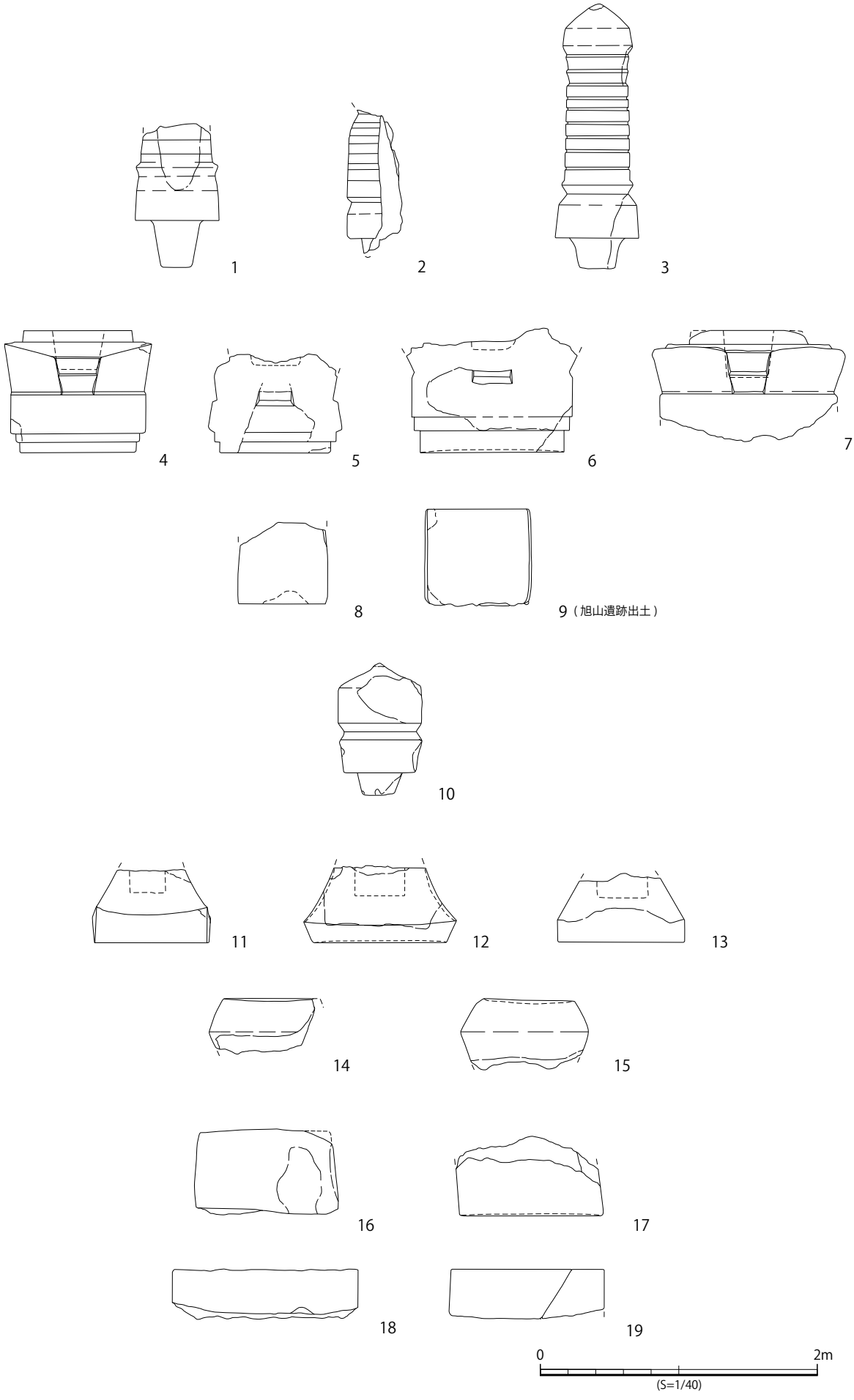


第 16 図　高原遺跡（3 区南側）石塔基壇実測図（S=1/80）

第 6 節　小結

3 区の北側に隣接する 2 区で古墳時代の土師器が多数出土していたことから、古墳時代の遺構があるものと考えていたが、田圃の造成により大半が失われていた。検出した遺構は、SB01 を除いて大きく削平されており、出土遺物も少なく確実な時期は不明である。しかし、細片ではあるが土師器や須恵器が最も多く出土していることから、3 区北側では古墳時代には集落が存在していたと考えられる。また、SB01 は出土遺物がないが、遺構の上に堆積していた褐色粘質土層から中近世の陶磁器が出土していることから、中世～近世の遺構と考えられる。

3 区南側では当地域では出土例の少ない 16 世紀代の石塔の部材を採集し、基壇を調査することができた。当地域での石塔を研究する上で貴重な資料を得ることができた。



第 17 図　高原遺跡（3 区南側）・旭山遺跡採集石塔実測図（S=1/40）

第 4 章　中尾 H 遺跡（4 区）

第 1 節　調査の経過と概要

中尾 H 遺跡は大田市久手町刺鹿に所在する。久手町刺鹿は旧波根湖の南西岸にあたり、南へ向けて江谷川とその支流の市井川が作り出したいくつかの谷が入り込んでいる。南西方向から流れてきて江谷川に繋がる小河川沿いは、旧波根湖南岸と大田町方面を結ぶ古い街道となっており、その谷間の出口に近い標高約 18m 付近に中尾 H 遺跡がある。中尾 H 遺跡の位置する谷の南側に面した斜面には、古墳時代から古代まで続く集落跡である市井深田遺跡が、谷の下流側、標高 10m 付近には縄文・古墳時代～古代の遺物が多く出土した門遺跡がある。また、遺跡を見下ろす北側の丘陵上には刺鹿神社が置かれている。平成 22（2010）年度からは、一般国道 9 号（朝山大田道路）改築工事に影響する部分について試掘確認・本発掘調査を実施した。中尾 H 遺跡については、平成 22（2010）年に朝山大田道路本線上について 13 箇所のトレンチを設定して試掘確認を行い、4,230㎡を 1 区・2 区として本発掘調査を実施した。調査範囲の大半は河道跡で、縄文時代と奈良時代を中心とした遺物が大量に出土した。この調査では土馬や荷札木簡が出土した。1 区と 2 区については平成 24（2012）年度に発掘調査報告書を刊行した。平成 25（2013）年度には送電線鉄塔の移設移設先 250㎡を 3 区として、本発掘調査を実施した。この調査では古墳時代後期を中心とする時期に流れていた河川流路を検出し、多くの遺物を検出した。3 区については平成 27（2015）年度に発掘調査報告書を刊行した。平成 26（2014）年度には送電線鉄塔跡地約 240㎡を 4 区として本発掘調査を実施した。本章では、この 4 区の発掘調査について報告する。

第 2 節　調査の方法

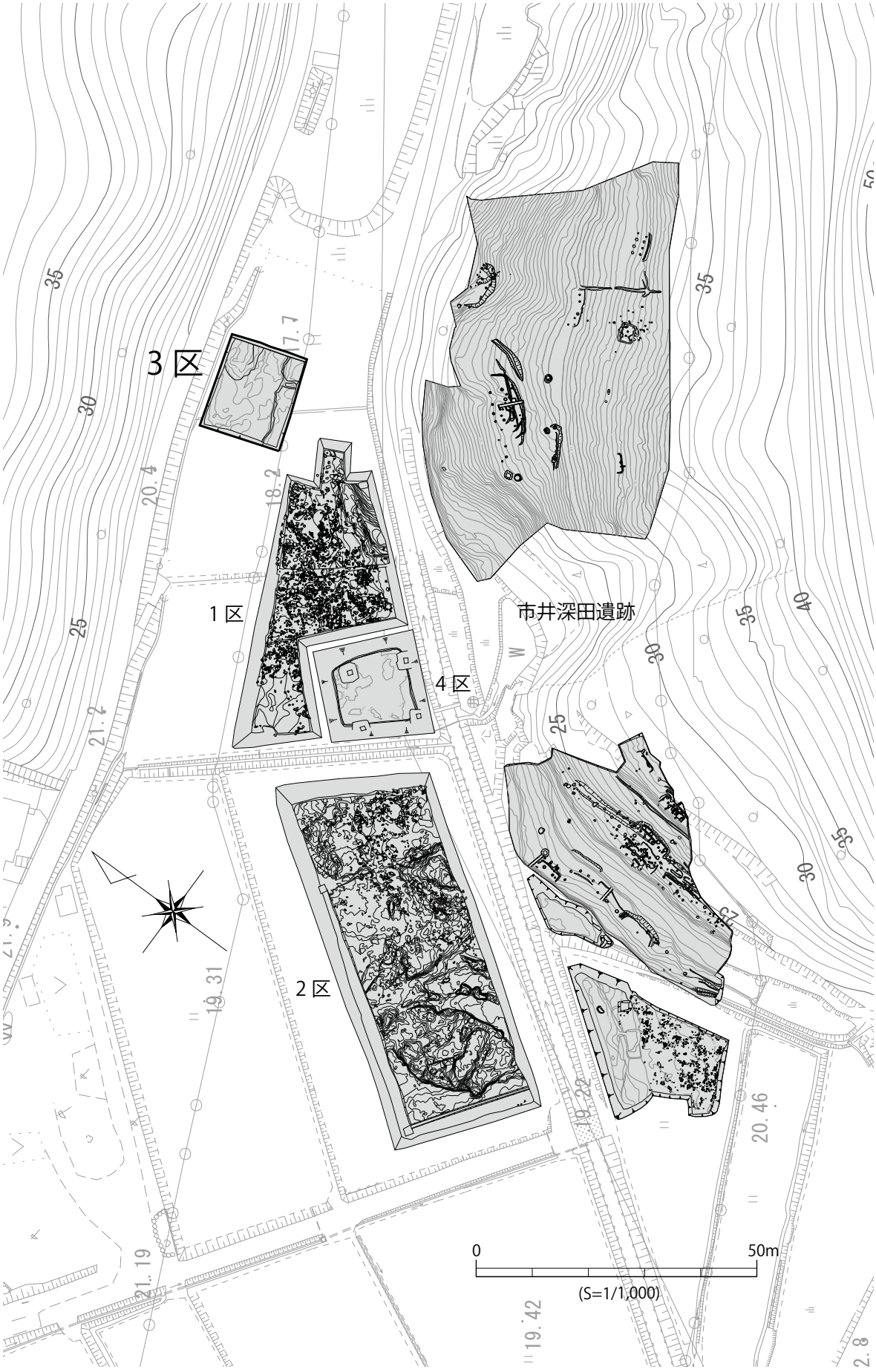
調査区の概要　中尾 H 遺跡（4 区）は 2 区と 1 区の中間に位置する。調査面積は面積約 240㎡で、一辺約 16 ～ 18 mの方形を呈する。南側には昭和 52（1977）年に行われた圃場整備に供って付け替えが行われた河川が流れている。この河川は圃場整備以前には谷の中央近くを流れていた。4 区は送電線鉄塔の跡地であり、調査区の四隅にはコンクリートの基礎が設置されていた。基礎及びその掘方部分では遺跡が損失していたが、その他の部分については良好に保存されていた。

表土掘削　送電線鉄塔に伴う造成土は重機を使用して除去し、地表下約 120 ～ 130cm 以下は人力で掘削した。

遺物包含層掘削・遺構の精査　遺物包含層については、主としてスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中する箇所は草削り・移植ゴテで掘り下げた。

記録の作成　遺跡の平面図は、遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。その他報告書掲載が見込まれる遺物は基本的に遺跡調査システムで出土位置を記録した。遺構の写真は 35mm フィルムカメラ（モノクロフィルム）、35mm デジタルカメラ、6 × 7 判カメラ（モノクロフィルム・カラーリバーサルフィルム）による撮影を行った。

整理作業・報告書作成　報告書作成は DTP 方式で行った。遺物図面は実測図を、遺構図面は平面図・断面図等をレイアウトした下図をデジタルトレースした。デジタルトレースや図の加工は Adobe 社製 Illustrator CS5、Adobe 社製 Photoshop CS5 を用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで



第 18 図　中尾 H 遺跡調査区配置図（S=1/1,000）

撮影した後、Adobe 社製 Photoshop CS5 を用いてコントラスト調整し EPS データ化した。最終的な原稿執筆、編集作業は Adobe 社製 In Design CS5 を用いて行った。

第 3 節　基本層序

基本層序は、表層から①砕石層（第 20 図 1 層）、②にぶい黄褐色粘質土層（第 20 図 2 層）、③灰色粘質土層（第 20 図 3 層）、④オリーブ黒色粘質土層（第 20 図 4 層）、⑤暗オリーブ灰色粘質土層（第 20 図 5 層）、⑥暗緑灰色砂礫層（第 20 図 8 層）、⑦緑灰色粘質土層（第 20 図 9 層）の順で堆積する。①～③層は送電線鉄塔設置に伴う客土層である。④層は送電線鉄塔設置前の田圃の耕作土層である。⑤層と⑥層は河川の堆積層である。⑦層からは遺物が出土せず地山と考えられる。また、⑦層上面では直径 1m ～ 2m の岩石が大量に出土した。

第 4 節　遺物包含層と出土遺物

遺物包含層

送電線設置前の田圃の耕作土から緑灰色粘質土層までの層からは縄文時代から古代までの遺物が、縄文時代後期から晩期までの遺物を中心に出土した。この遺物包含層は、流路を変えながら各時代に流れていた河川の堆積層で、各時代の遺物は混在して出土した。

出土遺物

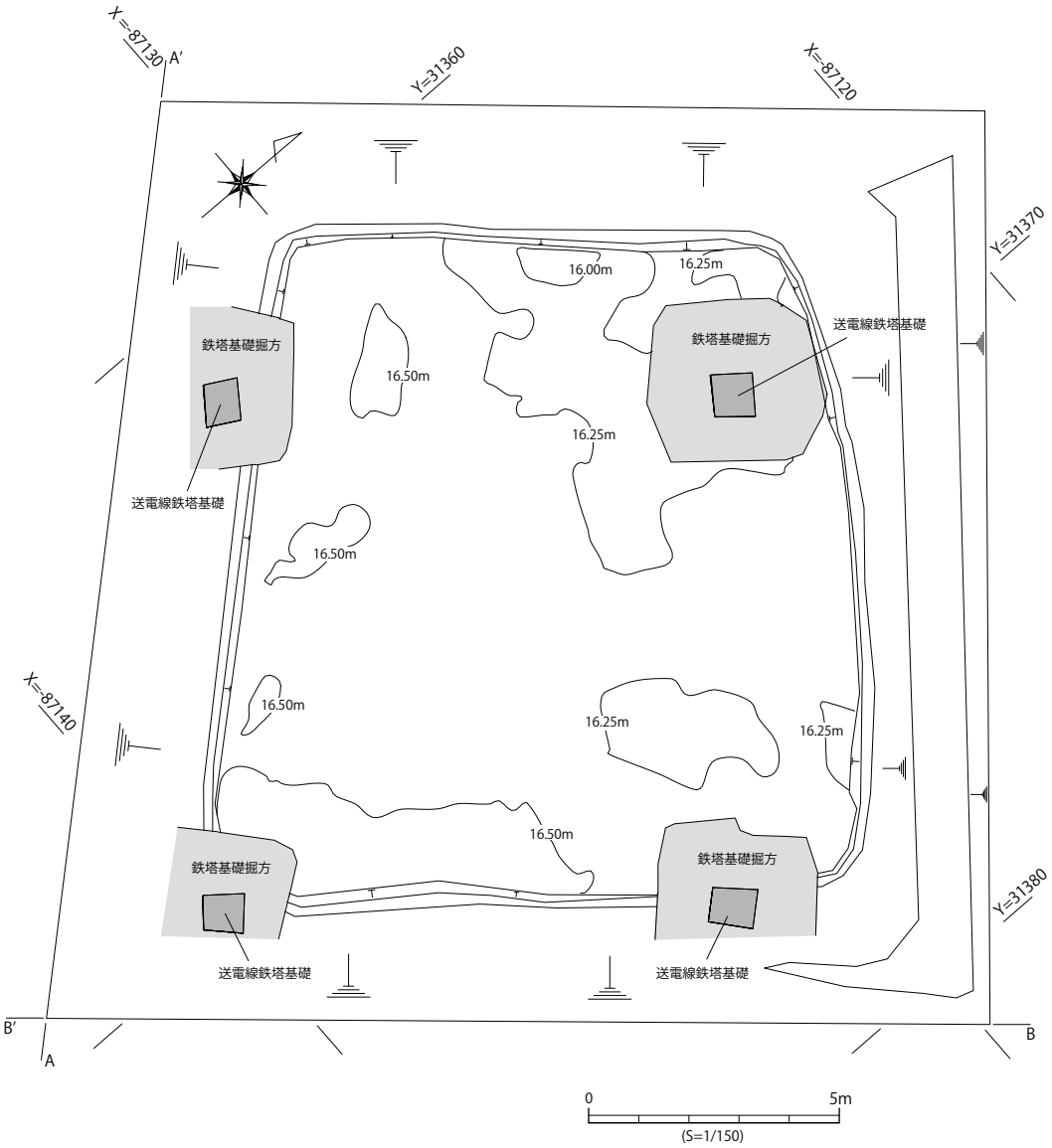
土器類は縄文時代から中世までの遺物が出土した。最も多く出土したのは縄文土器で、縄文時代後期初頭から晩期までの土器が出土している（第 21 図 1 ～ 18、第 22 図 1 ～ 6）。1 区と 2 区では前期や中期の土器も出土しているが、4 区では検出できなかった。弥生土器は弥生時代中期から後期の土器が出土している（第 22 図 7 ～ 10）。土師器は細片のみで図化できなかった。須恵器は 7 世紀代から 9 世紀前半までの土器が出土している（第 22 図 11 ～ 14）。他の調査区では白磁や青磁が出土しているが、4 区では検出できなかった。

石器類（第 23 図 1 ～ 20、第 24 図 1・2）は大半が縄文時代の遺物と考えられる。出土土器から考えると縄文時代の後期から晩期の遺物の可能性が高いが、尖頭器（第 23 図 1）も出土しており、石器の所属時期は一概には言えない。第 23 図 3 の石材は瑪瑙である。この瑪瑙は出土した当初は黒曜石に近い黒色であったが、時間が経つと黄褐色に変色した。

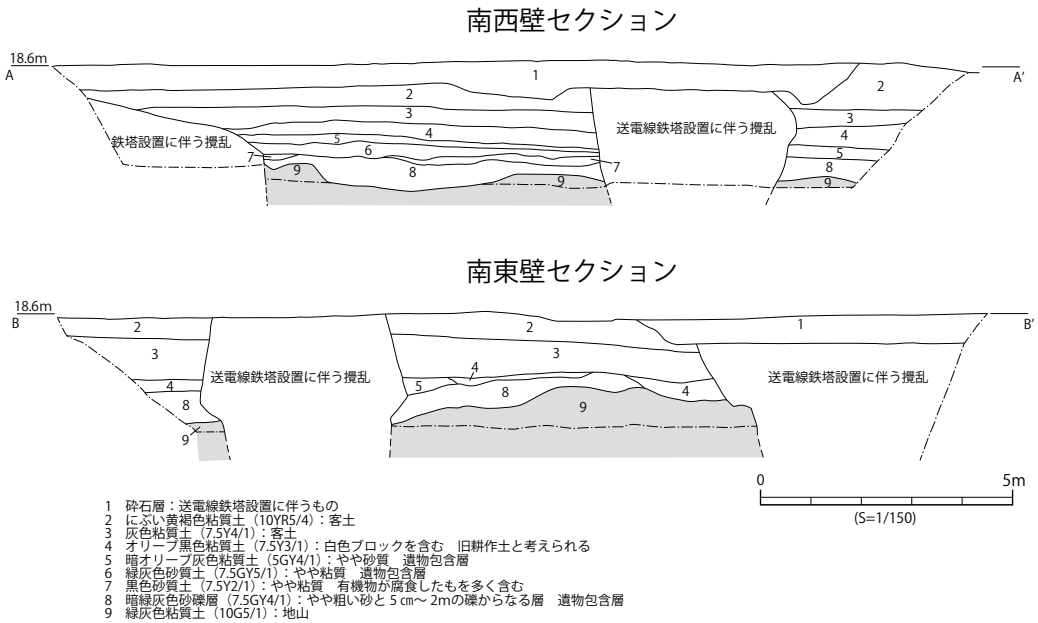
木製品は農具（第 24 図 3）、桶（第 24 図 4）、蓋（第 24 図 5）、漆器の椀（第 24 図 6）、板（第 24 図 7）、木簡（第 24 図 8）が出土した。このうち木簡は上辺と左辺は折損しており、右上と右下が焦げている。両面に墨書が確認できるが、判読不能である。

第 5 節　小結

4 区の調査では、1 区や 2 区と同様に、縄文時代から中世までの遺物が出土する旧河道を検出することができた。また他の調査区では縄文時代前期の土器が最も古い出土遺物であったが、今回の調査で縄文時代草創期から早期の尖頭器が出土したことにより、更に古い時代からこの地域で人間が活動している証拠を得ることができた。

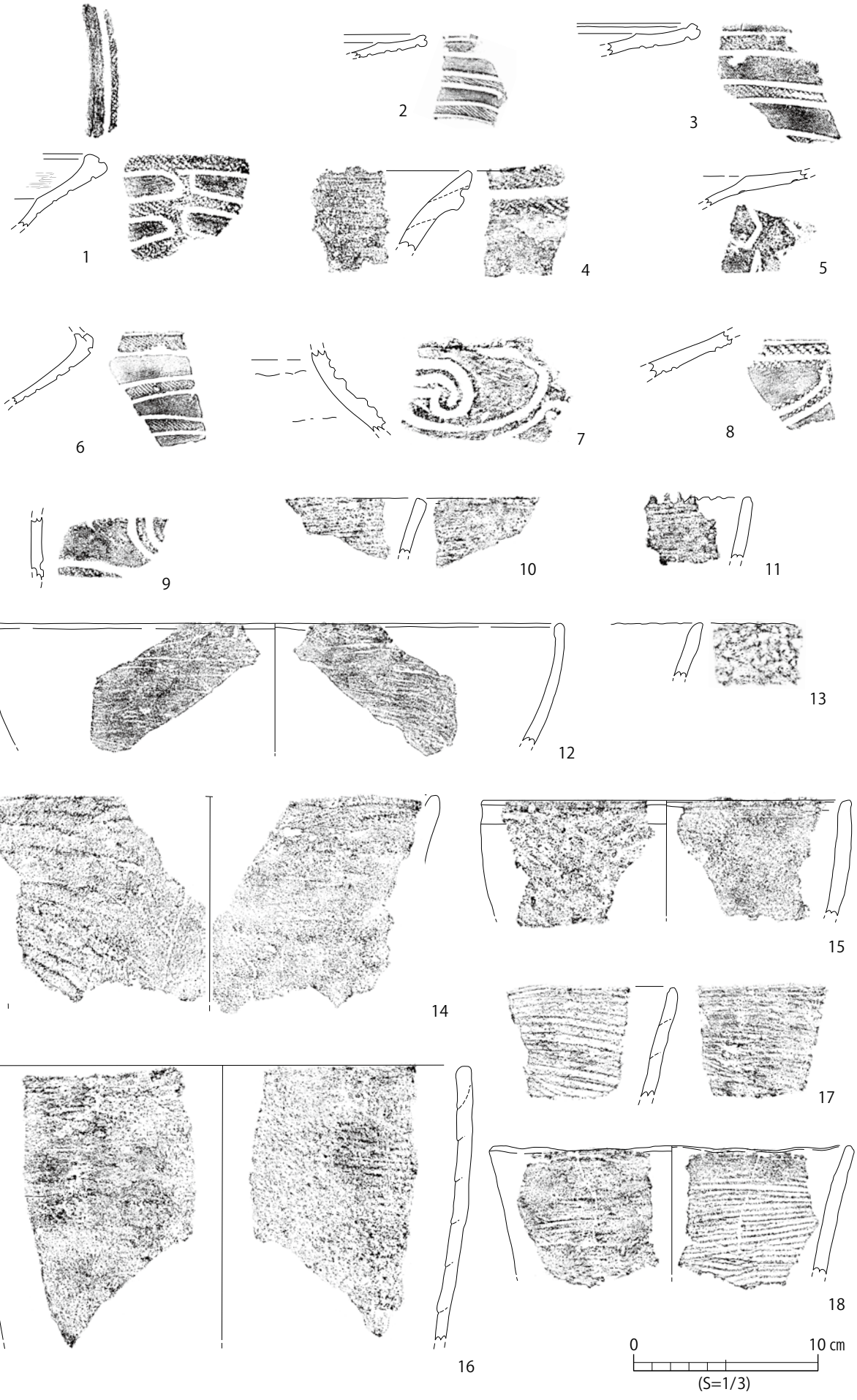


第 19 図　中尾 H 遺跡（4 区）地形測量図（S=1/150）

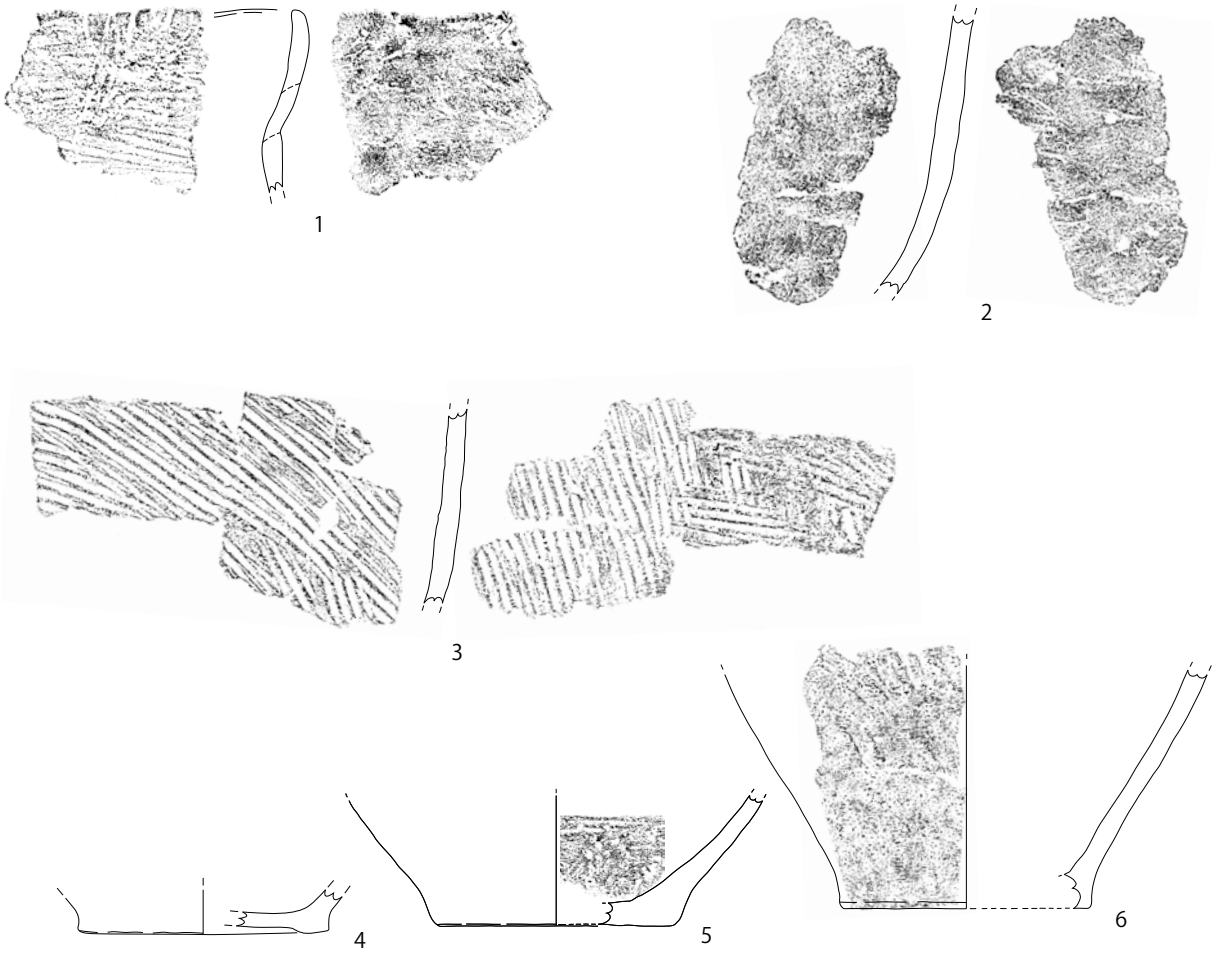


1　砕石層：送電線鉄塔設置に伴うもの
2　にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）：客土
3　灰色粘質土（7.5Y4/1）：客土
4　オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/1）：白色ブロックを含む　旧耕作土と考えられる
5　暗オリーブ灰色粘質土（5GY4/1）：やや砂質　遺物包含層
6　緑灰色砂質土（7.5GY5/1）：やや粘質　遺物包含層
7　黒色砂質土（7.5Y2/1）：やや粘質　有機物が腐食したもを多く含む
8　暗緑灰色砂礫層（7.5GY4/1）：やや粗い砂と 5 ㎝～ 2mの礫からなる層　遺物包含層
9　緑灰色粘質土（10G5/1）：地山

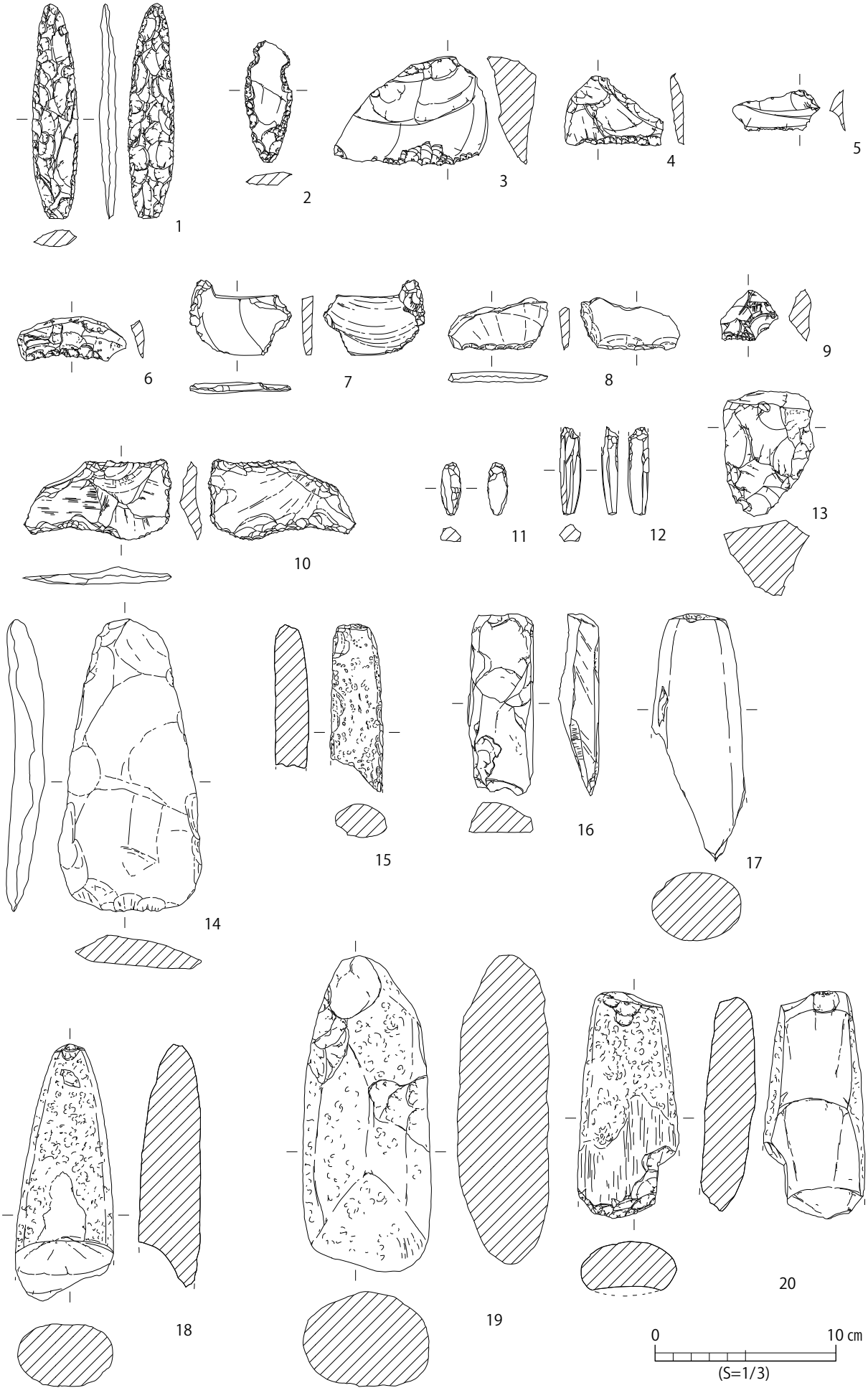
第 20 図　中尾 H 遺跡（4 区）土層断面図（S=1/150）



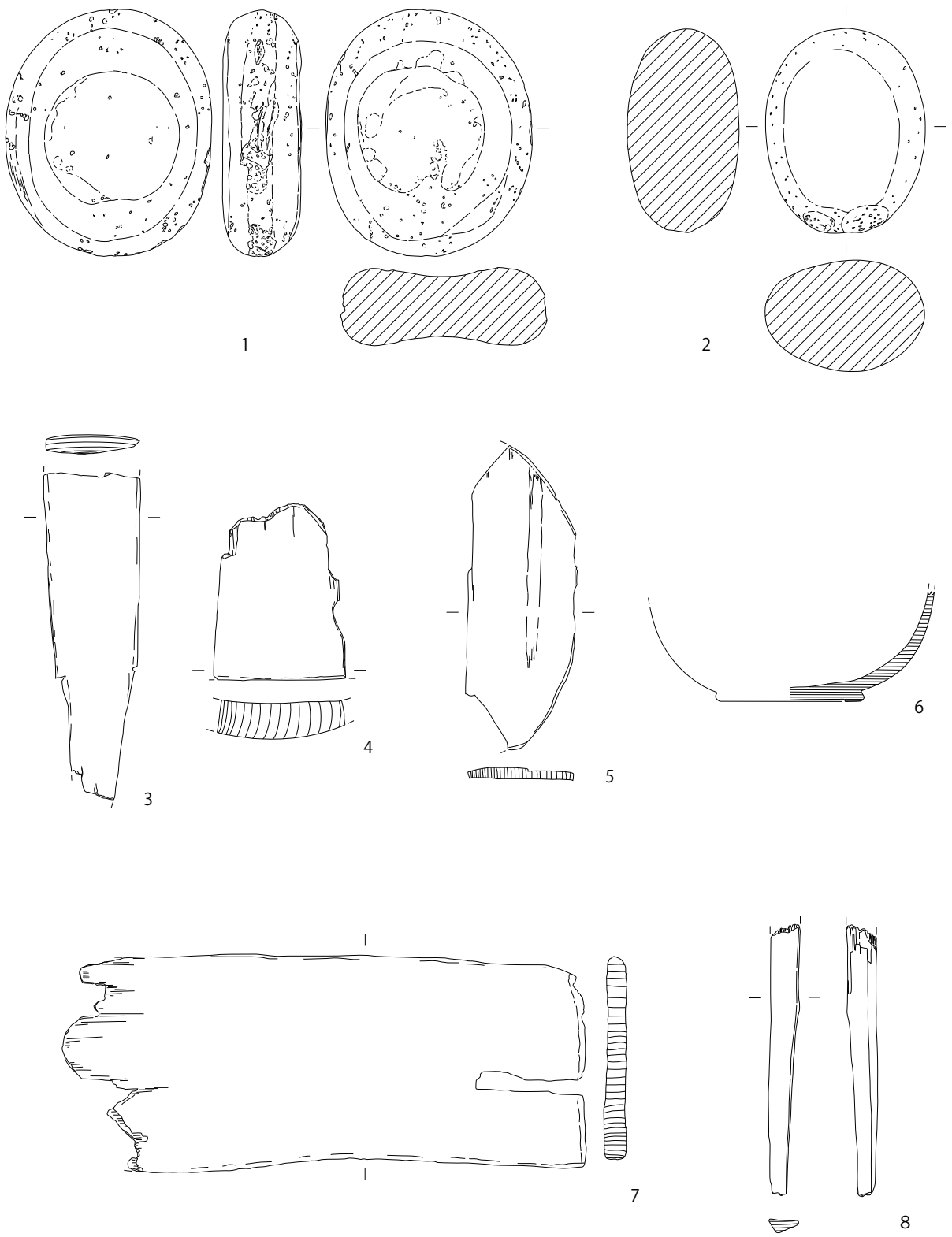
第 21 図　中尾 H 遺跡（4 区）出土遺物実測図①（S=1/3）



第 22 図　中尾 H 遺跡（4 区）出土遺物実測図②（S=1/3）



第 23 図　中尾 H 遺跡（4 区）出土遺物実測図③（S=1/3）



第 24 図　中尾 H 遺跡（4 区）出土遺物実測図④（S=1/3）

第 5 章　門遺跡（2 区）

第 1 節　調査の経過と概要

門遺跡は大田市久手町刺鹿に所在する。江谷川の支流が形成した狭い谷の北岸、標高約 13m 付近に立地する。遺跡の北側には刺鹿神社のある標高約 40m の丘陵が伸びる。南西には中尾 H 遺跡や市井深田遺跡がある。

平成 22（2010）年度からは、一般国道 9 号（朝山大田道路）改築工事に影響する部分について、国土交通省による伐採等の事前準備を終えた場所から試掘確認・本発掘調査を実施している。この内、門遺跡については、平成 23（2011）年に朝山大田道路本線上について 9 箇所のトレンチを設定して試掘調査を行い、856㎡を 1 区として本調査対象地とし、本調査を実施した。調査では明確な遺構は検出できなかったが、古代を中心として縄文時代から古代の遺物が出土した。出土遺物のなかには墨書土器があった。

平成 25（2013）年度には送電線鉄塔の移転先 150㎡についてトレンチを 1 箇所設定して試掘調査を行ったが、古墳時代の川跡で出土遺物も少なかったことから本調査は不要と判断した。

平成 26（2014）年度には移設後の鉄塔跡地 313㎡についてトレンチを 1 箇所設定して試掘調査を行い、トレンチ北側で遺物包含層を確認したことから、北側 180㎡を 2 区として本調査対象地とし、引き続き本調査を実施した。本章では、この 2 区の発掘調査について報告する。

第 2 節　調査の方法

調査区の概要　門遺跡（2 区）は 1 区の南西に位置する。南東側には昭和 52 年に行われた圃場整備に供って付け替えが行われた河川が流れている。この河川は圃場整備以前には谷の中央近くを流れており、1 区の発掘調査では、その河川跡と護岸のコンクリート擁壁が検出された。

2 区は送電線鉄塔の跡地の北西で、調査区の南西隅と北西側中央にはコンクリートの基礎が設置されていた。調査区は長辺約 20m、短辺 9m の長方形で、面積が約 180㎡である。

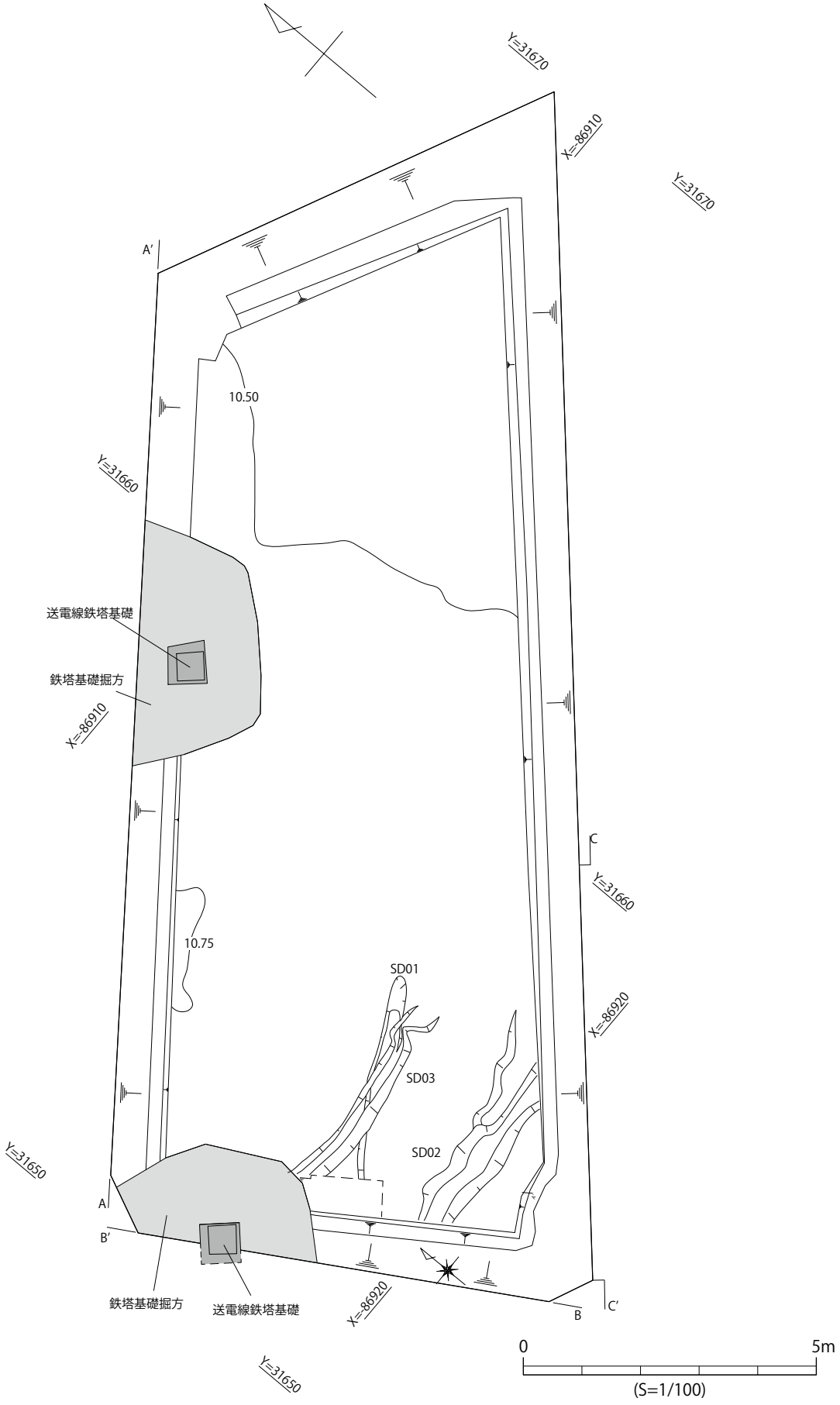
表土掘削　送電線鉄塔の造成土は重機を使用して除去し、地表下約 50cm 以下は人力で掘削した。

遺物包含層掘削・遺構の精査　遺物包含層については、主としてスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中する箇所は草削り・移植ゴテで掘り下げた。

記録の作成　遺跡の平面図は、遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。遺構の写真は 35mm フィルムカメラ（モノクロフィルム）、35mm デジタルカメラ、6 × 7 判カメラ（モノクロフィルム・カラーリバーサルフィルム）による撮影を行った。

整理作業・報告書作成　報告書作成は DTP 方式で行った。遺物図面は実測図を、遺構図面は平面図・断面図等をレイアウトした下図をデジタルトレースした。デジタルトレースや図の加工は Adobe 社製 Illustrator CS5、Adobe 社製 Photoshop CS5 を用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、Adobe 社製 Photoshop CS5 を用いてコントラスト調整し EPS データ化した。最終的な原稿執筆、編集作業は Adobe 社製 In Design CS5 を用いて行った。

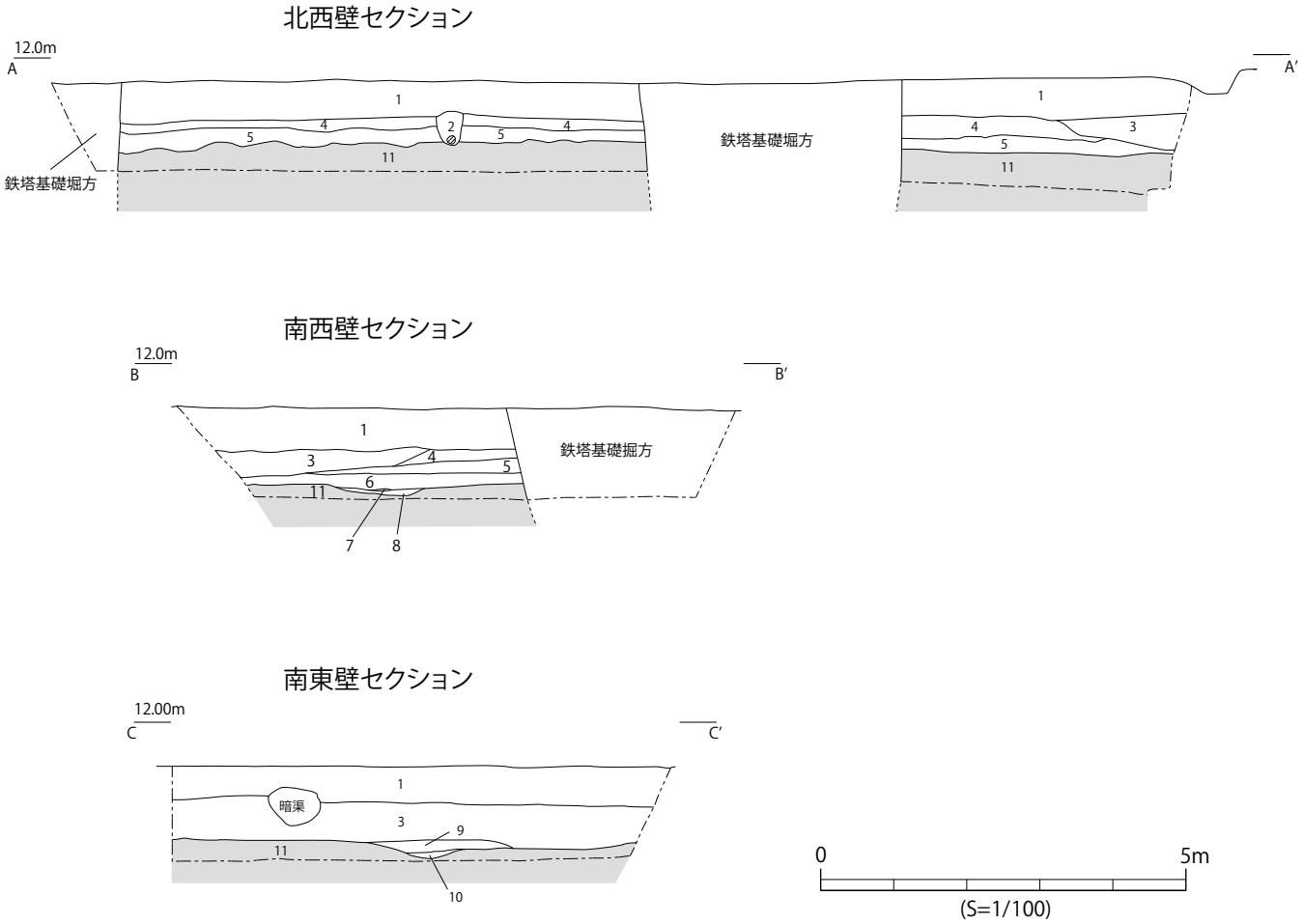
第 25 図　門遺跡調査区配置図（S=1/1,000）



第 26 図　門遺跡（2 区）平面図（S=1/100）

第３節　基本層序

基本層序は、表層から①にぶい黄褐色土層（第 27 図 1 層）、②灰色粘質土層（第 27 図 3 層）、③暗灰黄色粘質土層（第 27 図 4 層）、④黄灰色粘質土層（第 27 図 5 層）、⑤暗褐色土層（第 27 図 6 層）、⑥灰黄褐色土層（第 27 図 11 層）の順で堆積する。①層と②層は送電線鉄塔設置に伴う客土の層である。③層は送電線鉄塔設置前の田圃の耕作土層である。④層は田圃の床土と考えられる層で、近世の陶器が出土する。⑤層は縄文時代から中世の遺物が出土する遺物包含層である。⑥層は遺物が出土せず地山と考えられる。



1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）10㎝以下の礫や砂を多く含む。
2　暗オリーブ灰色粘質土（2.5GY5/1）暗渠の掘方と考えられる。白色ブロックと黄色ブロックを含む。
3　灰色粘質土（7.5Y5/1）50㎝以下の礫を多く含む。
4　暗灰黄色粘質土（2.5Ｙ5/2）マンガンと黄褐色ブロックを多く含む。旧耕作土。
5　黄灰色粘質土（2.5Y4/1）マンガンと黄灰色ブロックを多く含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）灰色ブロックやマンガンを含む。
7　黒色土（10YR1.7/1）やや粘質。有機物の堆積層。
8　にぶい黄褐色土（10YR4/2）褐色土（10Y4/6）、明褐色土（10YR4/6）が混じる。マンガンを含む。やや粘質。
9　暗褐色土（10YR3/1）灰色ブロックやマンガン含む。
10　黒色土（10YR1.7/1）やや粘質。有機物の堆積層。
11　灰黄褐色土（10YR4/2）やや粘質。マンガンを含む。30㎝以下の礫を多く含む。地山。

第 27 図　門遺跡（2 区）土層断面図（S=1/100）

第 4 節　遺構と遺物

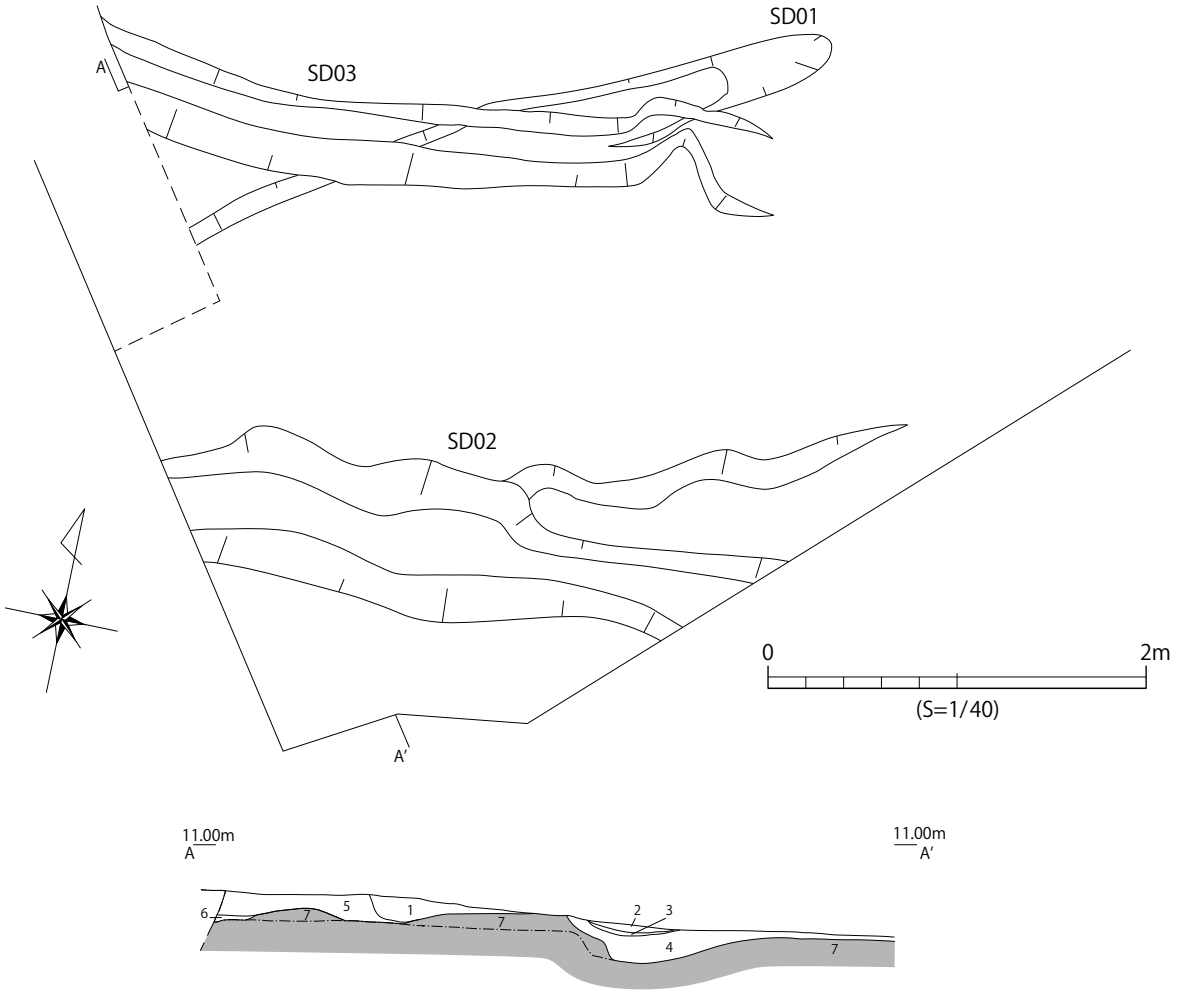
検出遺構（第 28 図）

門遺跡（2 区）では調査区の南西で溝状遺構を 3 条を検出した。

SD01　調査区南西の中程に位置する。長さ 3.5m、幅 30㎝、深さ 14㎝の直線的な溝で、南西側は調査区外に延びている。SD03 に遺構の一部が削られている。遺構の時期は出土遺物（第 30 図 13）から 6 世紀後半から 7 世紀後半と考えられる。

SD02　調査区南西隅に位置する。東西方向に直線的に延びる溝で、検出した部分で長さ 4m、幅 0.8 ～ 1m、深さ 20㎝を測る。遺構は東西両側とも調査区外に延びる。遺構の埋土からは土師器の細片のみが出土した。遺構の時期は古墳時代と考えられる。須恵器が出土していない点を考慮すると古墳時代前期から中期の可能性が考えられるが、確定はできない。

SD03　調査区南西の中程に位置する。長さ 3.5m、幅 50㎝、深さ 12㎝のやや弧状の溝で、西側は調査区外に延びている。遺構の埋土からは須恵器や土師器の破片が出土した。遺構の時期は出土遺物（第 30 図 7）から、7 世紀後半と考えられる。



1　暗褐色土（10YR3/3)明褐色土ブロック（7.5YR5/6)、白色ブロックを含む。炭化物を含む。
2　暗褐色土（10YR3/3)明褐色土ブロック（7.5YR5/6)を含む。
3　黒色土（10YR3/4)やや粘質。
4　にぶい黄褐色度土（10YR4/3)褐色土（10YR4/6)、明褐色土（10YR4/6)が混じる。
5　にぶい黄褐色度土（10YR4/3)褐色土（10YR4/6)、明褐色土（10YR4/6)が混じる。
6　黒褐色土（10YR3/1)炭化物をやや多く含む。
7　暗灰黄色土（2.5Y4/2)やや粘質。

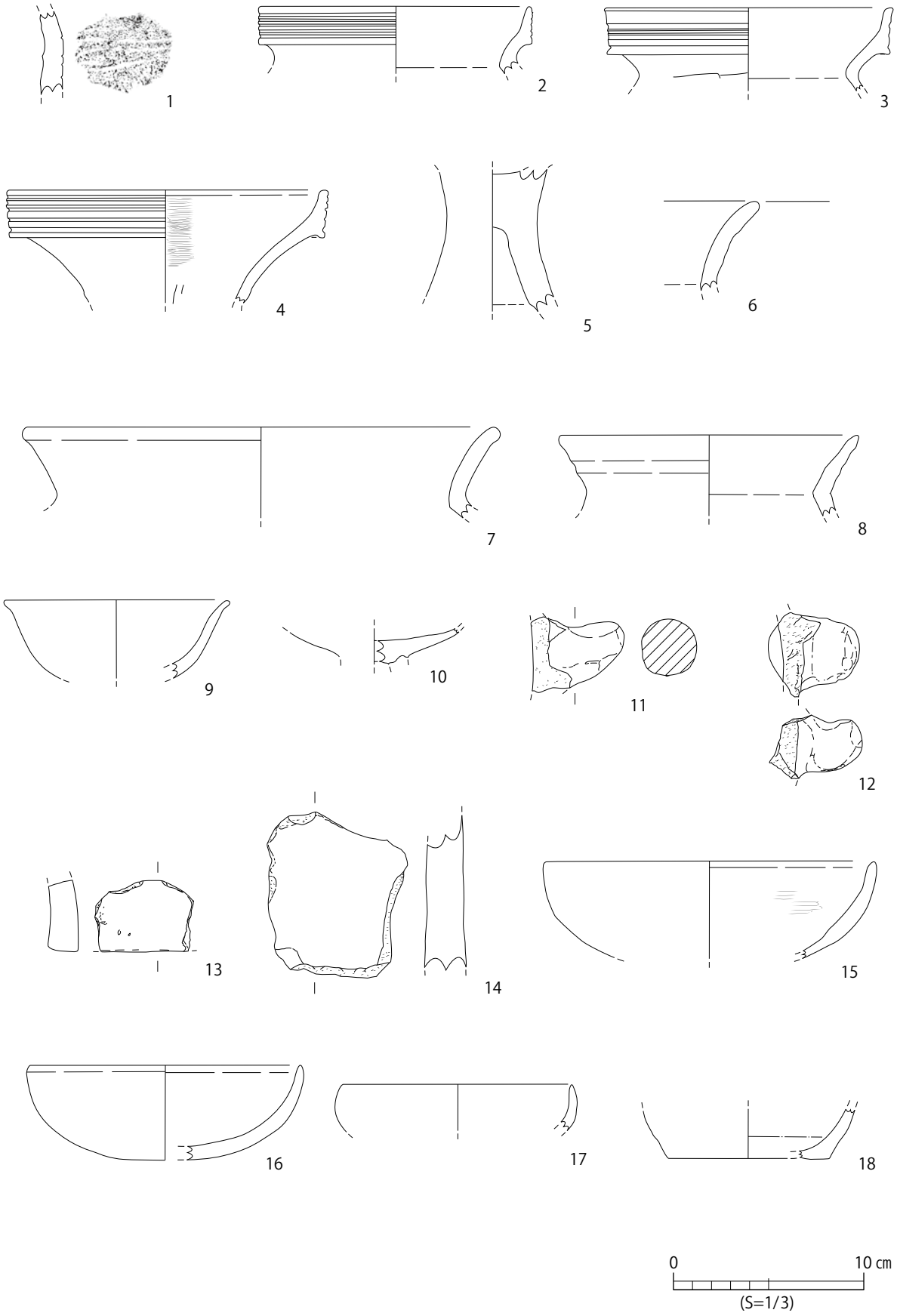
第 28 図　門遺跡（2 区）SD01・SD02・SD03 実測図（S=1/40）

出土遺物

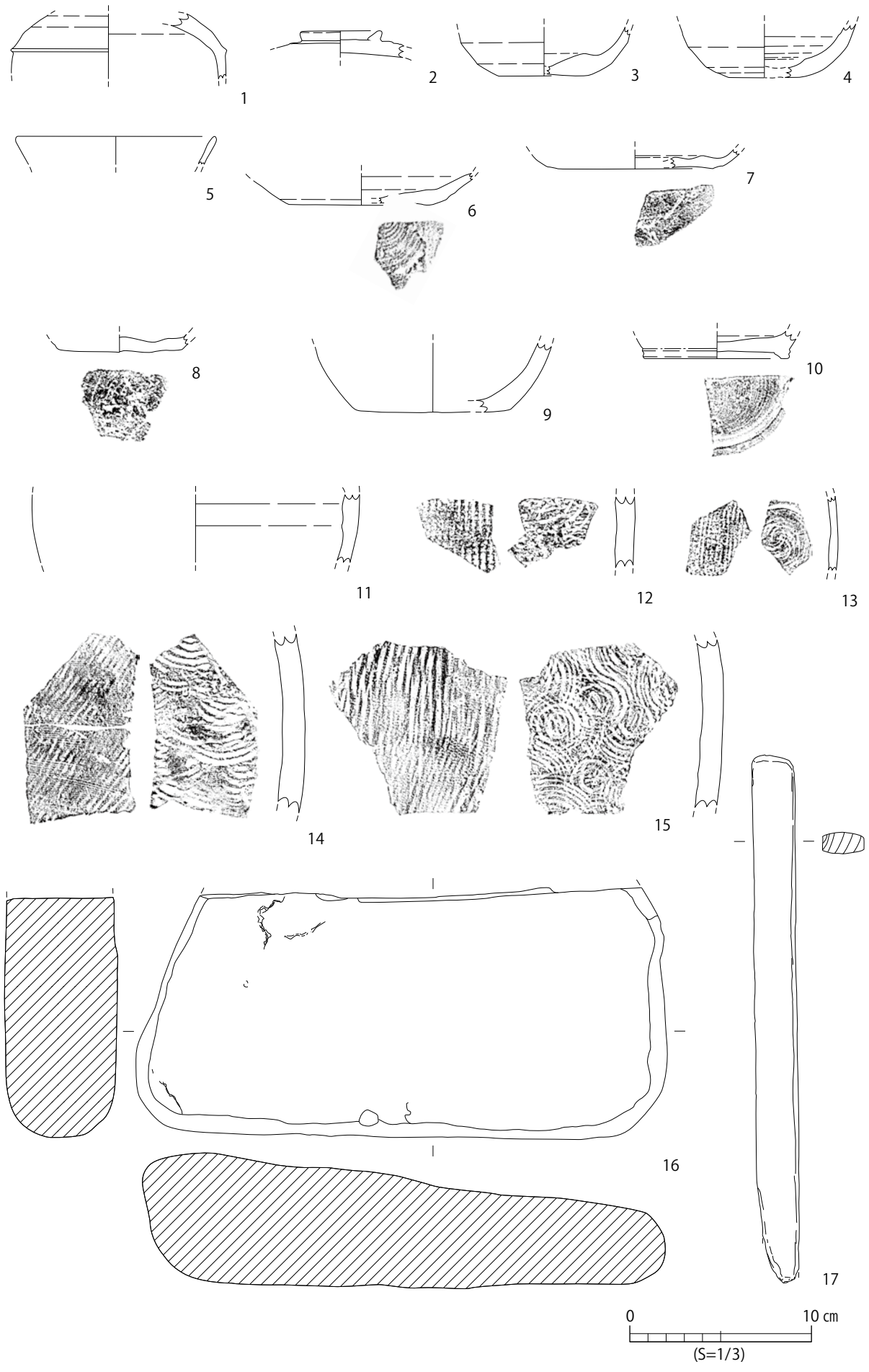
土器類は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。出土した土器の大半は細片であった。1 区と同様に縄文時代後期と考えられる土器が出土している（第 29 図 1）。弥生土器は前期から中期のものはなく、後期のものだけが出土している（第 29 図 2 ～ 5）。1 区でも後期の甕片が出土している。土師器は古墳時代から古代のものが出土しており、器種は甕、甑、移動式竈、高坏、坏が出土している（第 29 図 6 ～ 18）。須恵器は古墳時代から古代までのものが出土している（第 30 図 1 ～ 15）。石器は石皿が 1 点出土した（第 30 図 16）。その他に棒状木製品が 1 点出土した（第 30 図 17）。赤外線撮影で確認したが墨痕はなかった。

第 5 節　小結

2 区の調査では、1 区と同様に、縄文時代から古代までの遺物が出土した。遺構は古墳時代から 7 世紀後半の溝状遺構を 3 条検出した。この溝状遺構は出土遺物の時期が異なることから、同時に 3 条存在したのではなく、造り替えられた可能性が考えられる。1 区では古墳時代から律令期の住居跡と考えられる加工段が 2 箇所検出されている。3 条の溝状遺構も竪穴建物や加工段の壁際溝等の住居跡の可能性が考えられる。また、遺物包含層からは甕、甑、移動式竈といった煮炊具が出土しており、門遺跡やその周辺に集落が存在していたと考えられている。今回の調査では、3 条の溝状遺構も建物に伴う遺構の可能性が考えられる。



第 29 図　門遺跡（2 区）出土遺物実測図①（S=1/3）



第 30 図　門遺跡（2 区）出土遺物実測図②（S=1/3）

第 6 章　総括

高原遺跡（3 区）

3 区北側は、隣接する 2 区ではほぼ完形の土器が複数出土していることから関連する集落や遺構の残存が期待されたが、田圃造成による地形の大幅な改変により古代以前の遺構は大半が失われていた。時期の明確な遺構は中近世の掘立柱建物 1 棟を検出できた。遺物包含層からは陶磁器が出土しており、田圃の造成前は、建物もある土地利用がなされていたと考えられる。東には中世の寺跡と考えられている旭山遺跡が隣接し、3 区南側には石塔とその基壇もあり、検出した建物跡も、これらの遺跡や遺構と関連する可能性が考えられる。

3 区南側では 16 世紀前半と考えられる基壇を確認し、基壇に伴う石塔を採集した。この時期の宝篋印塔や五輪塔の調査例は少なく、石見銀山遺跡で調査されている石塔より古い時期の石塔でもあり、石塔の系譜を検討する上で貴重な資料を得ることができた。

中尾 H 遺跡（4 区）

中尾Ｈ遺跡は江谷川支流の市井川が流れる谷の中流に位置する。4 区に隣接する 1 区、2 区の調査では、縄文時代後期を中心に多くの縄文土器・石器が出土した。4 区の調査でもほぼ同様の傾向であった。しかし、中尾Ｈ遺跡 1 区と 2 区の調査では縄文時代前期の月崎下層Ⅱ類に相当する土器が最も古い遺物であったが、4 区では縄文時代草創期から早期と考えられる尖頭器が出土し、中尾Ｈ遺跡の上限が大きく引き上げられた。現在、中尾Ｈ遺跡の周辺で縄文時代草創期や早期の遺跡は確認されていないが、今後これらの時期の遺構・遺物が確認される可能性がある。また、1 区からは「石花」などと記された奈良時代の貢納物に付けられた荷札木簡が出土した。4 区の調査でも木簡が出土したが、判読不能で、時期や性格は不明であった。しかし、これらの木簡が出土したことから、1 区や 2 区の調査でも指摘されているように、中尾Ｈ遺跡や門遺跡が位置する谷の近辺に古代山陰道が存在したと考えられる。

門遺跡（2 区）

門遺跡は中尾 H 遺跡から続く谷の出口にあたる場所に位置する。東側には旧波根湖に注ぐ江谷川が流れる。大田市の中心地に行く場合、この場所は交通の要衝であり、まさに大田市中心部への「門」ともいえる場所である。遺跡としては明確な遺構が少なかったが、出土遺物から考えると、集落が存在していたと考えられる。谷の奥に位置する市井深田遺跡では大田市でも有数の古代の集落が検出されている。門遺跡、中尾Ｈ遺跡、市井深田遺跡が立地する谷には、古墳時代から古代まで広範囲に集落が営まれていたと考えられえる。

〈参考文献〉

島根県教育委員会　2013 年 『門遺跡　高原遺跡Ⅰ区　中尾 H 遺跡』

島根県教育委員会　2014 年 『市井深田遺跡　荒槇遺跡　鈴見 B 遺跡』

島根県教育委員会　2015 年 『高原遺跡（2 区）』 島根県教育委員会

島根県教育委員会　2016 年 『旭山遺跡・中尾 H 遺跡（3 区）』 島根県教育委員会

第 2 表　高原遺跡（3 区北側）出土土器一覧表

挿図番号	出土地点	出土層位	種　別	器　種	口　径（cm）	底　径（cm）	調整及び文様等	胎　　土	色　　調
第14図　1	D3	褐色粘質土	土師器	把手			内：ナデ 外：ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄橙色（10YR6/4） 外：にぶい黄橙色（10YR6/4）
第14図　2	D3	褐色粘質土	土師器	竈			内：ヘラケズリ 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を含む	内：にぶい褐色（7.5YR5/4） 外：にぶい褐色（7.5YR5/4）
第14図　3	D3	褐色粘質土	須恵器	蓋			内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰白色（N8/）
第14図　4	A2	褐色粘質土	須恵器	坏身			内：回転ナデ 外：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）
第14図　5	B3	褐色粘質土	須恵器	坏			内：回転ナデ 外：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	内：灰白色（10YR7/1） 外：灰白色（10YR7/1）
第14図　6	C3	褐色粘質土	土師器	坏	（20.0）		内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：橙色（5YR6/6） 外：橙色（5YR6/6）
第14図　7	D3	褐色粘質土	土師器	坏		5.0	内：回転ナデ 外：回転糸切り	密	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：橙色（7.5YR7/6）
第14図　8		褐色粘質土	土師器	坏		4.0	内：回転ナデ 外：回転糸切り	密	内：橙色（5YR6/8） 外：橙色（5YR6/8）
第14図　9	F2	褐色粘質土	土師器	坏		（6.5）	内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明		内：橙色（7.5YR7/6） 外：にぶい橙色（7.5YR7/4）
第14図　10	D3	褐色粘質土	土師器	坏		（8.0）	内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明		内：にぶい橙色（7.5YR7/3） 外：にぶい橙色（7.5YR7/4）
第14図　11	E2	褐色粘質土	陶器	擂鉢	（30.8）		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明		内：褐灰色（7.5Y4/1） 外：褐灰色（7.5Y4/1）
第14図　12	B2	褐色粘質土	陶器	擂鉢			内：ヨコハケ 外：ヨコナデ	密	内：灰白色（5Y8/1） 外：黒色（N1.5/）
第14図　13	C3	褐色粘質土	陶器	擂鉢	（29.0）		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	密	内：褐灰色（7.5Y4/1） 外：褐灰色（7.5Y4/1）
第14図　14		地山直上	陶器	擂鉢			内：回転ナデ後擂目 外：回転ナデ	密	内：灰赤色（2.5YR5/2） 外：灰赤色（2.5YR5/2）
第14図　15	C3	褐色粘質土	陶器	擂鉢		（13.8）	内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	密	内：にぶい黄橙色（10YR6/3） 外：にぶい黄橙色（10YR6/3）
第14図　16	E2	褐色粘質土	陶器	壺か袋物			内：回転ナデ 外：ナデ	密	内：灰褐色（7.5YR5/2） 外：にぶい褐色（7.5YR5/3）
第14図　17		褐色粘質土	陶器	灯明皿	（8.4）	（4.0）	内：回転ナデ 外：回転糸切り	密	内：暗赤灰色（2.5YR3/1） 外：明赤灰色（2.5YR5/6）
第14図　18	D3	褐色粘質土	陶器	菊花皿		（6.0）	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰オリーブ色（7.5GY5/2） 外：灰オリーブ色（7.5GY5/2）
第14図　19	C3	褐色粘質土	陶器	甕			内：ヨコナデ 外：ケズリ	密	内：灰白色（2.5Y7/1） 外：灰白色（5Y7/1）
第14図　20	D3	褐色粘質土	陶器	甕か壺	（20.0）		内：ヨコナデ後ヨコハケ 外：ヨコナデ	密	内：褐灰色（7.5Y4/1） 外：褐灰色（7.5Y4/1）
第14図　21	E3	褐色粘質土	陶器	甕			内：ヘラケズリ？ 外：ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	内：黄灰色（2.5Y5/1） 外：灰色（N6/）
第14図　22	Pno.4	褐色粘質土	陶器	甕？			内：ヨコハケ 外：格子目叩き	密	内：灰白色（5Y8/1） 外：灰白色（5Y8/1）
第14図　23	E2	地山直上	陶器	甕			内：ヨコハケ 外：格子目叩き	密	内：灰白色（5Y8/1） 外：灰白色（5Y8/1）
第14図　24	D3	褐色粘質土	陶器	甕？			内：ヨコハケ 外：格子目叩き	密	内：灰白色（5Y8/1） 外：灰白色（5Y8/1）
第14図　25	C3	褐色粘質土	陶器	甕			内：ヨコハケ 外：格子目叩き	密	内：灰白色（N7/） 外：灰色（N5/）
第14図　26	D3	褐色粘質土	陶器	甕			内：ヨコハケ 外：格子目叩き	密	内：にぶい黄色（2.5Y6/3） 外：灰白色（5Y8/1）
第15図　1	C2	褐色粘質土	青磁	碗			内：釉薬 外：釉薬	密	内：灰白色（10Y7/1） 外：灰オリーブ色（7.5GY6/2）
第15図　2	TR16		青磁	碗			内：釉薬 外：釉薬	密	内：灰白色（2.5Y8/2） 外：灰白色（2.5Y8/2）
第15図　3	D3	褐色粘質土	青磁	皿？			内：釉薬 外：釉薬	密	内：オリーブ灰色（5GY6/1） 外：オリーブ灰色（5GY6/1）
第15図　4	TR16		青磁	碗		（4.0）	内：釉薬 外：釉薬	密	内：灰オリーブ色（7.5Y6/2） 外：オリーブ灰色（10Y6/2）
第15図　5	D3	褐色粘質土	青磁	碗		（7.2）	内：釉薬 外：釉薬	密	内：オリーブ灰色（5GY6/1） 外：オリーブ灰色（5GY6/1）
第15図　6	TR16		青磁	碗			内：釉薬 外：釉薬	密	内：オリーブ灰色（5GY6/1 外：オリーブ灰色（5GY6/1）
第15図　7	A3	褐色粘質土	青磁	碗		（6.0）	内：釉薬 外：釉薬	密	内：オリーブ灰色（2.5GY6/1） 外：灰色（N6/）
第15図　8	A3	褐色粘質土	青磁	碗			内：釉薬 外：釉薬	密	内：オリーブ灰色（5GY6/1） 外：オリーブ灰色（5GY6/1）
第15図　9	D3	褐色粘質土	白磁	碗？			内：釉薬 外：釉薬	密	内：灰白色（7.5GY7/1） 外：灰白色（7.5GY7/1）
第15図　10	D3	褐色粘質土	白磁	碗			内：釉薬 外：釉薬	密	内：灰白色（7.5GY7/1） 外：灰白色（7.5GY7/1）
第15図　11	D3	褐色粘質土	白磁	碗		（4.0）	内：釉薬 外：釉薬	密	内：明青灰色（5BG8/1） 外：明青灰色（5BG8/1）
第15図　12	F1	褐色粘質土	染付	碗			内：釉薬 外：釉薬	密	内：灰白色（5GY8/1） 外：灰白色（10Y8/1）
第15図　13	F2	褐色粘質土	陶胎染付	碗		（5.2）	内：釉薬 外：釉薬	密	内：灰オリーブ色（5Y6/2） 外：灰白色（5Y7/2）

第 3 表　高原遺跡（3 区北側）出土石器一覧表

挿図番号	出土地点	出土層位	器　種	長　さ（cm）	幅（cm）	厚　さ（cm）	重　さ（g）	備　　考
第15図 14	Pno.9		石鏃	3.3	2.2	0.8	5	チャート
第15図 15	D1	表採	打製石斧	13.5	9.1	4.0	700	
第15図 16	D3		磨製石斧	7.0	4.9	3.6		
第15図 17	D3	褐色粘質土	砥石	9.5	6.8	6.3	575	砂岩？
第15図 18	C3	褐色粘質土	硯	3.4	2.8	0.7	10	
第15図 19	F2	地山直上	硯	6.2	6.5	1.1	40	粘板岩？

第 4 表　高原遺跡（3 区北側）出土古銭一覧表

挿図番号	出土地点	出土層位	器　種	長　さ（cm）	幅（cm）	厚　さ（cm）	重　さ（g）	備　　考
第15図 20	Pno.6	褐色粘質土	古銭	2.4	2.3	0.1	1	寛永通宝

第 5 表　高原遺跡（3 区南側）出土石塔部材一覧表

挿図番号	形　式	部　位	石　材	備　　考
第17図　1	宝篋印塔	相輪	火山礫凝灰岩（福光石と考えられる）	九輪を線刻。九輪下の請花が突帯状。
第17図　2	宝篋印塔	相輪	火山礫凝灰岩（福光石と考えられる）	九輪を線刻。
第17図　3	宝篋印塔	相輪	火山礫凝灰岩（福光石と考えられる）	九輪を線刻。九輪下の請花が突帯状
第17図　4	宝篋印塔	屋根	火山礫凝灰岩（福光石と考えられる）	軒が厚い。隅飾突起は側面無地。高さは軒上３段目まであり、軒口より外反する
第17図　5	宝篋印塔	屋根	火山礫凝灰岩	軒が厚い。４と同じ形態か
第17図　6	宝篋印塔	屋根	火山礫凝灰岩もしくは凝灰角礫岩	
第17図　7	宝篋印塔	屋根	凝灰岩	
第17図　8	宝篋印塔	塔身	火山礫凝灰岩（福光石と考えられる）	四面とも梵字なし。天地不明。
第17図　10	五輪塔	空風輪	火山礫凝灰岩（福光石と考えられる）	
第17図　11	五輪塔	火輪	火山礫凝灰岩（福光石と考えられる）	軒口が上端のみ反り、下端は水平である。厚さは均一でなく中央に比べて端部が厚い
第17図　12	五輪塔	火輪	火山礫凝灰岩	下面がわずかに窪む
第17図　13	五輪塔	火輪	凝灰岩	下面の中央に若干の窪みあり
第17図　14	五輪塔	水輪	凝灰岩	そろばん玉形
第17図　15	五輪塔	水輪	火山礫凝灰岩（福光石と考えられる）	そろばん玉形
第17図　16	五輪塔	地輪	火山礫凝灰岩	台形
第17図　17	五輪塔	地輪か	火山礫凝灰岩	歪な形状
第17図　18	―	基壇	火山礫凝灰岩	
第17図　19	―	基壇	凝灰岩	
第17図　9	宝篋印塔か	塔身か	凝灰岩	旭山遺跡出土。四面とも梵字なし。

第６表　中尾Ｈ遺跡（４区）出土土器一覧表

挿図番号	出土地点	出土層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	調整及び文様等	胎　土	色　調
第21図　1		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢			内：ミガキ？ 外：磨消縄文	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：褐灰色（10YR4/1） 外：褐灰色（10YR4/1）
第21図　2		青灰色砂礫層	縄文土器	浅鉢			内：ミガキ 外：磨消縄文	1㎜以下の砂粒を含む	内：灰黄色（2.5Y6/2） 外：灰黄色（2.5Y6/2）
第21図　3		青灰色砂礫層	縄文土器	浅鉢			内：ミガキ 外：磨消縄文	密	内：黒褐色（2.5Y3/1） 外：黒褐色（2.5Y3/1）
第21図　4		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢			内：貝殻条痕 外：縄文	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）
第21図　5		青灰色砂礫層	縄文土器	浅鉢			内：ミガキ？ 外：磨消縄文？	1㎜以下の砂粒を含む	内：にぶい黄橙色（10YR6/3） 外：灰黄色（2.5Y6/2）
第21図　6		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢			内：ミガキ？ 外：磨消縄文	密	内：褐灰色（10YR4/1） 外：黒褐灰色（2.5Y3/1）
第21図　7		青灰色砂礫層	縄文土器	深鉢？			内：ミガキ？ 外：磨消縄文？	1㎜以下の砂粒を含む	内：にぶい黄橙色（10YR6/3） 外：暗灰黄色（2.5Y64/2）
第21図　8		青灰色砂礫層	縄文土器	浅鉢			内：ミガキ 外：磨消縄文	密	内：灰黄色（2.5Y6/2） 外：黒褐色（2.5Y3/1）
第21図　9		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢			内：ミガキ？ 外：磨消縄文	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：褐灰色（10YR4/1） 外：褐灰色（10YR4/1）
第21図　10		青灰色砂質土層	縄文土器	鉢			内：貝殻条痕 外：貝殻条痕	1.5㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄橙色（10YR5/3） 外：にぶい黄橙色～黄灰色 （10YR7/2 ～ 2.5Y4/1）
第21図　11		青灰色砂礫層	縄文土器	深鉢			内：貝殻条痕 外：摩滅により調整不明	2㎜以下の砂粒を多く含む	内：黄灰色（2.5Y4/1） 外：灰白色（2.5Y7/1）
第21図　12		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢	（30.9）		内：ミガキ 外：ミガキ	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：褐灰色（10YR4/1） 外：灰黄褐色（10YR6/2）
第21図　13		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢	（19.2）		内：摩滅により調整不明 外：縄文？	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄橙色（10YR7/3） 外：灰白色（10YR7/1）
第21図　14		青灰色砂礫層	縄文土器	深鉢	（25.0）		内：貝殻条痕 外：縄文	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：灰黄色（2.5Y6/2） 外：灰黄色（2.5Y6/2）
第21図　15		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢	（19.9）		内：ナデ 外：貝殻条痕	3㎜以下の砂粒を多く含む	内：黄灰色～黒褐色 （2.5Y4/1 ～ 2.8Y3/1） 外：黄灰色～黒褐色 （2.5Y4/1 ～ 2.8Y3/1）
第21図　16		青灰色砂礫層	縄文土器	深鉢	（26.8）		内：貝殻条痕 外：貝殻条痕	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：暗灰黄色（2.5Y5/2） 外：黄灰色（2.5Y6/2）
第21図　17		青灰色砂礫層	縄文土器	深鉢			内：貝殻条痕 外：貝殻条痕	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：黒褐色（2.5Y3/1） 外：灰黄色（2.5Y6/2）
第21図　18		青灰色砂礫層	縄文土器	不明			内：貝殻条痕 外：貝殻条痕	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：黒褐色（2.5Y3/1） 外：灰黄色（2.5Y6/2）
第22図　1		青灰色砂礫層	縄文土器	深鉢			内：貝殻条痕 外：ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：灰黄色（2.5Y6/2） 外：灰黄色（2.5Y6/2）
第22図　2		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢			内：貝殻条痕？ 外：ミガキ？	2㎜以下の砂粒を多く含む	内：黒色（5Y2/1） 外：灰黄色～黄灰色 （2.5Y6/2 ～ 2.5Y4/1）
第22図　3		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢			内：貝殻条痕 外：貝殻条痕	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：黄灰色（2.5Y5/1） 外：暗灰黄色（2.5Y5/2）
第22図　4		青灰色砂礫層	縄文土器	鉢			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：灰黄色（2.5Y6/2） 外：灰黄色（2.5Y6/2）
第22図　5		青灰色砂質層	縄文土器	鉢		（9.2）	内：貝殻条痕 外：摩滅により調整不明	3㎜以下の砂粒を多く含む	内：褐灰色（10YR5/1） 外：灰黄褐色（10YR6/2）
第22図　6	Pno.17	青灰色砂礫層	縄文土器	鉢		（9.6）	内：摩滅により調整不明 外：縄文？	2㎜以下の砂粒を多く含む	内：灰白色（2.5Y8/1） 外：浅黄橙色（7.5YR8/3）
第22図　7		青灰色砂質土層	弥生土器	甕	（18.8）		内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：黄灰色～黒色 （2.5Y4/1 ～ N2/）
第22図　8		青灰色砂礫層	弥生土器	壺か甕			内：ハケメ 外：ハケメのちナデ	密	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y6/2）
第22図　9		青灰色砂礫層	弥生土器	壺か甕		7.4	内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	2.5㎜以下の砂粒を多く含む	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：橙色（10YR5/1）
第22図　10	Pno.10	青灰色砂礫層	弥生土器	甕			内：ケズリ 外：ナデ	密	内：灰白色（7.5GY7/1） 外：灰白色（7.5GY7/1）
第22図　11	Pno.05	青灰色砂質土層	須恵器	高坏？	（12.0）		内：回転ナデ 外：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を少し含む	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）
第22図　12		青灰色砂質土層	須恵器	蓋	（10.0）		内：回転ナデ 外：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を少し含む	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）
第22図　13		青灰色砂質土層	須恵器	高台付坏		（10.0）	内：回転ナデのちナデ 外：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を少し含む	内：灰白色（5Y7/1） 外：灰白色（5Y8/1）
第22図　14		青灰色粘質土層	須恵器	壺			内：回転ナデ 外：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少し含む	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）

第７表　中尾Ｈ遺跡（４区）出土石器一覧表

挿図番号	枝番	出土地点	出土層位	器　種	長　さ（cm）	幅（cm）	厚　さ（cm）	重　さ（g）	石　材	備　　考
第23図	1		青灰色砂礫層	尖頭器	11.9	2.6	0.9	29.0	安山岩	灰白色（5Y7/1）
第23図	2		青灰色砂礫層	石匙	6.8	2.6	0.7	14.8	安山岩	灰色（N5/）
第23図	3		青灰色砂礫層	スクレイパー	6.0	8.4	2.8	109.3	瑪瑙	青灰黄色（2.5Y4/2）
第23図	4		青灰色砂礫層	スクレイパー	3.9	5.4	8.2	16.8	安山岩？	灰色（7.5Y6/1）
第23図	5		青灰色砂礫層	スクレイパー	2.2	4.8	0.8	5.6	黒曜石	黒色（N1.5/）
第23図	6		青灰色砂礫層	スクレイパー	2.4	6.0	1.5	13.8	凝灰岩	灰色（7.5Y5/1）
第23図	7		青灰色砂礫層	スクレイパー	5.6	3.3	0.6	17.4	玉髄	黄褐色（25.Y5/6）
第23図	8		青灰色砂礫層	スクレイパー	2.9	5.5	0.6	10.5	安山岩？	灰色（N5/0）
第23図	9		青灰色砂礫層	スクレイパー	2.8	3.2	1.3	7.3	黒曜石	黒色（N1.5/）
第23図	10		青灰色砂礫層	スクレイパー	7.8	4.3	0.9	35.4	安山岩	暗灰色（N3/）
第23図	11		青灰色砂礫層	ドリル？	2.9	1.1	0.7	2.8	玉髄	灰オリーブ（5Y6/2）
第23図	12		青灰色砂礫層	ドリル？	4.9	1.2	0.9	6.6	安山岩？	灰色（10Y5/1）
第23図	13		青灰色砂礫層	石核	6.9	5.0	4.1	112.9	瑪瑙	明黄褐色（2.5Y6/6）
第23図	14		青灰色砂礫層	打製石斧	16.3	8.0	1.8	258.8	凝灰岩	灰白色（7.5Y7/1）
第23図	15	Pno.07	青灰色砂礫層	磨製石斧	9.3	(3.0)	1.9	82.0	流紋岩？	青灰色（10BG5/1）
第23図	16	Pno.08	青灰色砂礫層	磨製石斧	(10.1)	(3.7)	(2.2)	115.5	不明	灰色（7.5Y4/1）
第23図	17		青灰色砂礫層	磨製石斧	(13.7)	5.2	3.1	388.0	流紋岩？	明緑灰色（7.5GY7/1）
第23図	18		青灰色砂礫層	磨製石斧	(14.3)	5.4	3.4	346.0	頁岩？	暗青灰色（5B4/1）
第23図	19		青灰色砂礫層	磨製石斧	(17.5)	7.1	5.1	1,074.0	塩基性片岩	未成品。明緑灰色（7.5GY7/1）
第23図	20	Pno.04	青灰色砂礫層	磨製石斧	(12.6)	5.6	2.7	273.8	頁岩？	暗青灰色（5B4/1）
第24図	1		青灰色砂礫層	凹石	12.5	10.4	4.0	848.0	不明	灰白色～灰色（7.5Y8/1 ～ N5/）
第24図	2		青灰色砂礫層	磨石・敲石	10.4	8.1	5.65	700.0	不明	灰色（10Y6/1）

第８表　中尾Ｈ遺跡（４区）出土木器一覧表

挿図番号		出土地点	出土層位	器　種	長　さ（cm）	幅（cm）	厚　さ（cm）	備　　考
第24図	3	Pno.14	青灰色砂礫層	ナスビ型鋤	(16.5)	(4.8)	1.0	樹種はコナラ属アカガシ亜属
第24図	4		青灰色砂礫層	桶	(8.9)	(6.7)	1.8	樹種はケヤキ
第24図	5		青灰色砂礫層	蓋	(15.3)	(5.5)	0.7	樹種はスギ
第24図	6		青灰色砂礫層	椀	高さ(5.5)	底径(7.5)	0.6	内外面ともに黒漆塗り。樹種はトチノキ
第24図	7		青灰色砂礫層	板	(26.4)	(11.0)	1.1	樹種ははスギ
第24図	8	Pno.2	青灰色砂礫層	木簡	13.9	1.6	0.8	判読不能。樹種はトチノキ

第 9 表　門遺跡（2 区）出土土器一覧表

挿図番号	枝番	出土地点	出土層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	調整及び文様等	胎　土	色　調	備　考
第29図	1	Pno.114	暗褐色土層	縄文土器	鉢			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄色（2.5YR6/3） 外：にぶい黄色（2.5YR6/3）	
第29図	2		最下層	弥生土器	甕	(14.3)		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄色（2.5YR6/3） 外：にぶい黄色（2.5YR6/3）	
第29図	3	試掘	暗褐色土層	弥生土器	甕	(15.1)		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を含む	内：にぶい黄色（2.5YR6/3） 外：にぶい橙色（5YR7/4）	
第29図	4	試掘	暗褐色土層	弥生土器	高坏か器台			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を含む	内：にぶい黄色（2.5YR6/3） 外：にぶい橙色（5YR7/4）	
第29図	5		黒褐色土層	弥生土器	高坏			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を含む	内：浅黄橙色（10YR8/4） 外：浅黄橙色（10YR8/4）	
第29図	6		暗褐色土層	土師器	甕			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄褐色 (10YR5/4) 外：にぶい黄褐色 (10YR5/4)	
第29図	7	Pno.6	黒褐色土層	土師器	甕	(25.0)		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	3㎜以下の砂粒を多く含む	内：褐色（10YR4/4） 外：明黄褐色（10YR7/6）	
第29図	8	Pno.12	暗褐色土層	土師器	甕	(15.8)		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	3㎜以下の砂粒を多く含む	内：明黄褐色（10YR6/6） 外：にぶい黄褐色（10YR5/4）	
第29図	9		黒褐色土層	土師器	高坏？			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	5㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄褐色（10YR5/4） 外：にぶい黄褐色（10YR5/4）	
第29図	10		暗褐色土層	土師器	高坏			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を含む	内：にぶい黄橙色（10YR6/3） 外：橙色（5YR6/6）	
第29図	11		暗褐色土層	土師器	甑			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄橙色（10YR7/4） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
第29図	12		暗褐色土層	土師器	甑			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：明黄褐色 (10YR6/6) 外：褐灰色 (10YR4/1)	
第29図	13		暗黄緑灰色粘質土層	土師器	竈			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄橙色（10Y7/3） 外：にぶい黄橙色（10Y7/3）	
第29図	14		暗褐色土層	土師器	竈			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	3㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄褐色 (10YR5/4) 外：にぶい黄橙色 (10Y6/4)	
第29図	15		暗褐色土層	土師器	坏	(17.2)		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を含む	内：にぶい橙色（7.5YR6/4） 外：にぶい橙色（7.5YR6/4）	
第29図	16		暗褐色土層	土師器	坏	(14.2)		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を含む	内：にぶい橙色（7.5YR6/4） 外：にぶい橙色（7.5YR6/4）	
第29図	17		暗褐色土層	土師器	坏	(12.0)		内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：明褐色（7.5YR5/6） 外：明赤褐色（5YR5/6）	
第29図	18	Pno.123	暗褐色土層	土師器	坏			内：摩滅により調整不明 外：摩滅により調整不明	1㎜以下の砂粒を多く含む	内：にぶい黄色（2.5YR6/3） 外：にぶい黄色（2.5YR6/3）	
第30図	1		暗褐色土層	須恵器	坏蓋	(11.8)		内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ・回転ナデ	密	内：灰色 (N6/) 外：灰色 (N6/)	
第30図	2		暗褐色土層	須恵器	蓋			内：ナデ 外：回転ヘラケズリ	密	内：灰色 (7.5Y6/1) 外：灰色 (7.5Y6/1)	転用硯の可能性あり
第30図	3	Pno.30	暗褐色土層	須恵器	硯？			内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ	密	内：灰色 (N6/) 外：灰色 (N6/)	
第30図	4		暗褐色土層	須恵器	硯		(4.0)	内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ	密	内：灰色 (5Y6/1) 外：灰色 (7.5Y4/1)	
第30図	5		暗褐色土層	須恵器	坏	(11.0)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰白色 (N7/) 外：灰白色 (N7/)	
第30図	6		暗褐色土層	須恵器	坏		(8.0)	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰白色 (7.5Y7/1) 外：灰白色 (7.5Y7/1)	
第30図	7	Pno.19 SD03	暗褐色土層	須恵器	坏			内：回転ナデ 外：回転糸切り	密	内：灰白色 (7.5Y8/1) 外：灰白色 (7.5Y7/1)	
第30図	8		暗褐色土層	須恵器	坏		(6.8)	内：ナデ 外：回転糸切り	密	内：灰色 (N5/) 外：灰色 (7.5GY5/1)	
第30図	9		暗褐色土層	須恵器	壺？		(8.5)	内：回転ナデ 外：ケズリのちナデか？	密	内：灰白色 (5Y7/1) 外：灰白色 (5Y7/1)	内側に自然釉か、灰釉
第30図	10		暗褐色土層	須恵器	高台付坏			内：回転ナデ 外：回転糸切り	密	内：灰色 (N6/) 外：灰色 (N6/)	
第30図	11		暗褐色土層	須恵器	壺			内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰白色 (N7/) 外：灰白色 (N7/)	
第30図	12		暗褐色土層	須恵器	甕			内：同心円の当具 外：格子目叩き	密	内：灰色 (N6/) 外：灰色 (7.5Y6/1)	
第30図	13	Pno.51 SD01		須恵器	甕か壺			内：同心円の当具 外：平行叩き	密	内：灰色 (N6/) 外：灰色 (N6/)	
第30図	14		暗褐色土層	須恵器	甕			内：同心円の当具 外：平行叩き	密	内：灰色 (N6/) 外：灰色 (N6/)	
第30図	15		暗褐色土層	須恵器	甕			内：同心円の当具 外：平行叩き	密	内：灰色 (N4/) 外：灰色 (N4/)	

第 10 表　門遺跡（2 区）出土石器一覧表

挿図番号	出土地点	出土層位	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	備　　考
第30図　16		暗褐色土層	石皿	（28.8）	13.0	7.2	4,650.0	不明	灰白色（2.5GY8/2）

第 11 表　門遺跡（2 区）出土木器一覧表

挿図番号	出土地点	出土層位	器　種	長　さ（cm）	幅（cm）	厚　さ（cm）	備　　考
第30図　17		青灰色砂質土層	棒状木製品	29.0	2.3	1.2	樹種はスギ

写 真 図 版

高原遺跡（3 区）上空から東側を望む

高原遺跡（3 区）調査前状況

図版 2

高原遺跡（3 区北側）SB01 完掘状況

高原遺跡（3 区北側）SB02・SB03・SD01 完掘状況

高原遺跡（3 区北側）東側セクション（北側）

高原遺跡（3 区北側）東側セクション（南側）

図版 4

高原遺跡（3 区北側）西側セクション（南側）

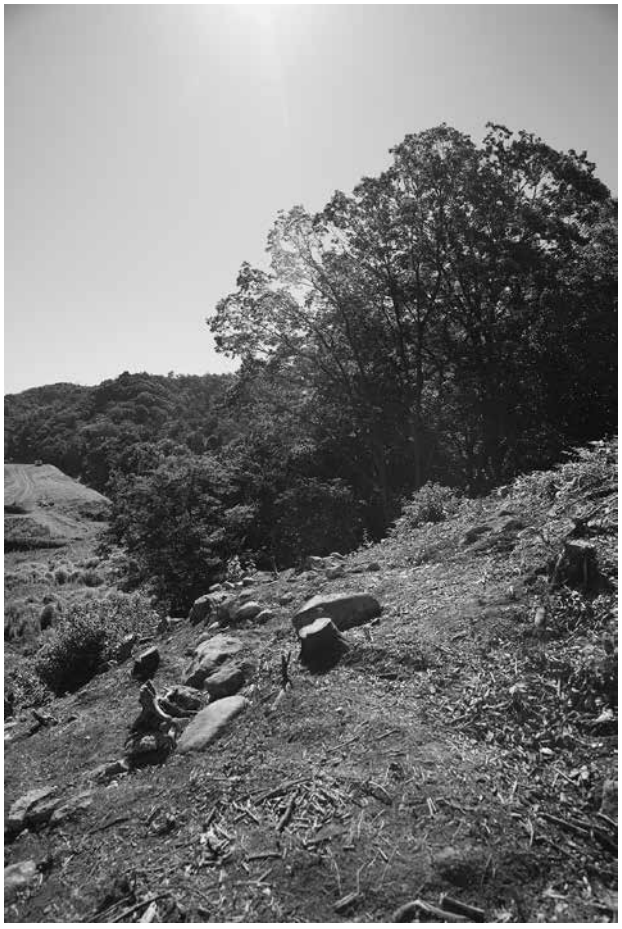
高原遺跡（3 区北側）西側セクション（北側）

高原遺跡（3 区南側）調査前状況（遠景）

高原遺跡（3 区南側）調査前状況（北側から撮影）

図版 6

高原遺跡（3 区南側）調査前状況（東側から撮影）



高原遺跡（3 区南側）調査前状況（西側から撮影）

高原遺跡（3 区南側）石塔基壇セクション

高原遺跡（3 区南側）調査完了状況（北側から撮影）

高原遺跡（3 区南側）調査完了状況（南側から撮影）

図版 8

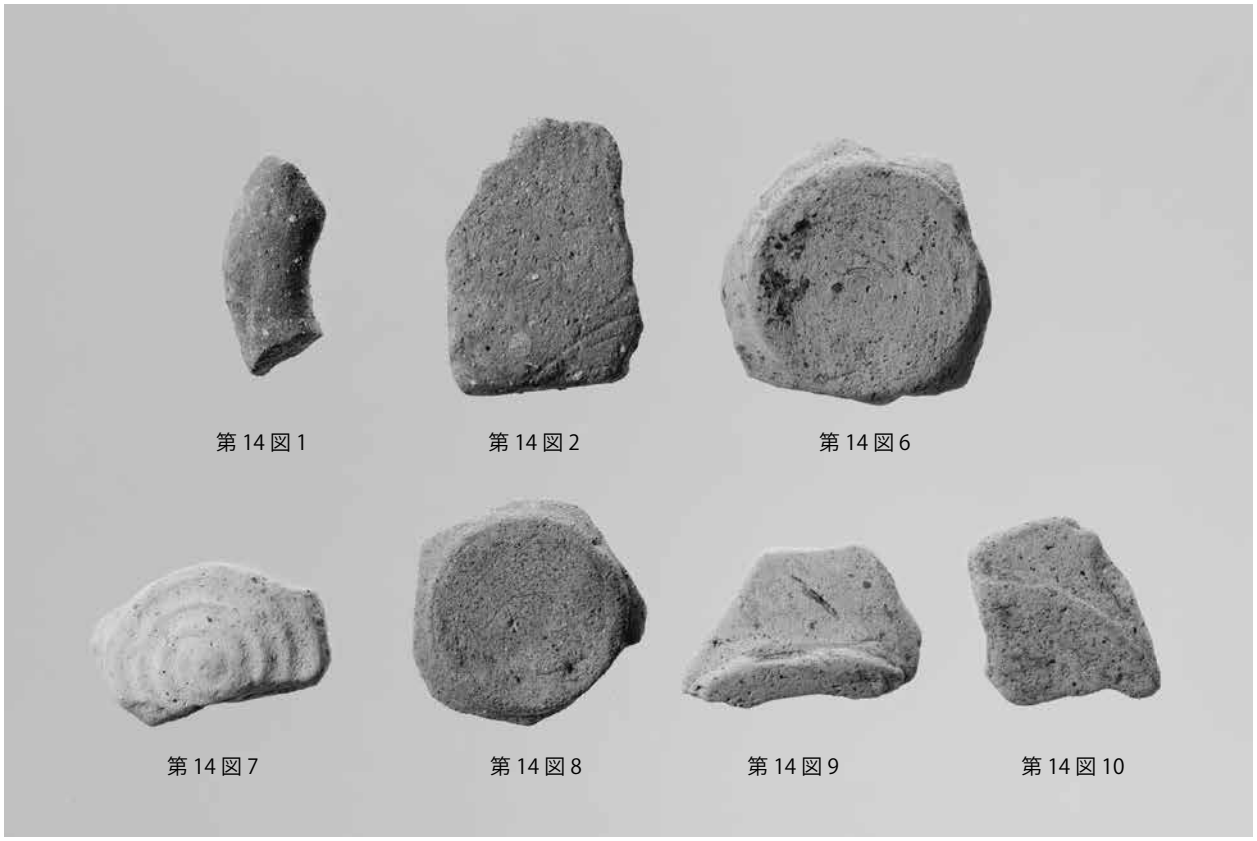
高原遺跡（3 区南側）調査完了状況（東側から撮影）

高原遺跡（3 区南側）調査完了状況（西側から撮影）

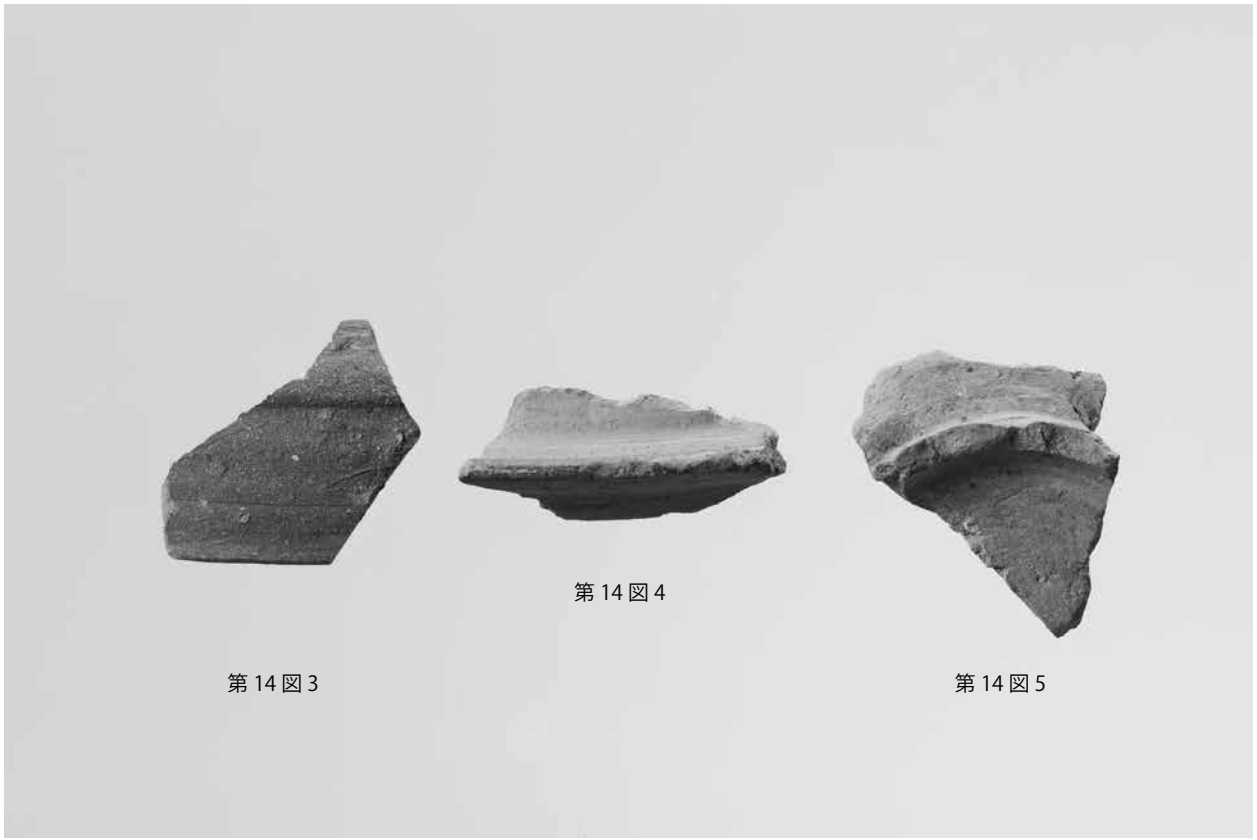
高原遺跡（3 区北側）調査完了状況（真上から撮影）

高原遺跡（3 区）調査完了状況（西側から撮影）

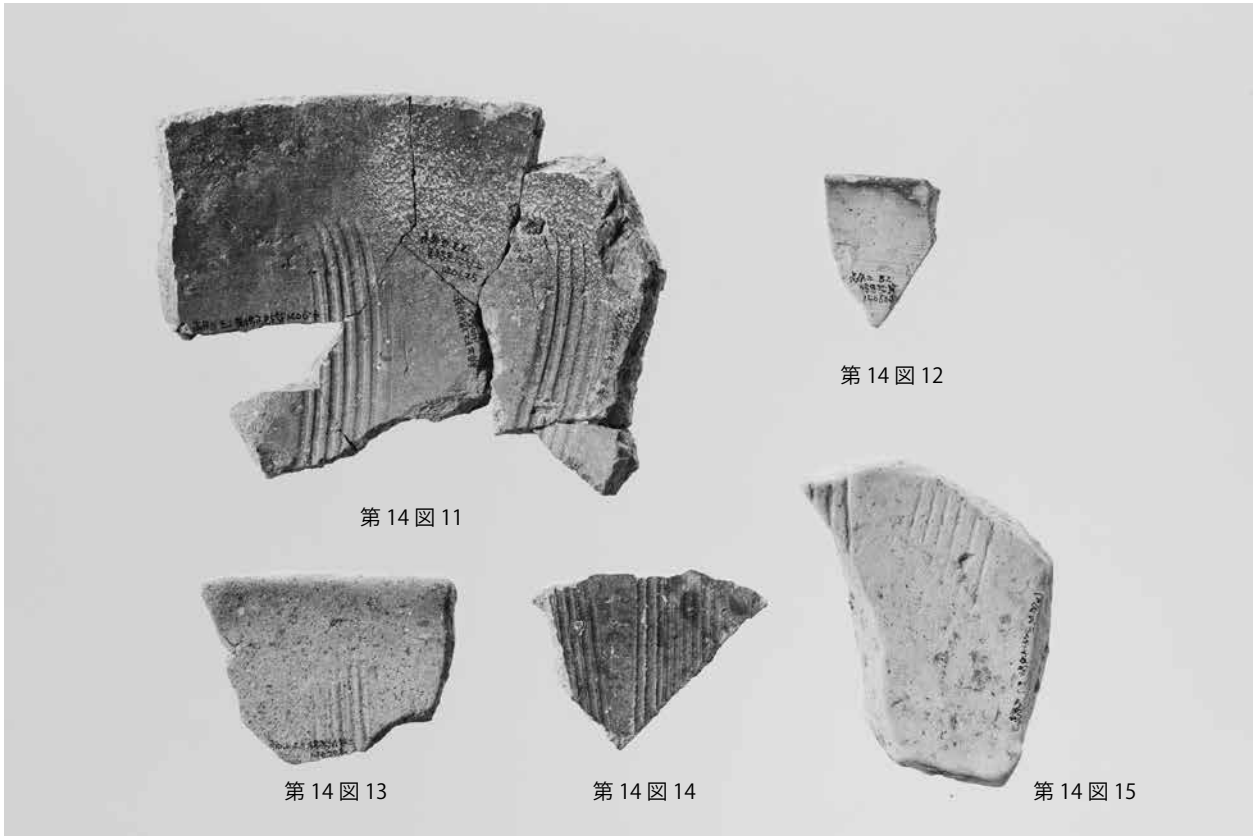
図版 10



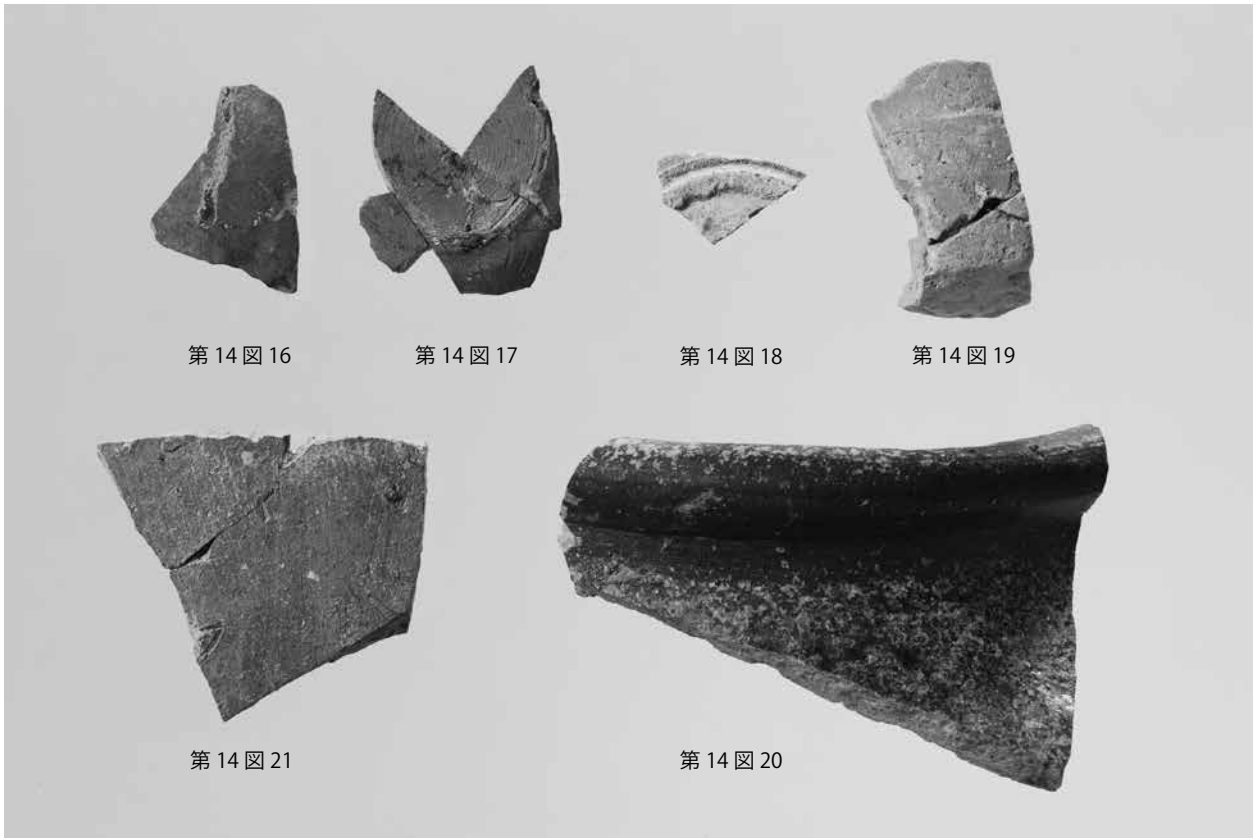
高原遺跡（3 区北側）出土土師器



高原遺跡（3 区北側）出土須恵器

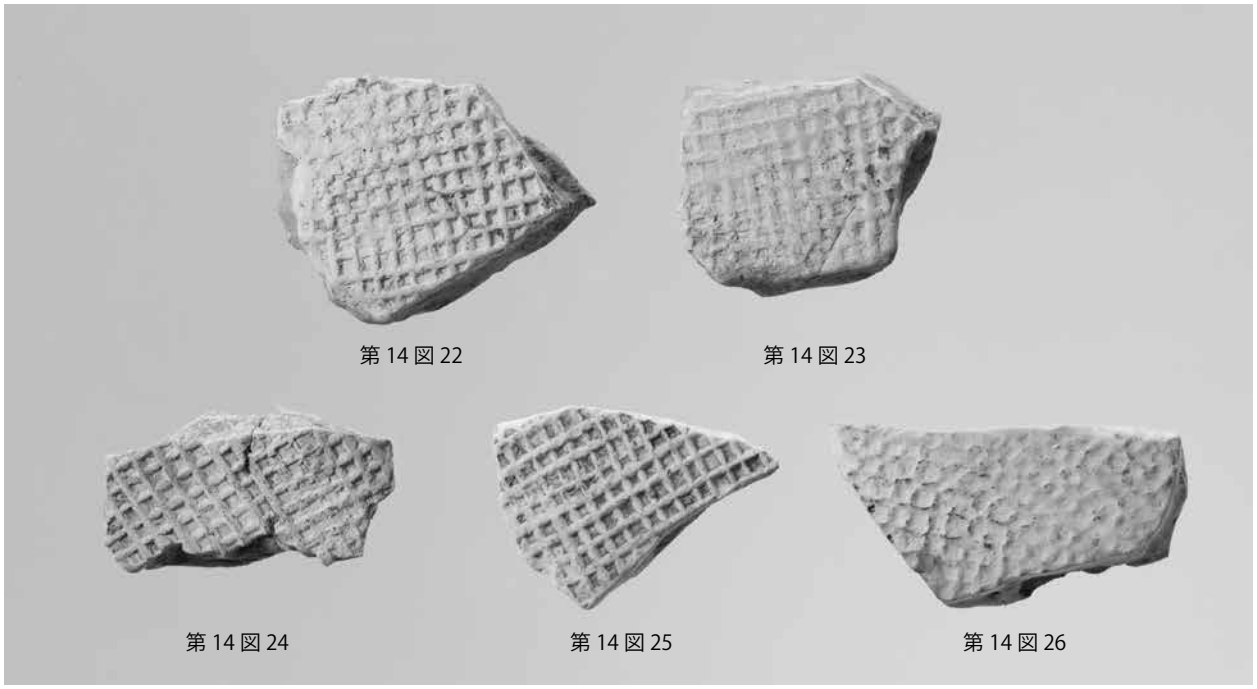


高原遺跡（3 区北側）出土擂鉢

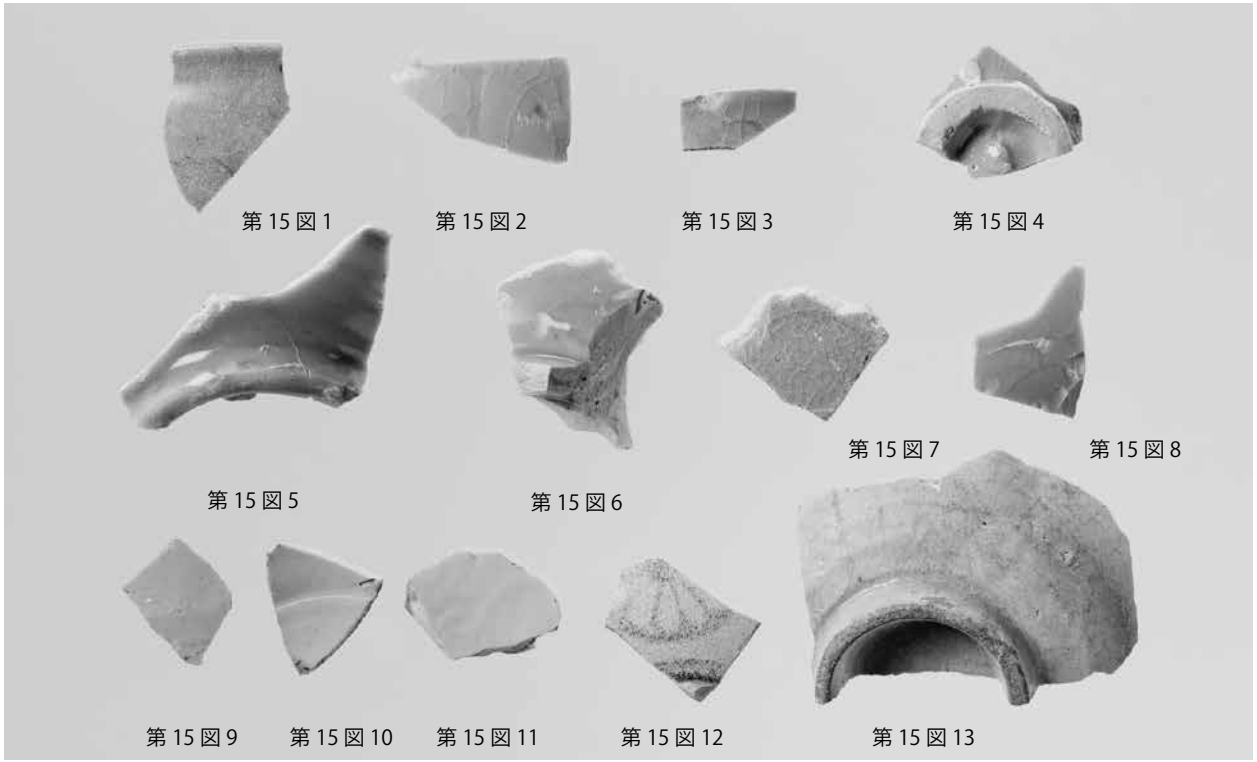


高原遺跡（3 区北側）出土陶器①

図版 12



高原遺跡（3 区北側）出土陶器②



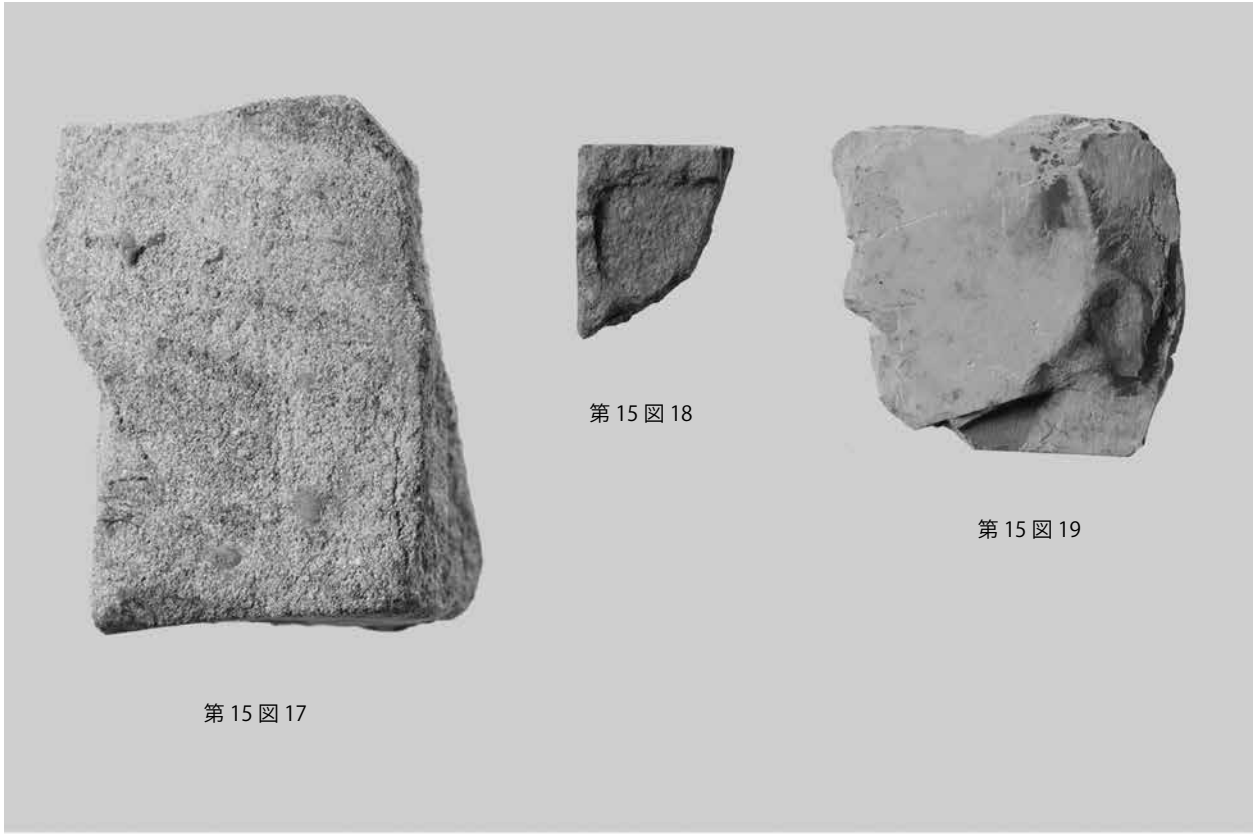
高原遺跡（3 区北側）出土磁器・染付

高原遺跡（3 区北側）出土石鏃（第 15 図 14）

高原遺跡（3 区北側）出土銭貨（第 15 図 20）

高原遺跡（3 区北側）出土打製石斧（第 15 図 15）

高原遺跡（3 区北側）出土磨製石斧（第 15 図 16）



高原遺跡（3 区北側）出土砥石・石硯

図版 14

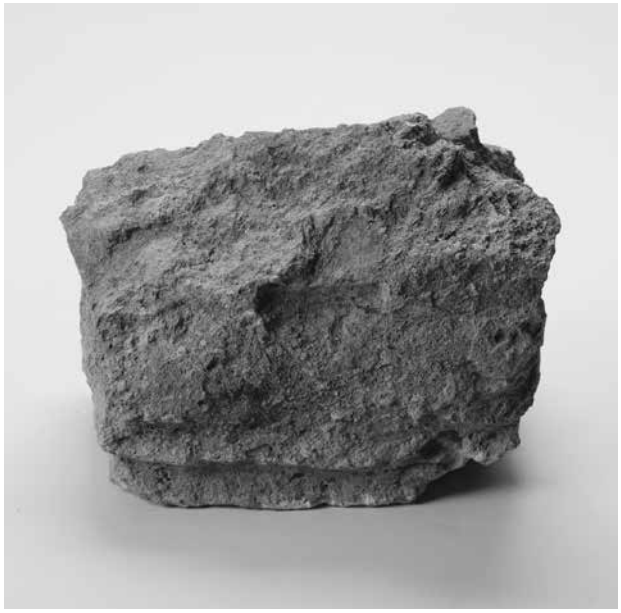
高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 1）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 2）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 3）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 4）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 5）



高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 6）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 7）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 8）

旭山遺跡採集石塔部材（第 17 図 9）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 10）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 11）

図版 16

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 12）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 13）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 14）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 15）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 16）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 17）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 18）

高原遺跡（3 区南側）採集石塔部材（第 17 図 19）

中尾 H 遺跡（4 区）上空から西側を望む

中尾 H 遺跡（4 区）調査前状況（西側から撮影）

図版 18

中尾 H 遺跡（4 区）南西壁セクション

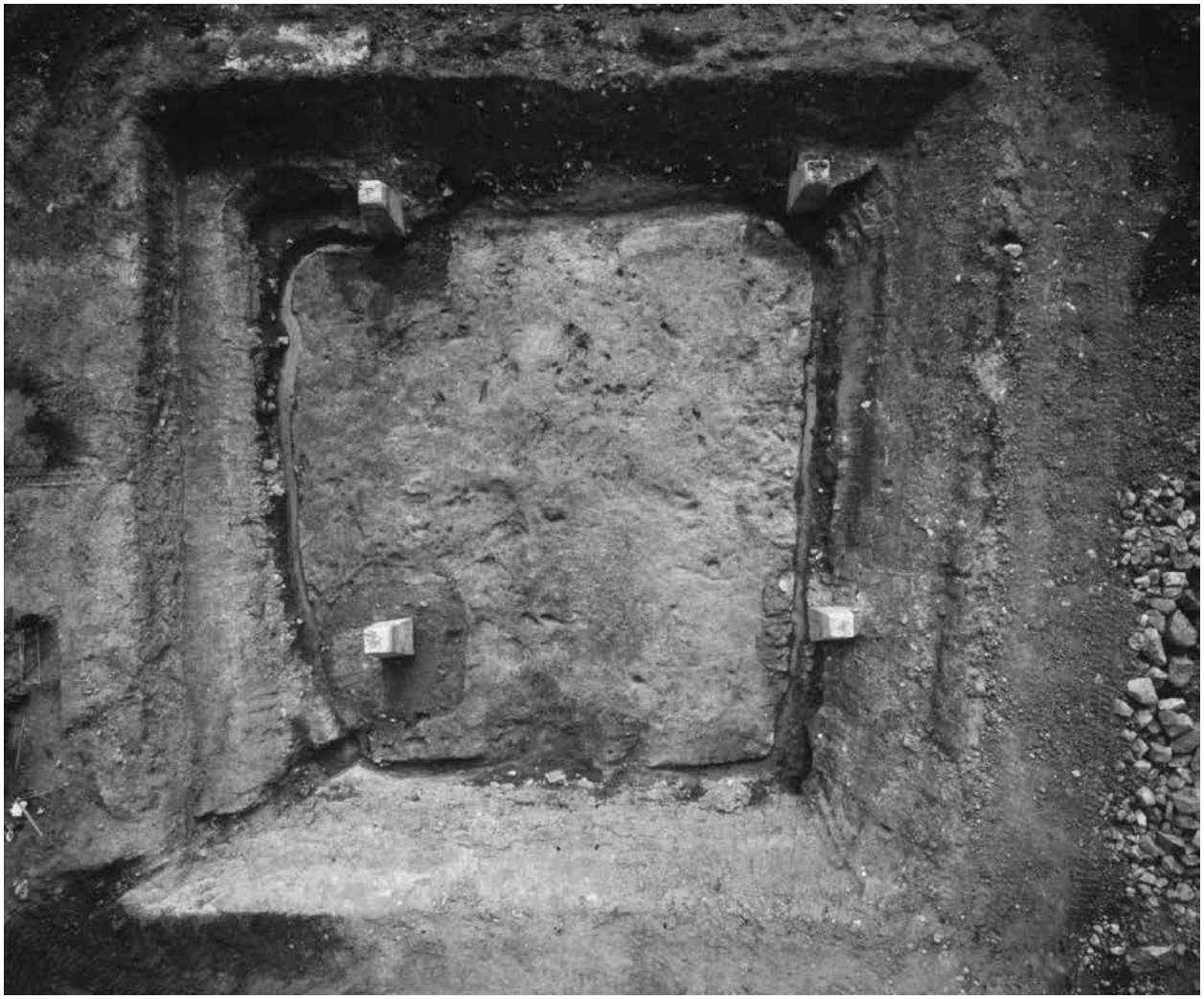
中尾 H 遺跡（4 区）南東壁セクション

中尾 H 遺跡（4 区）礫検出状況（北東側から撮影）

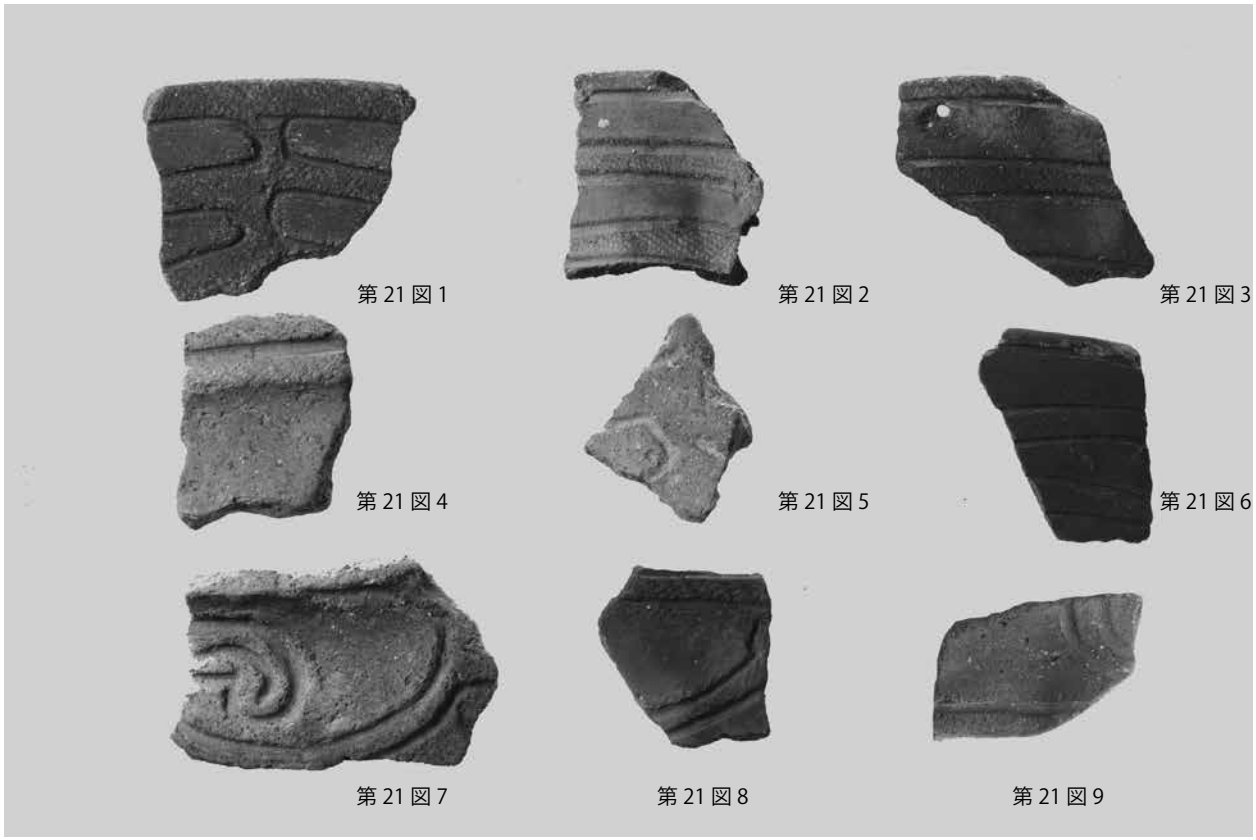
中尾 H 遺跡（4 区）礫検出状況（近景）

図版 20

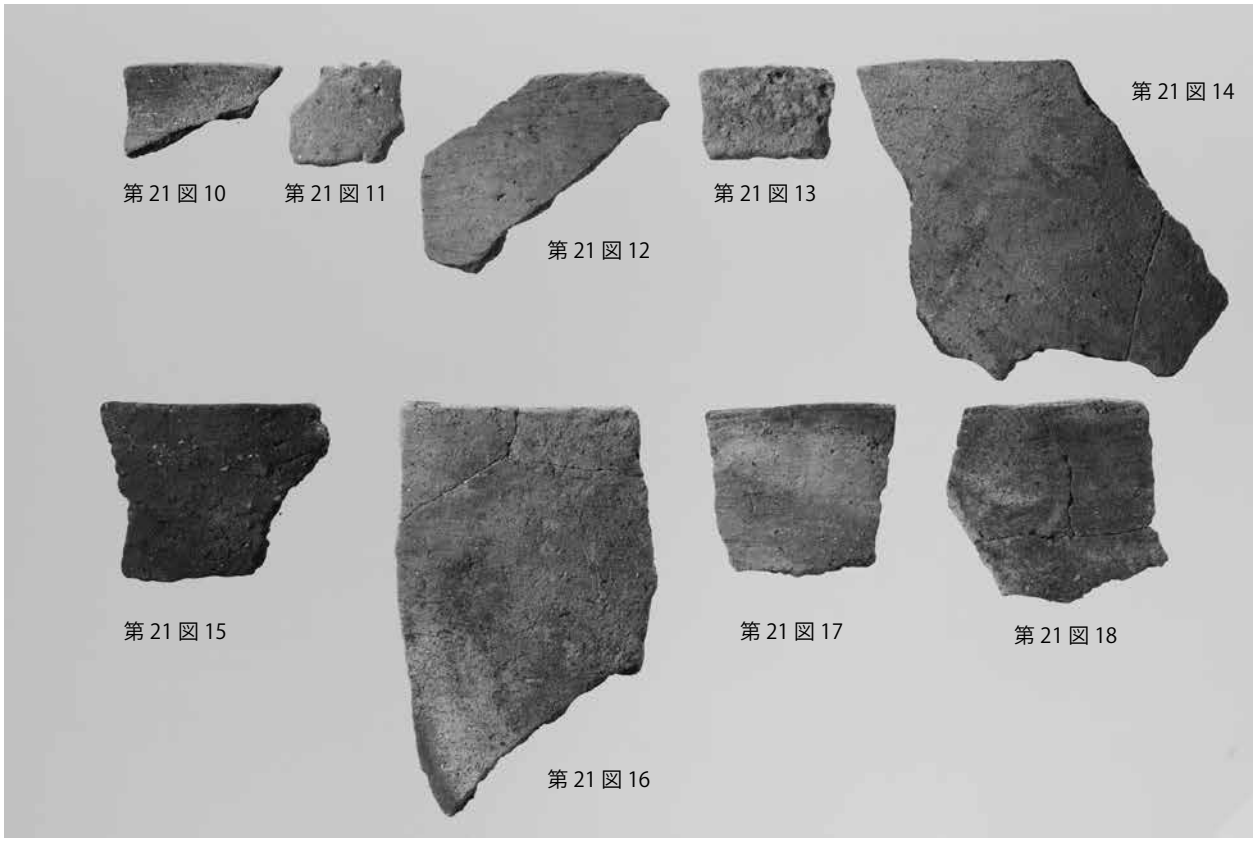
中尾 H 遺跡（4 区）調査完了状況（北東側から撮影）



中尾 H 遺跡（4 区）調査完了状況（真上から撮影）

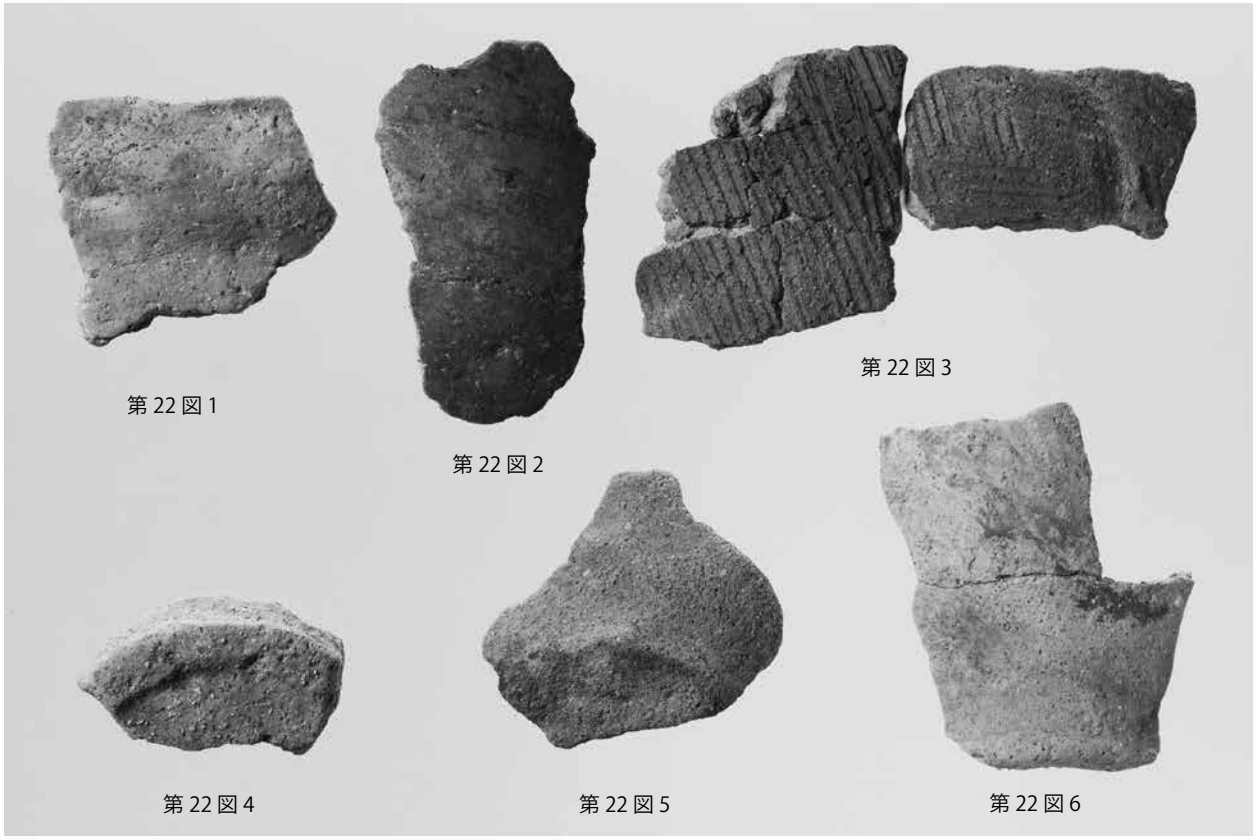


中尾 H 遺跡（4 区）出土縄文土器①

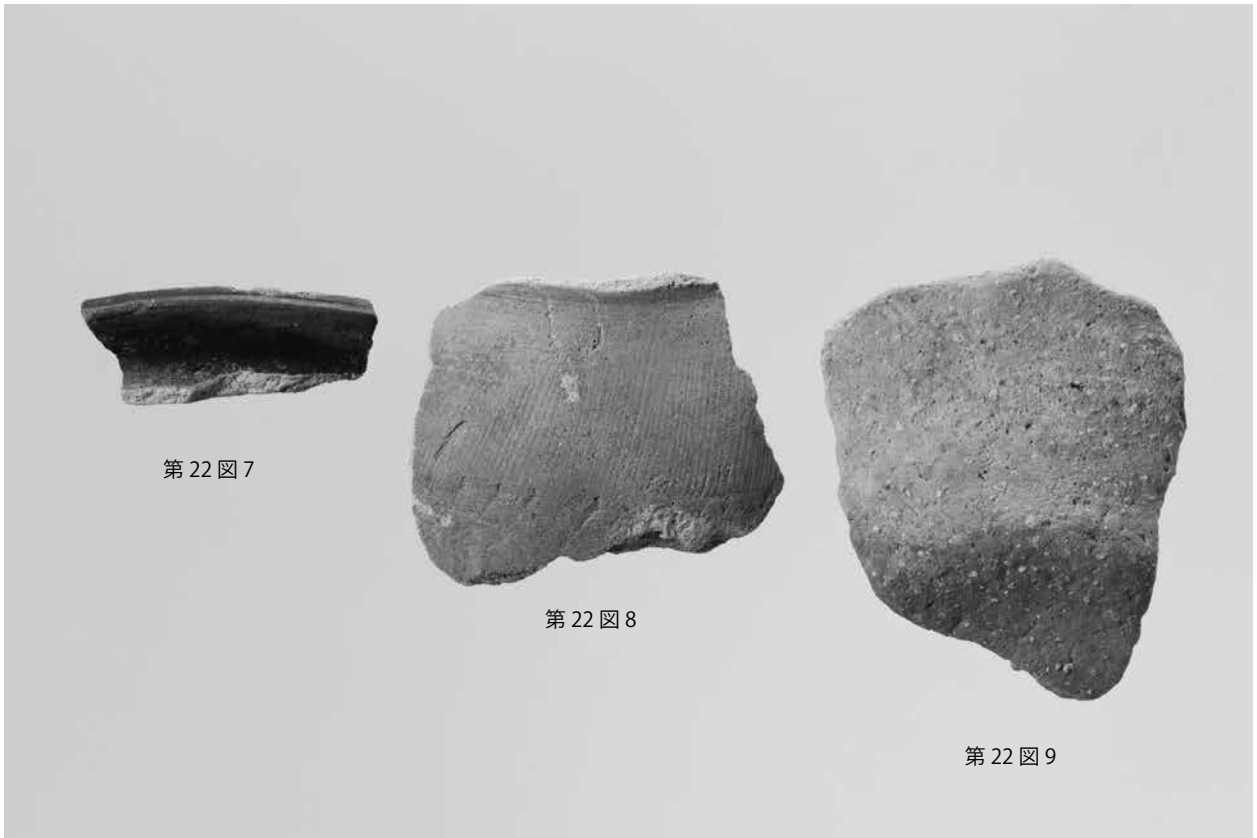


中尾 H 遺跡（4 区）出土縄文土器②

図版 22

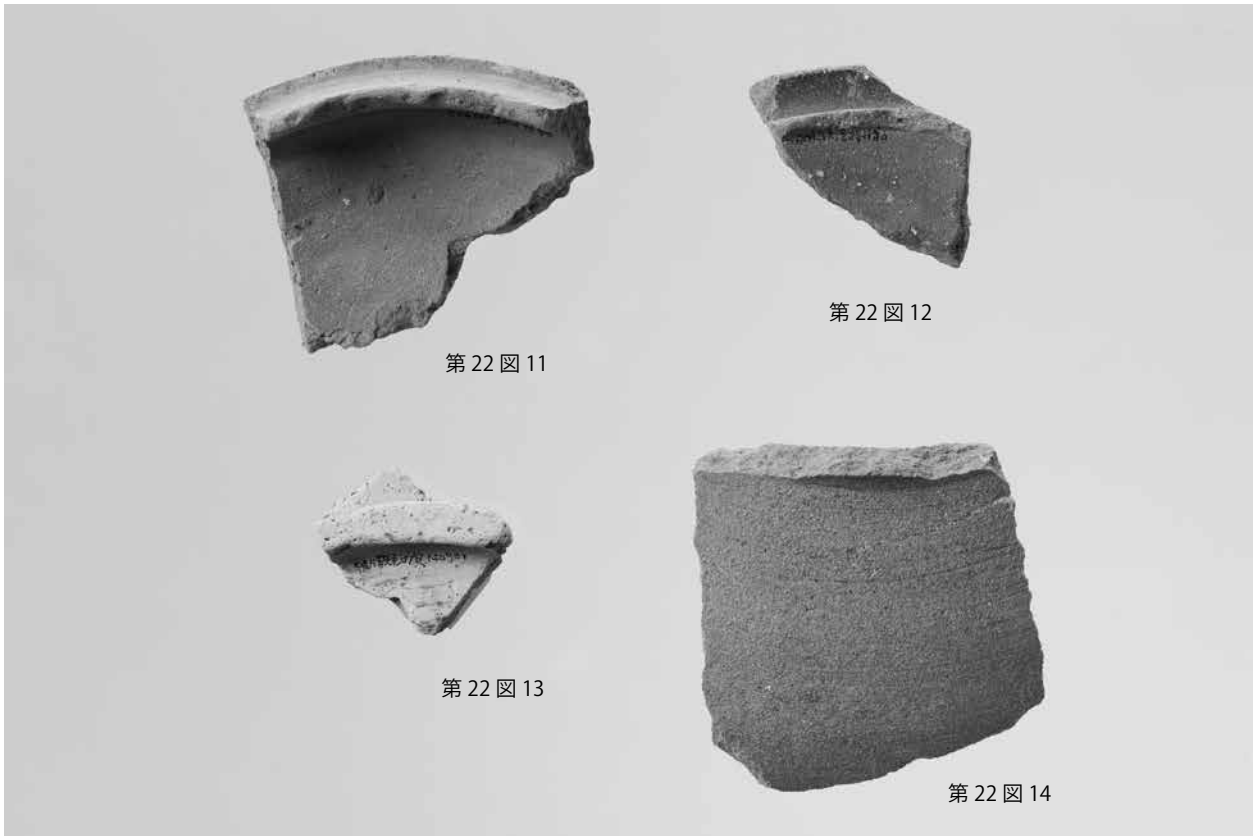


中尾 H 遺跡（4 区）出土縄文土器③



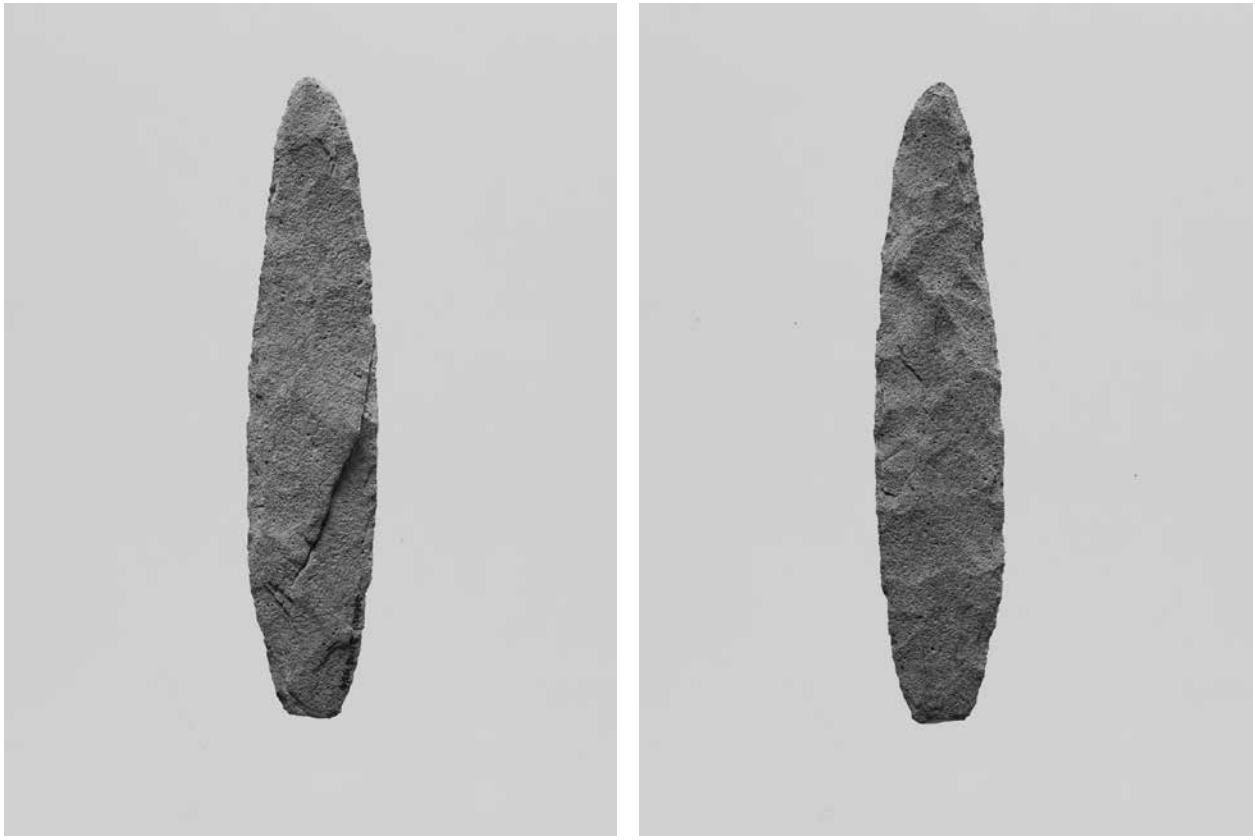
中尾 H 遺跡（4 区）出土弥生土器①

中尾 H 遺跡（4 区）出土弥生土器（第 22 図 10）



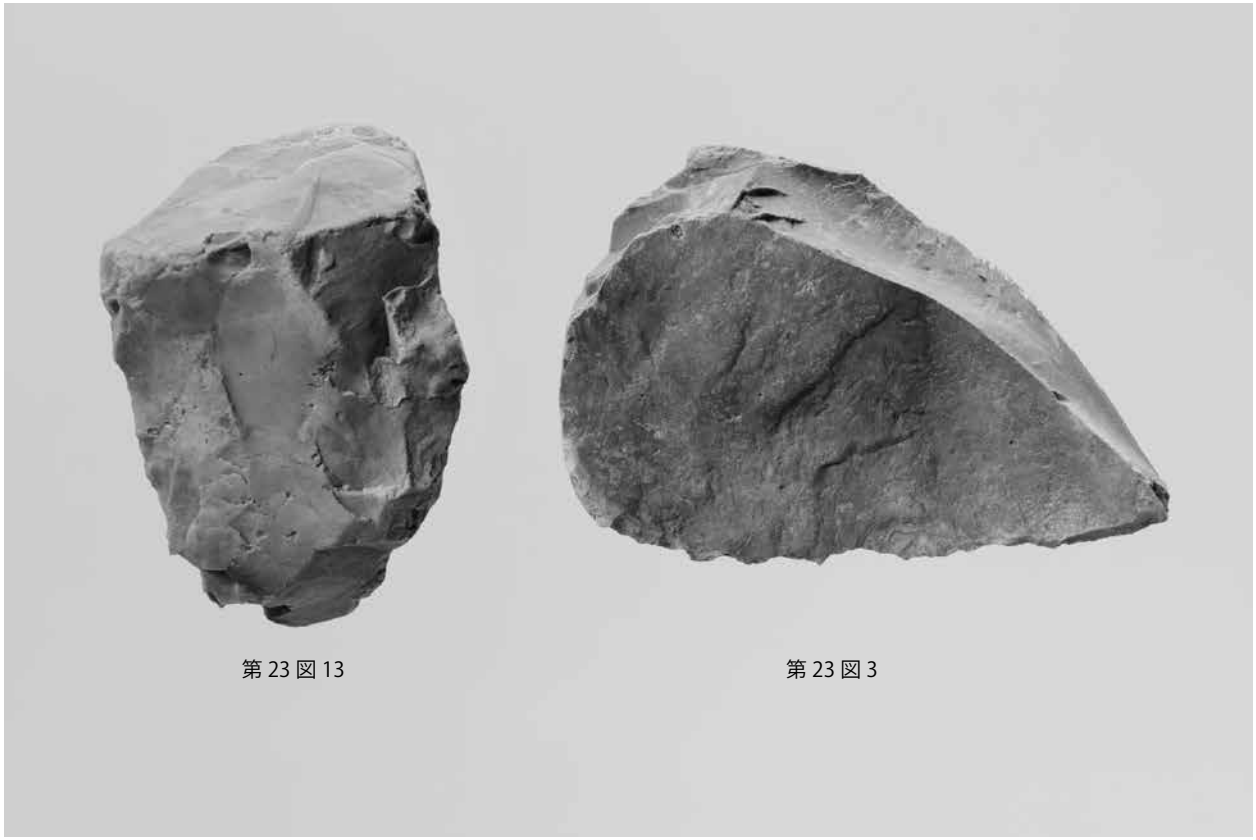
中尾 H 遺跡（4 区）出土須恵器

図版 24



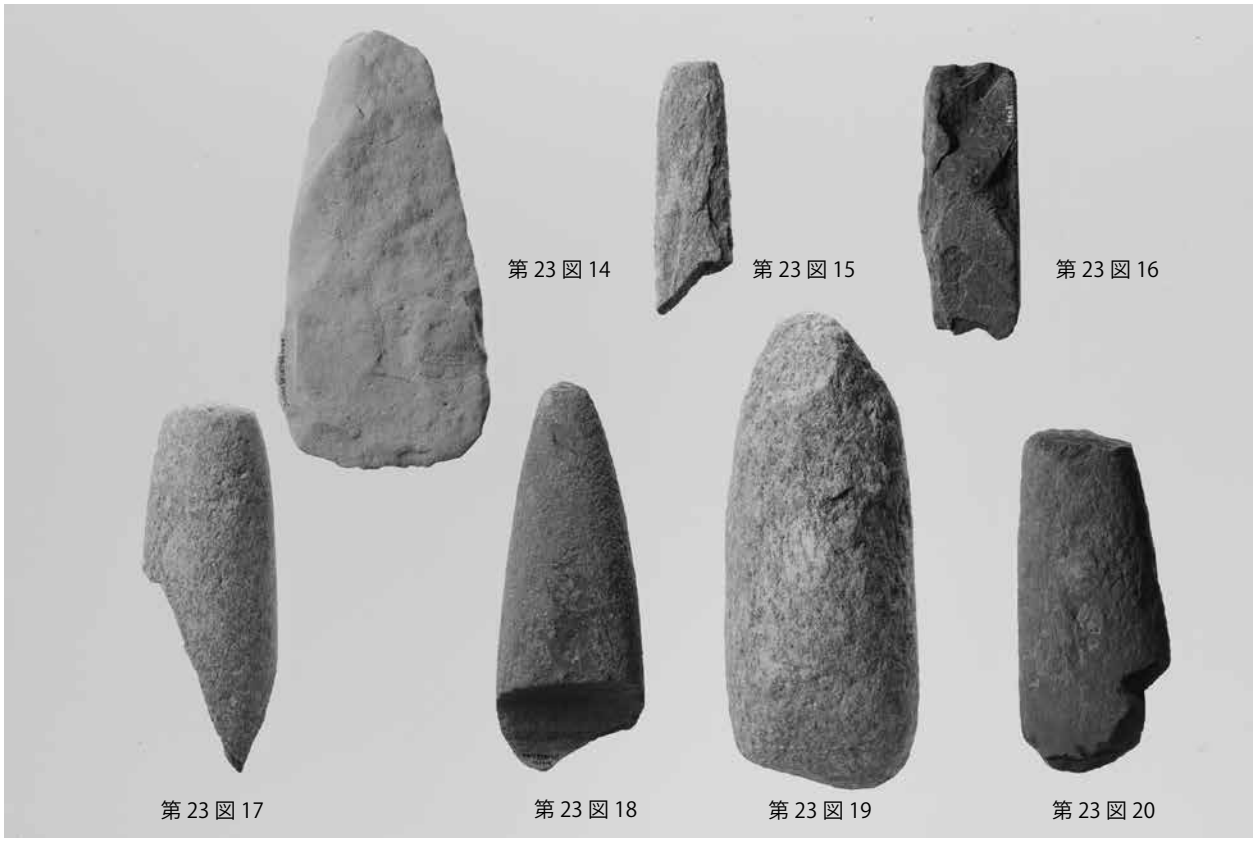
中尾 H 遺跡（4 区）出土尖頭器（第 23 図 1）

中尾 H 遺跡（4 区）出土石器①



第 23 図 13　　第 23 図 3

中尾 H 遺跡（4 区）出土石器②



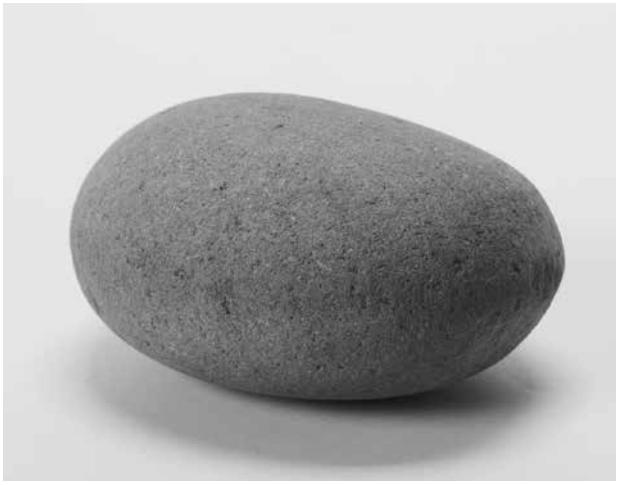
第 23 図 14　第 23 図 15　第 23 図 16

第 23 図 17　第 23 図 18　第 23 図 19　第 23 図 20

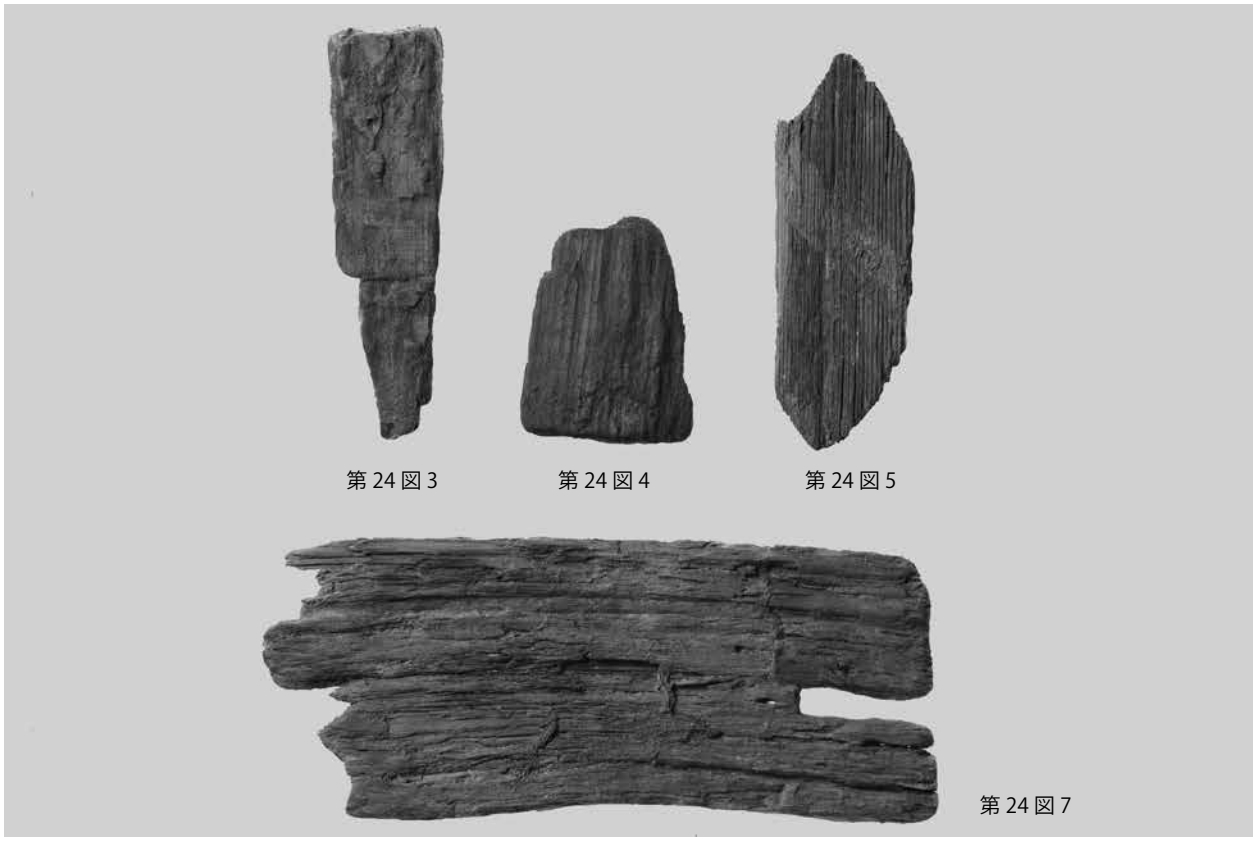
中尾 H 遺跡（4 区）出土打製石斧・磨製石斧

図版 26

中尾 H 遺跡（4 区）出土凹石（第 24 図 1）



中尾 H 遺跡（4 区）出土磨石（第 24 図 2）

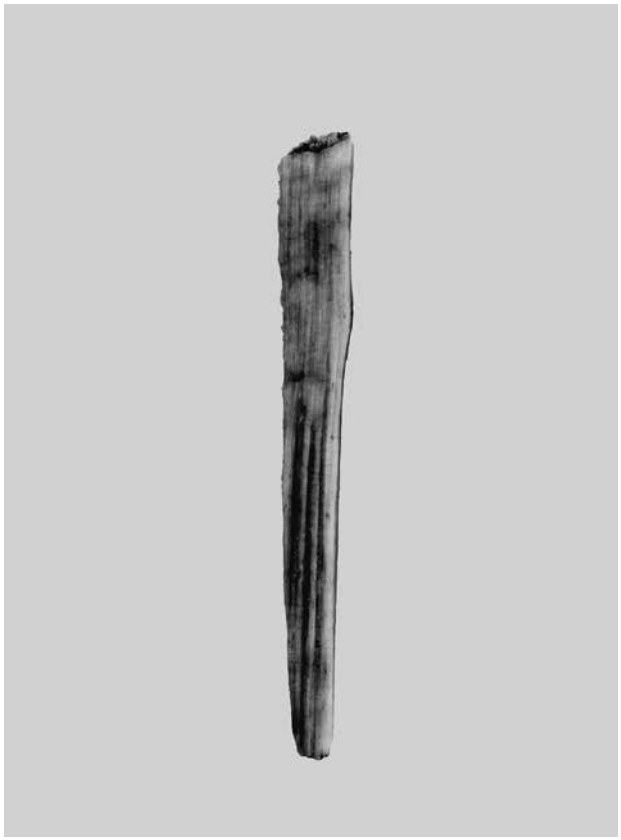


中尾 H 遺跡（4 区）出土木製品

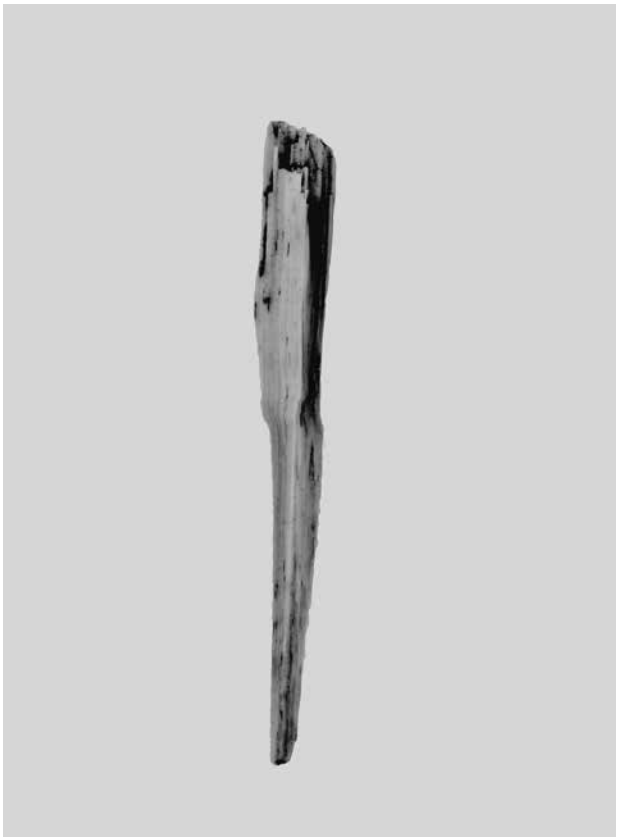
中尾 H 遺跡（4 区）出土漆器椀（第 24 図 6）

中尾 H 遺跡（4 区）出土木簡（第 24 図 8：表面）

中尾 H 遺跡（4 区）出土木簡（第 24 図 8：裏面）



中尾 H 遺跡（4 区）木簡赤外線写真（第 24 図 8：表面）



中尾 H 遺跡（4 区）木簡赤外線写真（第 24 図 8：裏面）

図版 28

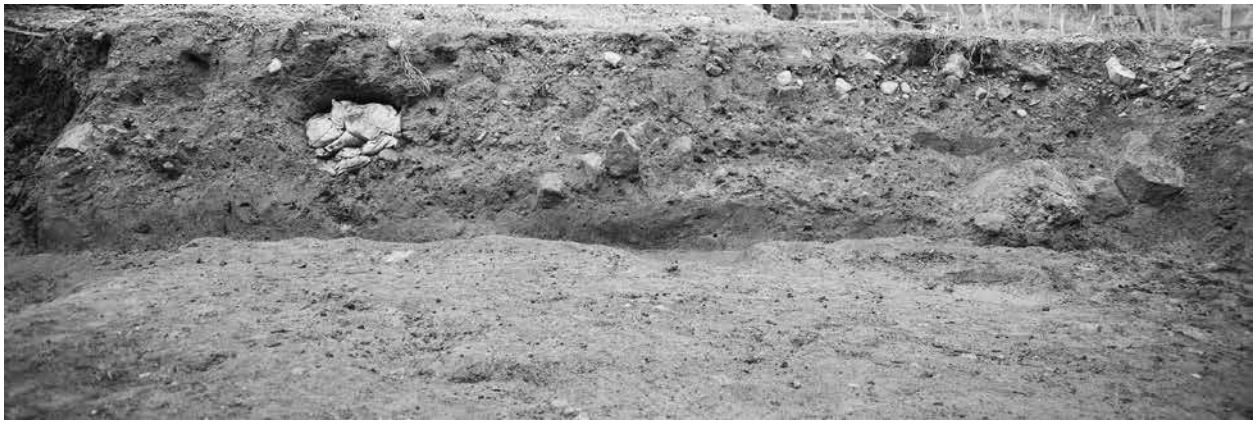
門遺跡（2 区）上空から北東を望む

門遺跡（2 区）調査前状況（南側から撮影）

門遺跡（2 区）北西壁セクション（南西側）

門遺跡（2 区）北西壁セクション（北東側）

門遺跡（2 区）南西壁セクション



門遺跡（2 区）南東壁セクション

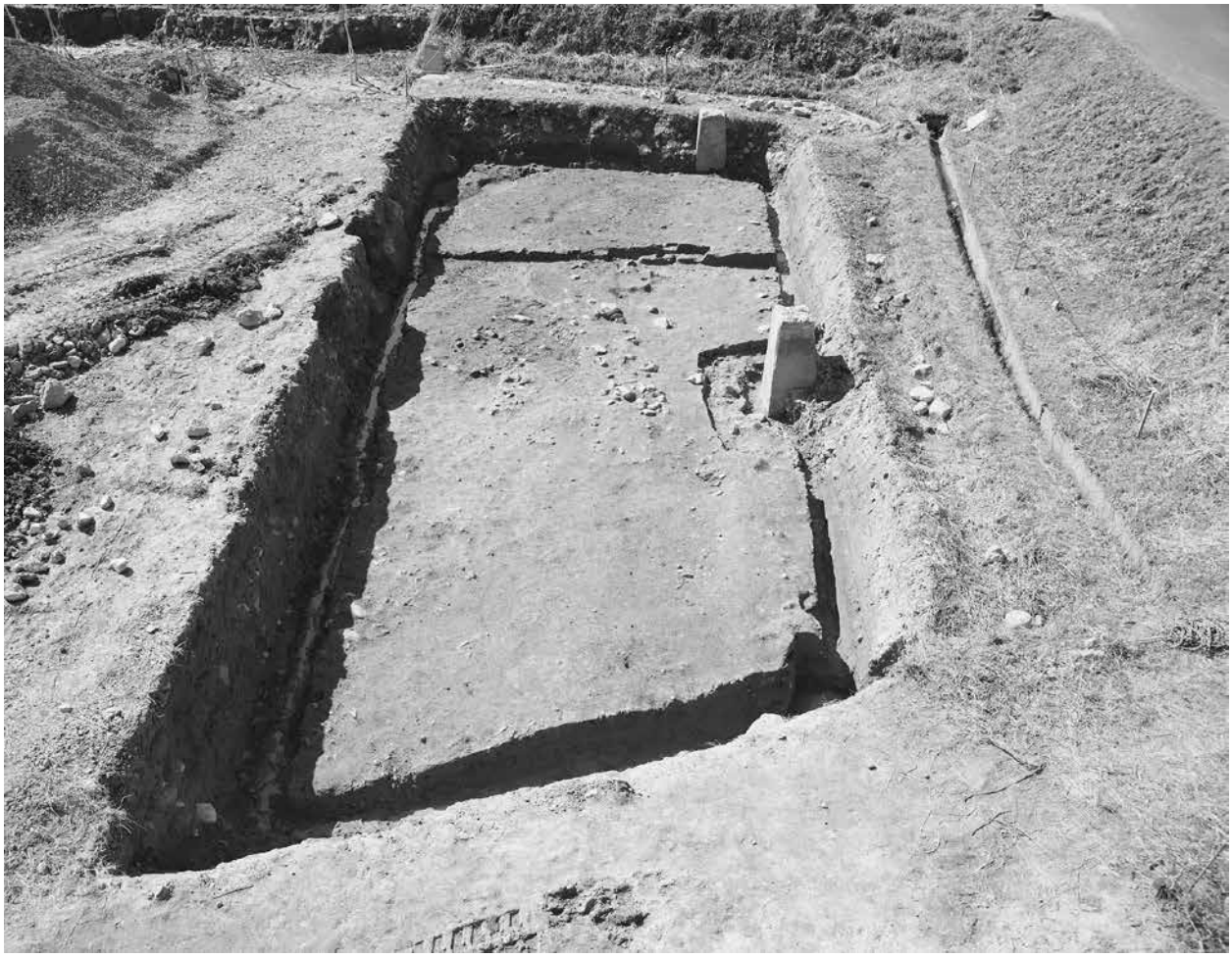
図版 30

門遺跡（2 区）SD01・SD02・SD03 完掘状況

門遺跡（2 区）SD01・SD03 セクション

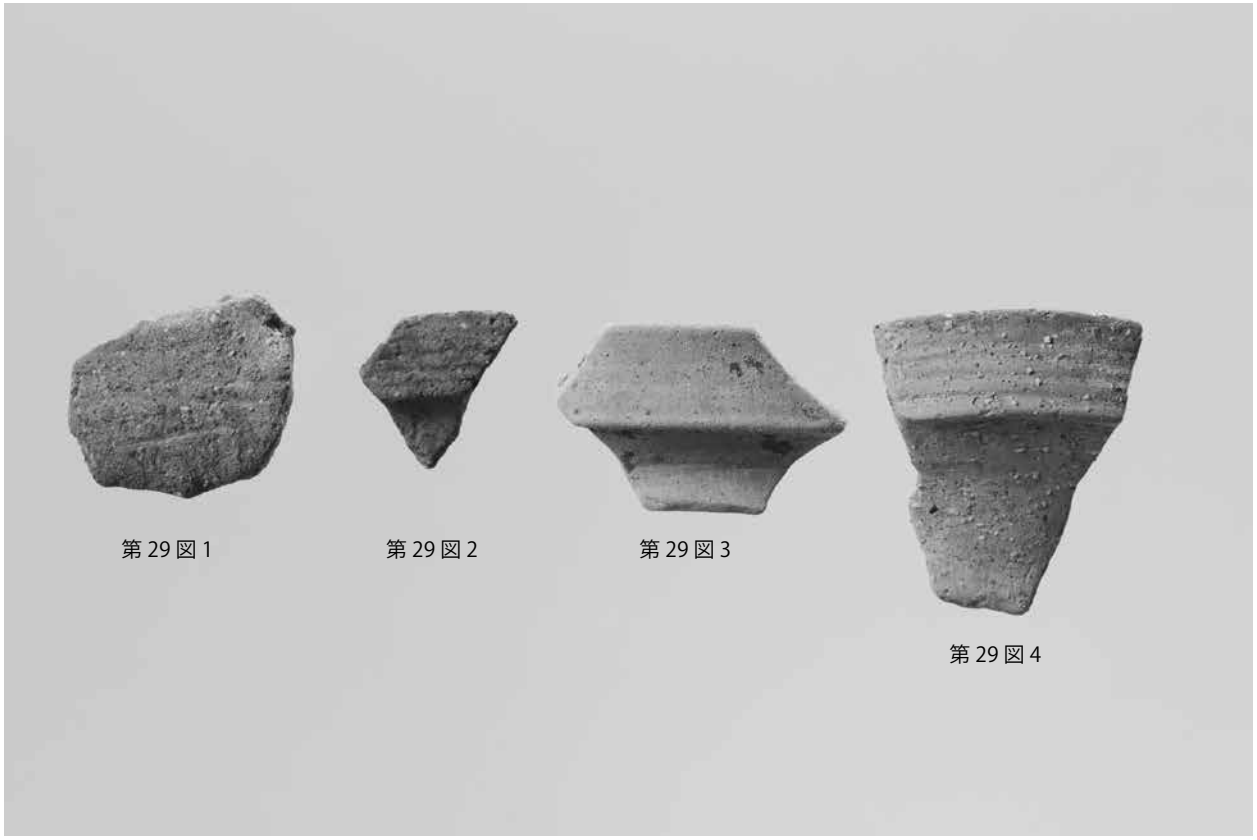
門遺跡（2 区）SD02 セクション

門遺跡（2 区）完掘状況（真上から撮影）

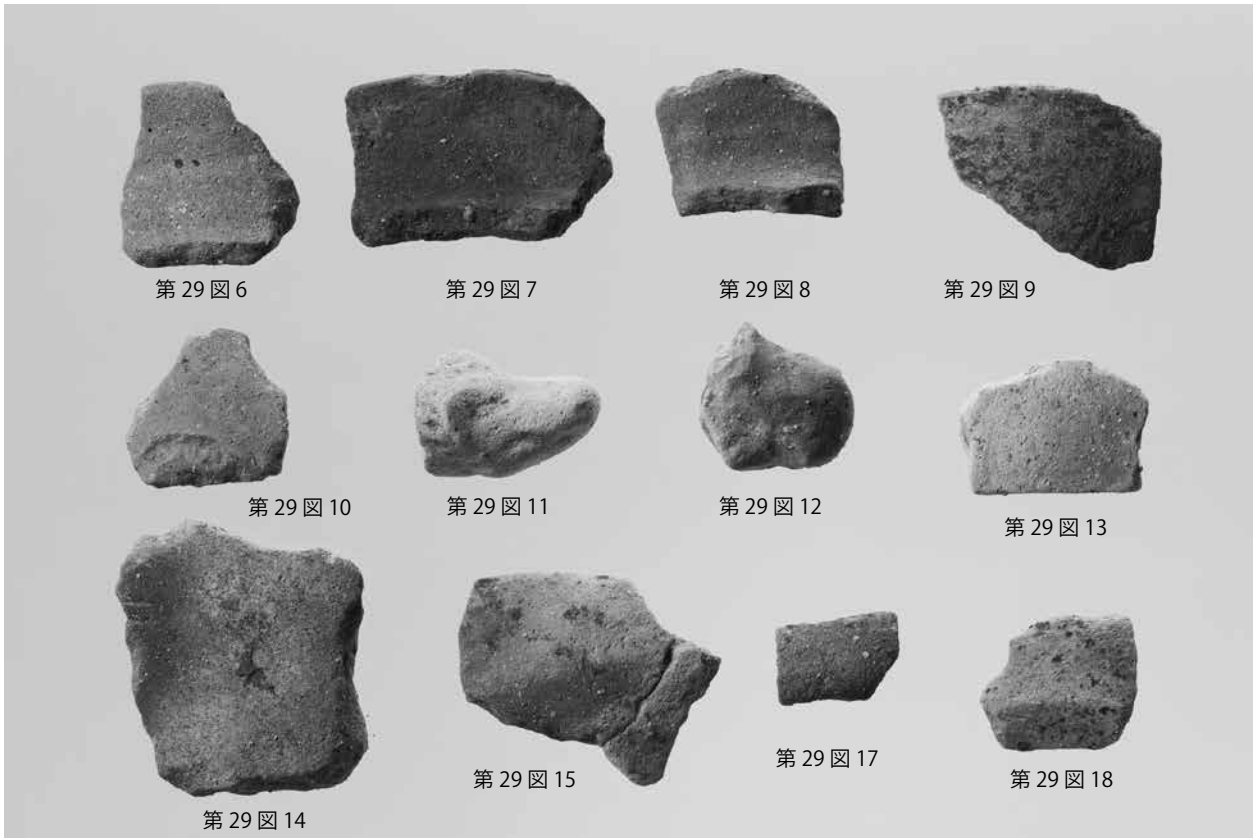


門遺跡（2 区）完掘状況（北東側から撮影）

図版 32



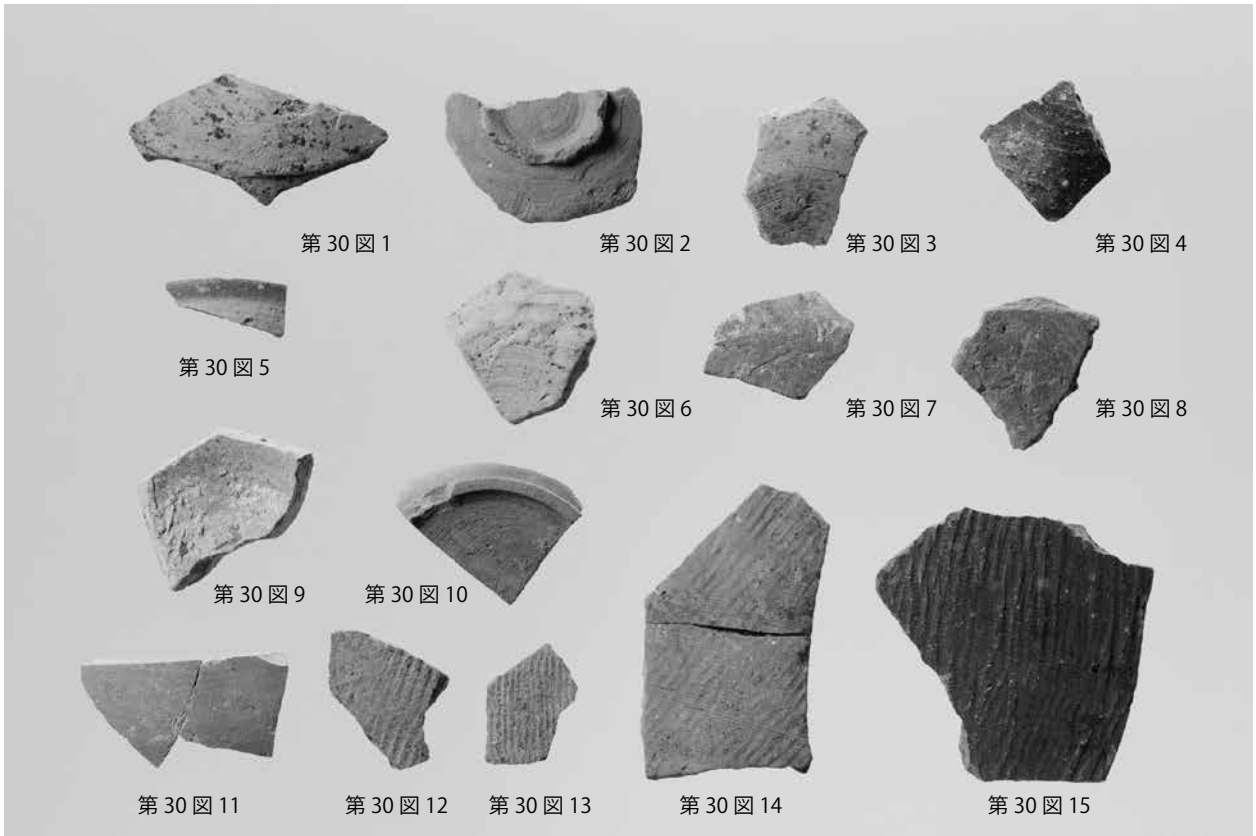
門遺跡（2 区）出土縄文土器・弥生土器



門遺跡（2 区）出土土師器

門遺跡（2 区）出土弥生土器（第 29 図 5）

門遺跡（2 区）出土土師器坏（第 29 図 16）

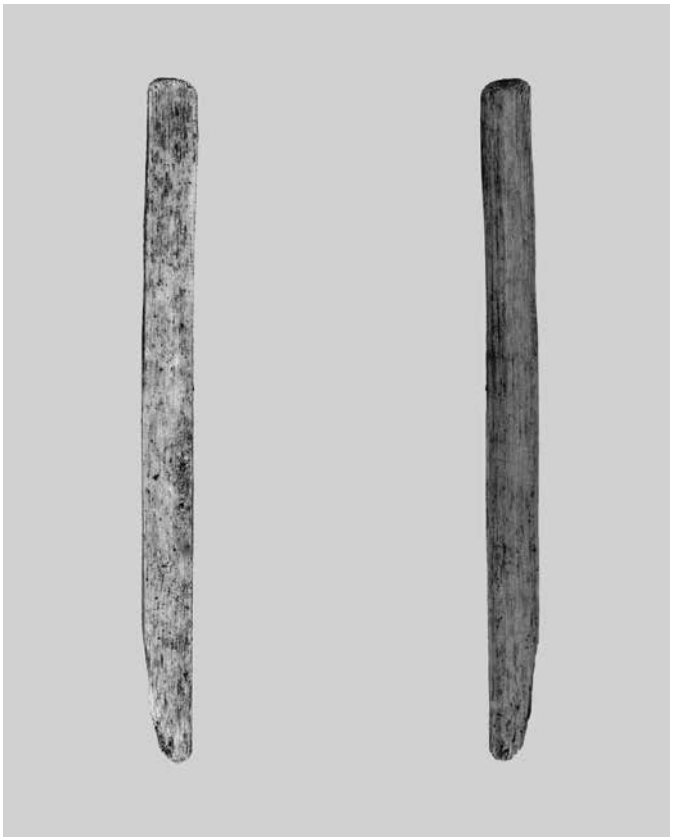


門遺跡（2 区）出土須恵器

図版 34

門遺跡（2 区）出土石皿（第 30 図 16）

門遺跡（2 区）出土木製品（第 30 図 17）



門遺跡（2 区）出土木製品赤外線写真（左：表面・右：裏面）

報告書抄録

ふりがな	たかはらいせき（3 く）・なかおＨいせき（4 く）・かどいせき（2 く）
書名	高原遺跡（3 区）・中尾 H 遺跡（4 区）・門遺跡（2 区）
シリーズ名	一般国道 9 号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	10
編著者名	是田　敦
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
	http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
	E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp　　Tel：0852-36-8608
所在地	〒　690-0131　島根県松江市打出町 33 番地
発行年月日	2017（平成 29）年 6 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
たかはらいせき 高原遺跡 （3 区）	しまねけん　おおだし 島根県　大田市 はねちょう　かみごうち 波根町　上川内	32205	A187	35° 14′ 09″	132° 24′ 56″	20140602 ～ 20150821	1,080㎡	道路建設
なかおＨいせき 中尾 H 遺跡 （4 区）	しまねけん　おおだし 島根県　大田市 くてちょう　さつか 久手町　刺鹿	32205	A362	35° 12′ 51″	132° 30′ 40″	20140811 ～ 20141001	240㎡	道路建設
かどいせき 門遺跡 （2 区）	しまねけん　おおだし 島根県　大田市 くてちょう　さつか 久手町　刺鹿	32205	A361	35° 12′ 58″	132° 30′ 52″	20141001 ～ 20141030	180㎡	道路建設

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高原遺跡 （3 区）	集落跡 その他の墓	中世	掘立柱建物 石塔基壇	陶磁器 石塔部材	法篋印塔と五輪塔の部材を採集
中尾 H 遺跡 （4 区）	散布地	縄文 奈良	河道	縄文土器 石器 木製品	尖頭器が出土 木簡が出土
門遺跡 （2 区）	散布地	弥生 古墳	溝状遺構	弥生土器 土師器 須恵器	

要約

高原遺跡（3 区）では調査例の少ない 16 世紀前半の石塔と基壇を確認し、石造物研究の貴重な資料を得ることができた。

中尾Ｈ遺跡（4 区）では河川流路を検出し、縄文時代から古代の遺物を採集した。特に尖頭器は、大田市域で最も古い遺物であり、貴重な発見となった。また、木簡は、中尾Ｈ遺跡（1 区・2 区）、門遺跡（1 区）での発見に続くもので、これらの遺跡が立地する谷の特殊性を示す。

門遺跡（2 区）では、古墳時代から 7 世紀の住居跡の可能性がある遺構を検出した。門遺跡、中尾Ｈ遺跡、市井深田遺跡が立地する谷の集落の広がりを示す発見となった。

（緯度・経度は世界測地系による）

高原遺跡（3 区）・中尾 H 遺跡（4 区）・門遺跡（2 区）

一般国道 9 号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 10

発　行　2017（平成 29）年 6 月 30 日

発行者　国土交通省中国地方整備局松江国道事務所

島根県教育委員会

編　集　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒 690-0131　島根県松江市打出町 33 番地

電話　0852-36-8608

http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/

印　刷　有限会社松栄印刷